

# 建築と社会

Architecture and Society



特集 東海支部特集

2020 vol.101  
03 No.1176  
日本建築協会

# 若き創造者たちへ

## 「第67回青年技術者顕彰」のご案内

日本建築協会では、昭和29年（1954年）から「青年技術者」を表彰してきました。これは、35才以下の優秀な設計者、技術者、研究者等を対象とするもので、若手建築技術者のいわば登龍門として定着しています。

今年も、青年技術者選考委員会を設けて、これまでどおり、計画・設計・構造・設備・施工およびその他の分野について青年技術者を表彰します。

選考は有職者による選考委員会が行い、選出された方は、本会総会での表彰、「建築と社会」への掲載等を予定しています。建築界の様々な分野で活躍されている皆様の積極的なご応募をお待ちしています。

### 応募提出規定

1. 応募できる人は満35歳（2020年3月30日現在）以下の青年技術者であって、**本会個人会員**に限る。
2. 原則として、すいせん者を併記する。  
すいせん者は被すいせん者（青年技術者）の勤務する組織の上司が上長とする。すいせん者が学校教官である場合はこの限りでない。また本人が組織の代表者である場合は自せんとする。
3. 応募分野は特定しない（建築に関するあらゆる分野を対象とする）。応募者は、たとえば計画、一般設計、住宅・インテリア設計、構造、設備、施工、技術開発、行政、情報、コーディネート等の分野にあって、なしとげたすぐれた実績について、下記の所要資料を1部、本会に期日までに提出する。
4. 提出された資料は「青年技術者選考委員会」において選考する。
5. 「青年技術者選考委員会」において選出された青年技術者は本会総会において表彰し、「第67回青年技術者特集号」（2020年7月号予定）に掲載する。

### 6. 提出資料

#### ■応募用紙

本会事務局で発行、またはホームページからダウンロードしてください。

#### ■略歴

本人の氏名、生年月日、最終学歴、業歴、作品経歴など

### ■選考資料

#### A：業績資料（A、BあわせてA3版6枚以内／書式は任意）

- ① 設計の場合——鮮明な写真、配置図および主要平面図、概要、設計要旨、その他設計内容を説明するに十分な資料
- ② 計画、構造、設備、施工の場合（それぞれの設計計画なども含む）——上に準じた資料
- ③ 上記以外の分野の場合——それぞれの分野にふさわしい資料

#### B：青年技術者の思い

業績資料に記載した業績において、本人が特に貢献した、力量が活かされた、と思われる部分を説明してください。また、本人の建築、都市、環境などに対する考え方、取り組み姿勢や将来展望等についてまとめてください。文字だけでなく必要に応じて図表、写真等も用いてもかまいません。ただし、応募者本人の執筆に限ります。業績資料の中に内容を含めても良いです。（**応募者の考え方を知る上で大変重要と考えていますので、十分配慮をしてください。**）

### 7. 提出期限 2020年3月30日（月）

### 8. 提出先 （一社）日本建築協会「青年技術者選考委員会」

〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31

大阪マーチャングイズ・マート7階

電話 06-6946-6981 FAX. 06-6946-6984

E-mail : jigyoka@aaj.or.jp

### 9. 提出方法 郵送（当日消印有効）または持参

### 10. 青年技術者選考委員会（予定）

委員長 勝山 太郎／(株)日建設計執行役員設計部門  
グループマネージャー

委員 岸田 文夫／(株)竹中工務店開発設計画本部長（西日本担当）

長尾 健／長尾健建築研究所代表

橋本 修／(株)昭和設計執行役員

松原 茂樹／大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻  
准教授

阿蘇品尚士／(株)東畑建築事務所  
執行役員本社オフィス東京代表

北尾 聡子／大阪電気通信大学工学部建築学科准教授

古久保 真／清水建設(株)関西支店設備設計部副部長

小倉 良友／(株)日建設計エンジニアリング部門  
設備設計グループシニアディレクター

山口 善史／(株)大林組大阪本店建築事業部生産技術部長

青木 康造／大成建設(株)関西支店建築部品質管理室長

## 論考コンクール公開プレゼンテーション 中止のお知らせ

3月7日に大阪・綿業会館で開催を予定しておりました第3回論考コンクール公開プレゼンテーションは、新型コロナウイルスによる感染症拡大を受け、参加者の健康、安全面を考慮し、中止させていただくこととなりました。

関係各方面にはご迷惑をおかけすることになりますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

なお、応募論考による最終審査会は予定通り3月初旬に行い、審査結果は「建築と社会」5月号で発表する予定です。

(一社) 日本建築協会 主催

# ドバイ万博視察ツアーのご案内 (第一報)

2025年の大阪・関西万博の直前の万博が中東アラブ首長国連邦のドバイ首長国において今年10月20日から来年4月10日までの日程で開催されます。ドバイ万博のテーマは「心をつなぎ、未来を創る」で、このテーマのもと、「機会 (Opportunity)」「モビリティ (Mobility)」「持続可能性 (Sustainability)」という3つのサブテーマに沿ったアイデアを参加各国が披露するという計画です。

関西に主な活動軸を持つ日本建築協会では、5年後の大阪・関西万博の盛り上げに貢献しこれを成功させることに微力ながら協力したいと考えています。そこで、標記の「ドバイ万博視察ツアー」を企画いたしました。万博会場の視察だけでなく、新旧市街が魅力的に調和するドバイの街を体験することにより、大阪・関西万博のヒントとともに、まちの魅力創出のアイデアまで得ようという有意義で、少々欲張りなツアーにしたいと考えています。

案内役団長には、大阪・関西万博誘致に尽力された橋爪紳也先生にお願いし快諾を得ています。そのほかの視察ツアーの概要は下記のとおりです。日程も決定しています。今後は順次詳細を決め発表してまいりますので、お待ちください。



## 【概要】

日 程；2020年11月29日 (日) 関空出発  
～同12月5日 (土) 関空帰着

視 察 先；アラブ首長国連邦ドバイ首長国  
万博会場、ドバイ市内その他

催行責任者；設楽貞樹 ((一社) 日本建築協会会長)

案内役団長；橋爪紳也 (大阪府特別顧問、大阪市特別顧問、  
大阪府立大学研究推進機構特別教授)

参 加 資 格；建築協会会員優先ですが会員外も参加できます

参 加 人 員；30名 (最少催行人数 未定)

参 加 募 集；今春～今夏 (予定)

参 加 費 用；未定 (極力エコノミーな料金で満足度の  
高いツアーを目指します)



橋爪紳也先生

※ドバイ市内の話題建物見学等魅力的なオプションツアーも複数計画中です。  
順次発表していきますので、ご期待ください

## 民間 (旧四会) 連合協定工事請 負契約約款の改 正および約款委 員会名称の変更 について

2020年 (令和2年) 4月1日施行の  
改正民法に対応し、民間 (旧四会)  
連合協定工事請負契約約款が改正さ  
れますのでお知らせします。

|                   |                                                                                                                                                                                                |
|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ■約款改正日<br>(使用開始日) | 2020年 (令和2年) 4月1日<br>*ご利用できるのは4月1日以降の契約からとなります                                                                                                                                                 |
| ■改正版頒布開始日         | 2020年 (令和2年) 3月上旬                                                                                                                                                                              |
| ■改正の概要            | 民間 (旧四会) 連合協定工事請負契約約款委員会ホームページ掲載文書<br>( <a href="http://www.gcccc.jp/info/201912.pdf">http://www.gcccc.jp/info/201912.pdf</a> ) をご参照願います。                                                      |
| ■その他              | ・頒布価格、販売方法等の変更はありません<br>・「小規模建築物・設計施工一括用工事請負契約約款」、「マンション修繕工事請負契約約款」、「リフォーム工事請負契約約款」につきましても、4月の改正民法施行に合わせて改正版が発行となる予定です<br>・4月1日より民間 (旧四会) 連合協定工事請負契約約款委員会の名称も「民間 (七会) 連合協定工事請負契約約款委員会」に変更となります |

# 建築と社会

Architecture and Society

Journal of the Architectural Association of Japan

日本建築協会

2020 03

Vol.101 No.1176

## ■特集予告

●4月号／建築教育の今(仮)

●5月号／つなぐ(仮)

## 特集 東海支部特集

### ■東海支部会員作品2020

|                              |    |
|------------------------------|----|
| 岐阜希望が丘特別支援学校(2期) 岐阜県福祉友愛アリーナ | 6  |
| いなべ市役所                       | 8  |
| 伊勢市立桜浜中学校                    | 9  |
| 椋山女学園大学附属椋山こども園              | 10 |
| 亀山市立川崎小学校                    | 11 |
| 愛知県国際展示場 Aichi Sky Expo      | 12 |
| ラグーナベイクート倶楽部ホテル&スパリゾート       | 14 |
| 新東工業大治事業所新工場                 | 18 |
| 弥生プライマル大府工場事務所棟              | 20 |
| 大島ビル                         | 21 |
| エヌエスディ株式会社篠原第3工場             | 22 |
| 伏見ミリオン座                      | 24 |

### ■TOKAI Sketch Book

#### ■座談会

|                                                                                                                    |    |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 1: 東海支部復活60年とこれからの支部活動 歴代支部長による座談会<br>●森口雅文、小宮三辰、松本壮一郎、佐伯 博、福田泰造、篠原佳則、河田克博、加藤武範、<br>富田昌志                           | 28 |
| 2: 建築に込める想いと建築技術の発展 ベテラン技術者による座談会<br>●清水 満、針谷俊也、富田彰次、澤村喜久夫、吉岡英一、小柳英治、堀井 晃、角田泰孝、<br>中井孝幸、本梅 誠、野呂和弘                  | 34 |
| 3: 設計者に期待されていること<br>納マリ倶楽部と21世紀委員会による座談会<br>●中井孝幸、久保久志、松下拓真、三宅伸幸、鈴木豊一郎、小杉嘉文、佐藤 剛、鶴飼浩平、<br>篠原佳則、富田昌志、吉田祥子、若林 亮、塩田哲也 | 38 |

### ■特集Ⅰ 建築がつなぐ都市、地域、まちの記憶 第3回

|                                                          |    |
|----------------------------------------------------------|----|
| 1: 岐阜市・「じゅうろくてつめいギャラリー」 ●中井孝幸                            | 42 |
| 2: 旧岐阜貯蓄銀行本店(現じゅうろくてつめいギャラリー)の<br>むかしといま 建築概要と活用事例 ●清水隆宏 | 43 |
| 3: 銀行から学習活動の発表の「ハレ」舞台へ ●中井孝幸                             | 46 |

### ■特集Ⅱ 納マリ倶楽部

|                                                                            |    |
|----------------------------------------------------------------------------|----|
| 東海支部青年委員会における30代前後の若手設計者の活動報告<br>●中井孝幸、久保久志、三宅伸幸、鈴木豊一郎、小杉嘉文、鶴飼浩平、本間千尋、李 斯奇 | 48 |
|----------------------------------------------------------------------------|----|

### ■東海の建築：内装(おもてなし)

#### ■東海支部だより

|                               |    |
|-------------------------------|----|
| 北陸三県建築の旅 事業委員会による国内視察旅行 ●平真知子 | 56 |
|-------------------------------|----|

|                   |                                                                                                                                                                          |        |
|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 会告                | 若き創造者たちへ「第67回青年技術者顕彰」のご案内<br>論考コンクール公開プレゼンテーション中止のお知らせ<br>ドバイ万博視察ツアーのご案内(第一報)、民間(旧四会)<br>連合協定工事請負契約約款の改正および約款委員会名称<br>の変更について<br>第6回建築セミナー 健康・快適なZEHのつくり方<br>工務店と設計者の新常識 | 1<br>2 |
| gallery           | アートに触れる方法 ●稲垣元則                                                                                                                                                          | 4      |
| 法令コーナー            | 国宝・重要文化財(建造物)等の<br>防火対策ガイドラインについて ●手嶋一了                                                                                                                                  | 58     |
| 再読<br>関西の建築       | 法輪寺三重塔 ●目黒新悟                                                                                                                                                             | 59     |
| 構造の頁              | 構造と融合した重厚感あるファサード 医療法人林病院<br>●平野浩二                                                                                                                                       | 63     |
| Member's<br>Forum | U-35委員会企画 talk baton 16 活動報告                                                                                                                                             | 64     |
| information       | 古典×現代2020 時空を超える日本のアート／日本・<br>ポーランド国交樹立100周年記念 ポーランドの映画ポ<br>スター／コートールド美術館展 魅惑の印象派／神田日<br>勝 大地への筆触                                                                        | 66     |
| 月間の動き             | 2020年1月                                                                                                                                                                  | 68     |

## 今月の表紙

撮影者：佐藤 稜(さとう りょう)

撮影場所：大阪府立中之島図書館

撮影時期：2018年8月

写真について

外観はルネサンスを、内部空間はバロックを  
基調として設計された大阪府立中之島図書館  
である。ドームの形状に合わせた円型壁面と  
階段の曲線、さらに柱や照明の意匠といった  
様々なデザインの調和が図られている。

## アートに触れる方法

美術作家

稲垣 元則

近年、街なかでアート作品を発表・展示する機会が多く、普段あまりアートに対して興味がない人にどのように紹介できるのかをよく考えます。  
どの街にもアートのためのホワイトキューブの空間があるわけではなく、作品を最良のかたちで見せることは簡単ではありません。  
また自らの意思でギャラリーに入ることや能動的な鑑賞を求めることなく、アートに接することのできる環境づくりから始めなければならないと考えています。  
ここで紹介するのは、アートを最善のかたちで建築や街の環境に落とし込み、日常の中で不意にアートに出会えるような状況づくりです。そしてその環境を持続～更新することで、各々の感受性を芽生えさせ育むことができればと思っています。

写真：

上、長崎県佐世保市での市場内にある空き店舗を使った作品 2014年

左、カコイバ 茨木市市民会館跡地仮囲いART PROJECT 2019年（市民参加の言葉のアート作品）

右、SOU-JR総持寺駅アートプロジェクト 第3回展示 2018年～

（左、右はOne Art Projectとして企画運営）

稲垣 元則（いながき もとのり）

1971 京都市生まれ

1994 大阪芸術大学美術学科卒業

関西を中心に個展・グループ展多数

させばアートプロジェクトや龍野アートプロジェクト、HUB-IBARAKI ART PROJECTなどの地域アートプロジェクトに参加

パブリックコレクションに東京オペラシティアートギャラリー、国立国際美術館

近年は自治体主催のアートプロジェクトのディレクションも行う

<http://motonoriinagaki.com/>

企画編集：稲垣和江（作品作風小委員会）



# 東海支部会員作品2020

岐阜希望が丘特別支援学校（2期）岐阜県福祉友愛アリーナ

いなべ市役所

伊勢市立桜浜中学校

椋山女学園大学附属椋山こども園

亀山市立川崎小学校

愛知県国際展示場 Aichi Sky Expo

ラグーナペイコート倶楽部ホテル&スパリゾート

新東工業大治事業所新工場

弥生プライマル大府工場事務所棟

大島ビル

エヌエスディ株式会社篠原第3工場

伏見ミリオン座

『建築と社会』東海支部特集特別編集委員会

委員長：篠原佳則

特集記事担当委員：中井孝幸、塩田哲也

作品作風担当委員：土井敬三、今井 亨

支部だより担当委員：松元親司、今津芳清

委員（順不同）：河田克博、福田泰造、佐伯 博、加藤武範、富田昌志、本梅 誠、宮丸孝史  
吉田祥子、西澤太良、芳山明久、野呂和弘、澤田康司、片山友美、服部昇平

所在地 岐阜県岐阜市則武新屋敷鷺山向井地内  
敷地面積 30,308.10㎡（施設全体）  
建築面積 12,333.36㎡（施設全体）  
延床面積 19,784.88㎡（施設全体）  
構造規模 RC造、地上2階  
工期 2014年3月～2015年7月（1期）2019年3月（2期）  
最寄駅 JR東海道本線 岐阜駅  
撮影 滝田良彦／滝田フォトアトリエ



（2階福祉友愛アリーナ、1階特別支援学校体育館、右手に学校及び子ども医療福祉センター）



特別支援学校「学びの庭」から体育館とアリーナを見る

# 岐阜希望が丘 特別支援学校（2期） 岐阜県福祉友愛アリーナ

建築主 岐阜県  
 設計 安井・サニー設計共同体  
 監理 葵建築設計事務所  
 施工 建築：大日本・共栄・東JV  
 電気：松本電気設備  
 機械：ユニオン・安田電暖JV

希望が丘こども医療福祉センター、岐阜希望が丘特別支援学校、福祉友愛アリーナの2期整備である。岐阜県における障がい者のための医療・福祉・教育・スポーツの一大拠点として2階建てで一体的に整備した。  
 こども医療福祉センターは肢体不自由児のほか発達障がい児を対象とした外来・リハビリ・手術・病棟のほか母子訓練や福祉相談などを設け、多様な子どもの状態に対応できる施設としている。  
 特別支援学校は小・中・高の一貫した教育に対応し、障がい児の就労など社会参加を視野に入れている。今回整備した体育館はステージ高400mmと抑え、両脇及びステージ裏にスロープを設けて肢体不自由児が安心して便利に使用できる計画としている。  
 学校体育館上部に障がい者向けに福祉友愛アリーナを設置した。2台の大型エレベーターにて1階玄関及び更衣室と連絡している。大きな建築ヴォリュームを3施設及びエリア全体でのシンボルとしてデザインした。

（篠原佳則／安井建築設計事務所、野辺昭三／サニー建築設計）

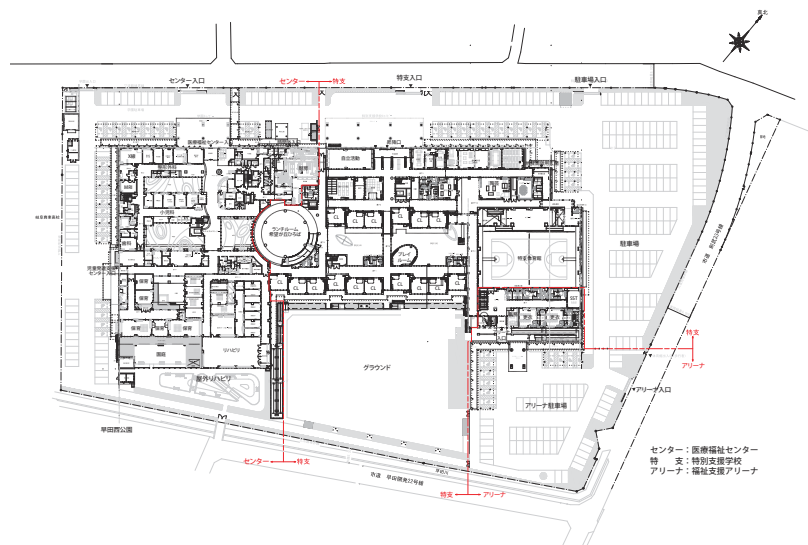
※2016年3月号に関連記事あり



2階福祉友愛アリーナ



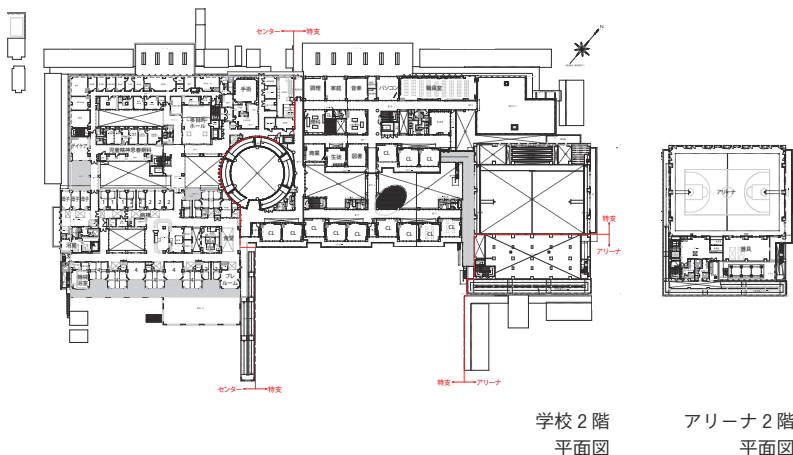
福祉友愛アリーナ1階受付事務室と更衣室前廊下



配置図 1階平面図



1階特別支援学校体育館



学校2階  
平面図

アリーナ2階  
平面図



特別支援学校ジャグジープール

# いなべ市役所

建 築 主 いなべ市  
設計・監理 日建設計  
施 工 大成建設

既存の樹木や地形を最大限に残すと共に、低層かつ分棟の建物計画とすることで周辺環境にも調和する建物を目指した。庁舎は「行政棟」「議会棟」「シビックコア棟」「保健センター棟」で構成し、各棟をつなぐように大庇「Baum」を架け、これに隣接するように「にぎわいの森」を計画した。「シビックコア棟」は会議室等を集約した建物であり、分棟化することで休日や夜間でも市民が利用しやすくした。「Baum」は市民向けのイベントやマルシェなどを行う広場に架けた大庇で、既存の柱に呼応する人工の柱をイメージして計画した。「にぎわいの森」は既存の柱を活用した商業施設群であり、地場の食材などを使用した商品を提供し、市の魅力を発信している。これらは人口の減少と高齢化を踏まえたまちづくりを行う拠点となるとともに、休日や庁舎に用事が無くても市民が日常的に集う本来の意味での「公共建築」として機能することを狙っている。

(小谷陽次郎、廣瀬文昭、山口智三／日建設計)



奥側：「庁舎」、手前側：「にぎわいの森」



外部から行政棟内を見る



大庇「Baum」

所 在 地 三重県いなべ市北勢町阿下喜31番  
敷地面積 36,105.57㎡  
建築面積 8,956.53㎡  
延床面積 15,479.67㎡  
構造規模 RC造 一部 SRC造・S造、地上2階 地下1階  
工 期 2016年12月～2019年3月  
最 寄 駅 三岐鉄道北勢線 阿下喜駅  
撮 影 株式会社鈴木文人写真事務所

# 伊勢市立桜浜中学校

建築主 伊勢市

設計・重点監理 日建設計・東伸周ARC設計 特定設計業務共同企業体

一般監理 山本設計

施工 校舎：船谷・伊藤・富士 特定建設工事共同企業体  
屋内運動場：吉川・宮本 特定建設工事共同企業体

## ■伊勢の大地に浮かぶクラスター型校舎

ー生徒と先生と地域を守る学校ー

津波最大浸水想定レベルを想定した第二の大地伊勢湾から程近くの伊勢平野に、伊勢市内の2中学校が統合して開校した新しい中学校である。昇降口、普通教室、職員室、屋内運動場といった主要諸室を津波の最大浸水想定レベルを超える2階に配置し、多目的ホール、調理・被服実習室を3階に併設していることがこの学校の最大の特徴といえる。さらに、非常用発電機・キュービクル・受水槽を2階以上に配置し、停電時には、非常用発電機のほか、太陽光発電パネルの発電電力も利用可能な仕組みを取り入れた。災害時には屋内運動場、多目的ホール、調理・被服実習室を開放することで、地域の方を含めた避難拠点として利用可能とした。

## ■2校で育まれてきた想いをつなぎ、育む学校

ーまとまりを保ち交流を促すクラスター配置ー

学校は、中庭を挟み込んでクラスター状に配置した校舎と屋内運動場からなる。統合中学校として学年を超えた交流を促すために、校舎2階中央に、図書室とPC教室を兼ねたメディアギャラリーを設け、メディアギャラリーを中心として3学年を1フロアに配置した。さらに学年別の専用トイレ・オープンスペースを備えることで、学年ごとにまとまりある配置計画とした。

メディアギャラリーは、自然に本や電子メディアに触れたり、職員室が面する配置とすることで先生とのコミュニケーションがとりやすい設えとし、生徒らの自主的な学習の場を創出した。

各棟間には木々が植わる中庭を設け、自然通風・採光が校舎内に行きわたる。各教室や共用部からは場所により異なる景色を望むことができ、木質の仕上げ材に包まれた内装など、落ち着いて快適に学習できる環境を整えた。さらに、生徒や先生の利用頻度が高い、渡り廊下やトイレの壁・天井の一部に癒し効果やリフレッシュ効果のあるビタミンカラーを配色し、室内に居ながらも生徒や先生の心と体が元気になる仕掛けづくりを試みた。メディアギャラリーにはエコパネルという環境データ表示装置を設けており、太陽光発電パネルの発電電力等を表示することで、エコの見える化を行い、環境学習のきっかけとなる仕組みを取り入れている。

## ■豊かな伊勢平野の風景に調和する学校

ー「生成りの精神」のデザインー

伊勢市都市マスタープランにおける都市づくり理念である、『素朴で美しい伝統的な姿を守り育ていく「生成り」の精神』を尊重し、外観は田畑の広がる風景に調和するアースカラーを基調とし、地層のように幾重にも重なるのびやかな構成とした。かつての田園風景に囲まれた豊浜中学校を表す稲穂色、伊勢湾岸沿いに位置した北浜中学校を表す海岸線の白砂色、新しい校名を表す桜色の3色が带状に重なる外観とすることで、2中学校の歴史を継承し、新しい歴史を積み重ねていくことを表現した。

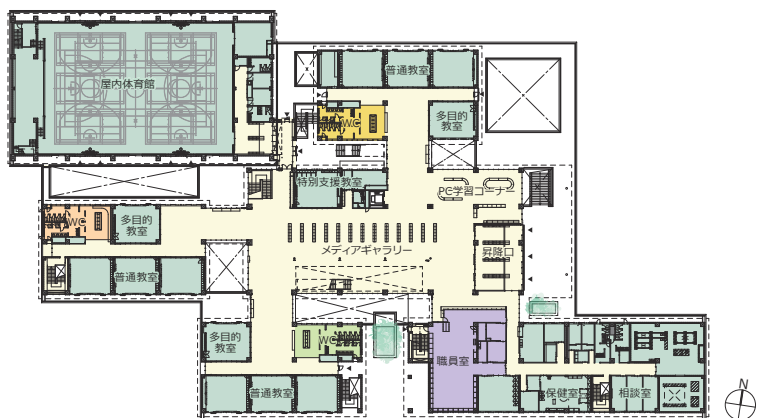
(小谷陽次郎、奥宮由美、眞庭 綾、田中裕大／日建設計)



生徒を迎える正面玄関



学習とコミュニケーションの中心となるメディアギャラリー



1階平面図 縮尺1/1,500

所在地 三重県伊勢市  
敷地面積 37,603.71㎡  
建築面積 7,279.22㎡  
延床面積 11,079.75㎡  
構造規模 RC造一部SRC・S造 地上3階  
工期 2017年7月～2018年12月  
最寄駅 おかげバス 東大淀ルート「植山町」バス停  
撮影 川合写真事務所



田畑の広がる風景と調和し伸びやかに広がる校舎

# 梶山女学園大学附属 梶山こども園

建 築 主 学校法人 梶山女学園  
設計・監理 日建設計  
施 工 矢作建設工業

大学のキャンパスの隣に建つ、幼保連携型認定こども園である。  
キャンパス沿道からつづく桜並木を保存し、建物を雁行させて桜のトンネルを通り抜けるアプローチを計画した。敷地いっぱいに広がる屋根は住宅スケールに分節し、大学の大きな建築群と裾野に広がる戸建住宅群をつなぎ、街並みの連続性を創出した。  
内外装には自然素材を多く採用し、あえて表情にばらつきを持たせた。こども一人ひとりに異なる個性があるように、ムラやばらつきが味と感じられる、素朴でおおらかな建築を目指した。

(塩田哲也、金子公亮、矢吹和也／日建設計)

所 在 地 愛知県名古屋市名東区  
敷地面積 2,065.42㎡  
建築面積 1,025.60㎡  
延床面積 969.10㎡  
構造規模 W造、地上1階  
工 期 2018年7月～2019年2月  
最 寄 駅 地下鉄東山線 星ヶ丘駅  
撮 影 株式会社鈴木文人写真事務所\*、株式会社エスエス名古屋支店\*\*



イエ型を用いた愛嬌のある外観とし“もう一つのお家”となることを目指した\*



天井は稜線が開いていく寄棟形状とし、隙間に間接照明を設置し柔らかな空間を演出した\*



既存の桜並木を活かした情緒溢れる景色のトンネルを抜けて各保育室へとアプローチする\*\*



全景

# 亀山市立川崎小学校

**建築主** 亀山市  
**設計・監理** 東畑建築事務所  
**施工** 堀田建設・白川建設

亀山市北東端に位置する小学校における、児童数増加による教室不足と校舎老朽化を解消するための改築事業である。改築テーマ「地域の中で育つ川崎っ子、地域が育てる川崎っ子」を念頭に、児童の豊かな学びや育ちに寄与し、人・学校・地域をつなぐ「ひろばのある学校づくり」を設計コンセプトとし、地域と学校が密な関係を築き、互いに学び・育ちあえる学び舎づくりを目指した。設計時には教職員や地域住民とのワークショップを計17回開催し、ゾーニングや学校と地域が連携した使い方について議論をするとともに、地域のお祭りでも毎年ブースを出展し、新しい学校づくりを積極的にPRした。

配置としては、敷地中央・昇降口横に地域の居場所となる活動拠点「ふれあい活動室」があるのが特徴的であり、加えて「内の広場」「外の広場」「屋根のある広場」などの屋内外の活動スペースを敷地内に散りばめている。「内の広場」は2層吹抜の多目的ホールであり、その周囲に回遊性を持って配置された特別教室や図書館を「共有ゾーン」と位置づけ、学校・地域の双方が活用しやすい構成としている。また、段階的にプライベートな普通教室ゾーンへと移行するゾーニングとし、児童の落ち着いた学習環境も合わせて確保している。

（高木耕一、柱健太郎、前田千晶／東畑建築事務所）



ふれあい活動室



内の広場

**所在地** 三重県亀山市能褒野町77番地22  
**敷地面積** 23,358.26㎡  
**建築面積** 5,185.18㎡  
**延床面積** 7,905.14㎡  
**構造規模** RC造（一部S造・SRC造）地上2階  
**工期** 2016年6月～2019年2月  
**最寄駅** JR関西本線 井田川駅  
**撮影** 土面彰史／tonomo photo+



図書館

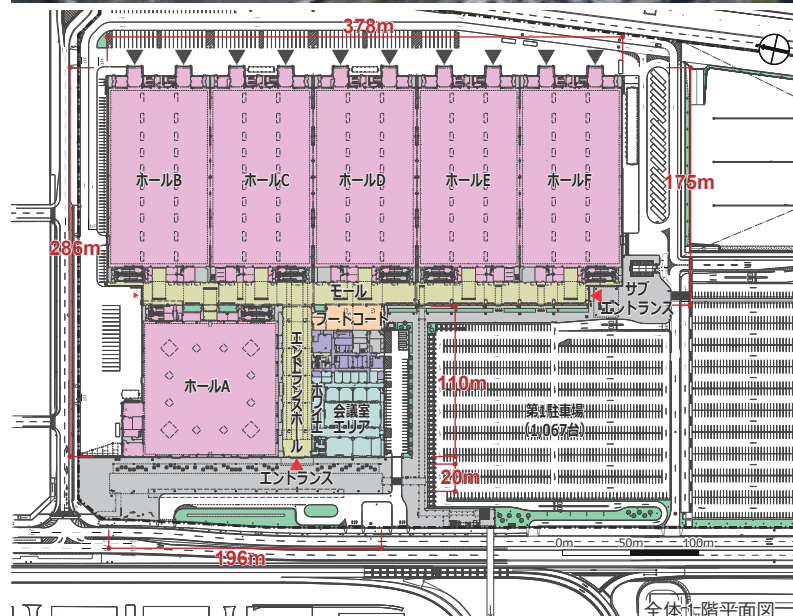
# 愛知県国際展示場 Aichi Sky Expo

建 築 主 愛知県  
設計・施工 竹中工務店  
監 理 日本設計

愛知県が整備し、「コンセッション方式」で民間の事業者が期間15年間にわたり施設を運営する、国内初の国際空港直結型の展示場である。展示面積は、国内最大級60,000㎡を有し、展示ホールAは、展示面積10,000㎡・100m×100m×高さ20mの無柱大空間で、音楽コンサートも対応可能である。展示ホールB～Fの5つのホールは、最大50,000㎡までを一体利用可能な高さ14mの大空間としている。また、国内初となる常設の保税展示場であり、出展者の利便性向上に配慮されている。環境面では、展示場として初めてCASBEE SランクとZEB Readyを実現した。長さ200mのエントランス大庇には垂直型壁面緑化「パーティカルフォレストⅡ」を設え、環境デザインを視覚化するとともに、内外で愛知県産資材を積極的に採用し、「ものづくり愛知」をアピールしている。

(河辺晴重・本多英行・望月孝信／竹中工務店)

所 在 地 愛知県常滑市セントレア  
敷地面積 280,265.39㎡  
建築面積 88,643.40㎡  
延床面積 89,693.38㎡  
構造規模 S造、地上2階  
工 期 2017年9月～2019年6月  
最 寄 駅 名鉄空港線 中部国際空港駅  
撮 影 株式会社エスエス

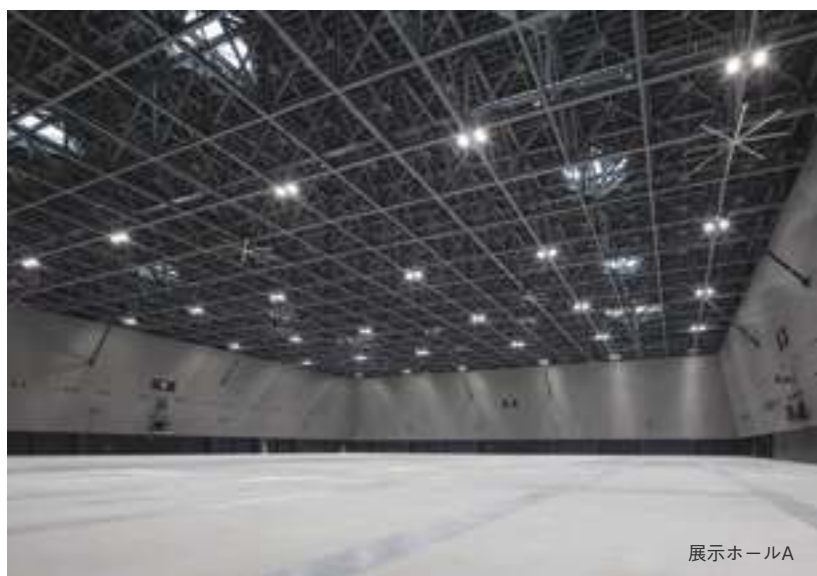




西側外観



モールの愛知県産杉材ルーバー天井とベンチ



展示ホールA



光庭



展示ホールB～F

# ラグーナベイコート倶楽部 ホテル&スパリゾート

建 築 主 リゾートトラスト  
設計・監理 安井建築設計事務所  
施 工 鹿島建設



海洋リゾート地区であるラグーナ蒲郡地区に2019年3月に開業した完全会員制リゾートホテル。

“Futuristic Luxury”をコンセプトとし、今まで見たことがない新しい空間の創出、先進性のあるラグジュアリーを目指した。

総延長400mの建物は海岸線に沿った緩やかな曲線状の外観とし、大きな水盤に浮かぶように構成して、海との一体感を持たせている。138m幅の大開口とそれを支えるV字柱の架構とともに、エレガントさとダイナミックさを併せ持つフォルムを実現した。

ロビー、レストラン等は、季節や時間や天候によって様々な表情で魅せる水盤を中心に円周上に配置されており、インフィニティエッジを持つ水盤は、建物に穿たれた大開口により切り取られた海と連続し、それを取り囲むように配置された建築空間にきらめく光と揺らめく波に包まれるような幻想的なシーンをもたらしている。

素材やインテリアはこの空間と融合するように、光きらめくような光沢感にこだわりながら有機的なカーブを用いたしなやかな美しさのあるデザインとしている。

基本設計の段階から建築設計者を中心にインテリアデザイナー、ランドスケープデザイナーが参画し、施工者も加わり竣工に至るまで一つのチームとして協働し、建築とインテリアが融合した“唯一無二のFuturistic Luxury”を創出させている。

(井上孝成・清水満・川井茂輝・藤村篤／安井建築設計事務所)



① 海と一体化した水盤と朝焼け



② 全景



③ ゲート



④ 車寄せ



⑤ 海岸線に調和した外観



⑥水盤（中国料理レストラン）



⑦客室

所在地 愛知県蒲郡市海陽町二丁目9-1  
 敷地面積 52,264.50㎡  
 建築面積 12,476.06㎡  
 延床面積 36,700.21㎡  
 構造規模 RC造、一部S造、一部SRC造  
 地上7階、地下1階、塔屋1階  
 工期 2016年6月～2019年1月  
 最寄駅 JR東海道線 三河大塚駅  
 撮影 黒住直臣（下記以外）  
 ナカサアンドパートナーズ（⑦⑧）  
 リゾートトラスト提供（②）



⑧階段ホール



# 新東工業大治事業所新工場

|          |   |   |               |
|----------|---|---|---------------|
| 建        | 築 | 主 | 新東工業株式会社      |
| 計画・監修・監理 |   |   | 生活工房仙一級建築士事務所 |
| 設計       |   |   | 銭高組一級建築士事務所   |
| 施工       |   |   | 銭高組名古屋支店      |



外観 南東面



外観 北東面

名古屋の西部、大治北ICに程近い、濃尾平野を流れる2級河川福田川のほとりに当建物の計画地がある。

外観は事業コンセプトの一つでもある「クリーンな工場」を感じさせる、清潔感のある白を基調とし、東面の外壁上部にブランドデザインである絆やHeart、情熱を表す赤と、金属に関わる企業としての品質に対する強いこだわりを表すグレーのボーダーが際立つ明快なデザインとした。

敷地中央に位置する当建物は、工場・事務所機能を備えるほか、南側4階建ての既存建物と、北側2階建ての既存建物とを、最大長さ10m以上の片持ち構造の渡り廊下でつなぐ工場内動線のプラットフォームとしての機能も兼ね備えている。

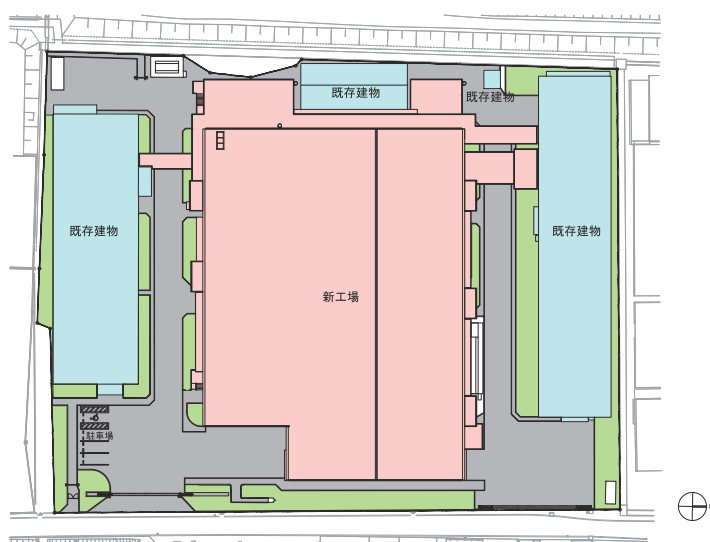
1階床レベルは、浸水等の被害から生産設備や製品を守るだけでなく、地域住民の一時避難の受入れも視野に入れ、平均地盤面より1m高く設定している。

2階から4階の事務所スペースの一角に配置した吹き抜け空間は、社員同士のコミュニケーションやイノベーションを生み出す場など、様々な拡張性を秘めた場となることを意図して計画した。

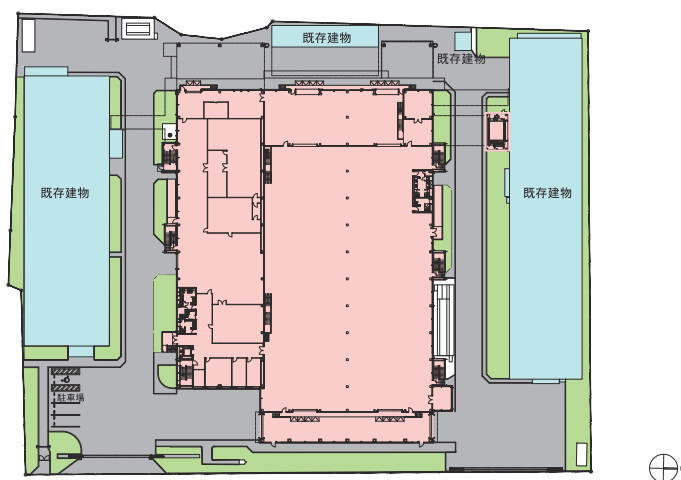
敷地内・建物内部には、車椅子使用者用駐車場や段差解消機、多機能トイレなども完備し、バリアフリーにも配慮された、人に優しい工場を実現している。

基本計画、実施設計、施工段階において、事業主と密な打合せを経て決定されたデザイン・機能等が集約された建物であり、今後建設される工場のモデルとして位置付けられ、末永く利用されることを期待します。

(半田昌樹、廣瀬武馬、末次周／銭高組一級建築士事務所)



配置図



1階平面図

所在地 愛知県海部郡大治町大字西條字附田71番地の2

敷地面積 11,473.01㎡

建築面積 4,485.28㎡

延床面積 10,294.94㎡

構造規模 S造、地上4階

工期 2019年3月～2019年12月

最寄駅 名鉄津島線 七宝駅

撮影 相羽光徳



2階吹き抜けバルコニー



2階事務所



4階バルコニーより吹き抜けテラスを見下ろす



既存建物の一部を食堂に改修



外観南面

## 弥生プライマル大府工場事務所棟

**建築主** 弥生プライマル株式会社  
**設計・監理** 伊藤建築設計事務所  
**施工** 伊藤工務店（建築・機械設備工事）、川北電気工業（電気設備工事）  
**施工協力** 杉村塗装、テクニカルシステム社、小池商事、ツジタ、竹甚板硝子、不二サッシ東海、アクト、安成工業、東芝エレベーター中部支社、豊建、森定興商、藤本鉄筋工業所

弥生プライマル株式会社は大府市に拠点を置く電設資材、電力・産業向け構造物、架台・ケーブルトレイ・配電盤の製造・販売を行う会社である。大府工場内の事務所棟老朽化に伴い建替えを行うこととなった。

近接する伊勢湾岸自動車道や国道23号線北崎ICからの視認性を考慮し南面をメインファサードとした。西日対策を兼ねた縦リブとガラスのコントラストによりのびやかでシャープな印象のデザインとしている。南面に設けた開口により、明るく開放的な執務空間とし、東西面の開口を制限した北側コアとして環境負荷低減を図る計画としている。西側来客用エントランスと既存工場床レベルとでは約2mの高低差があるがエントランスに設けた階段とエレベーターでレベルを解消し、エントランスと通用口と既存工場とをスムーズな動線で繋げる計画とした。敷地周囲は4m程度の狭小道路に囲まれているが天空率を用いることで道路斜線制限を緩和し、敷地を有効活用する配置計画を実現した。

（高北卓軌／伊藤建築設計事務所）

**所在地** 愛知県大府市北崎町井田31-1  
**敷地面積** 6,249.30㎡  
**建築面積** 402.24㎡  
**延床面積** 1,149.79㎡  
**構造規模** S造、地上3階  
**工期** 2017年10月～2019年8月  
**最寄駅** JR東海道本線 共和駅  
**撮影** スタジオセゾン



西面エントランス



2F事務室



外観写真

# 大島ビル

建 築 主 大島嘉七  
 設計・監理 株式会社伊藤建築設計事務所  
 施 工 六合株式会社  
 株式会社バイオニアテック  
 株式会社富士総合設備事務所  
 東洋空調株式会社

所 在 地 愛知県名古屋市中区栄一丁目1026番  
 建築面積 258.98㎡  
 延床面積 766.75㎡  
 構造規模 S造、地上4階  
 工 期 2018年10月～2019年5月  
 最 寄 駅 地下鉄東山線 伏見駅  
 撮 影 株式会社リフレクト

既存社屋の建て替えを行った。建屋を敷地奥側にコンパクトにまとめた配置計画とし、駐車台数を確保するとともに既存のクスノキ・サクラ、竹等の植栽を残すことで都市部の中でも緑豊かな景観とした。  
 建屋の両端に袖壁を設けて隣地からの延焼を防ぎ、カーテンウォールの防火設備を免除することで、構成部材を細くし開放感の向上と換気用縦型スリット窓による自然通風を可能にした。  
 内装はモノトーンを基調とし、一部天井や床に木や緑を取り入れることで広がりのある明るい空間とした。また2階事務室内には天井を一部折り下げたラウンジスペースを設け、社員の憩いの場とコミュニケーションを誘発する環境づくりを行っている。

(犬飼高嘉、松本拓也／伊藤建築設計事務所)



1階 エントランスホール



2階 ラウンジ

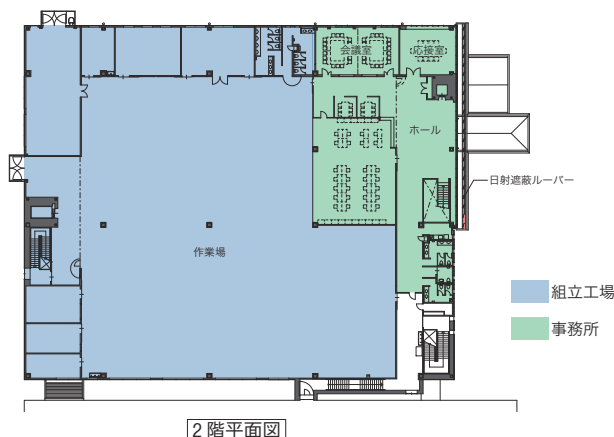
# エヌエスディ株式会社 篠原第3工場

建 築 主 エヌエスディ株式会社  
設計・監理 伊藤建築設計事務所  
施 工 ナカノフドー建設

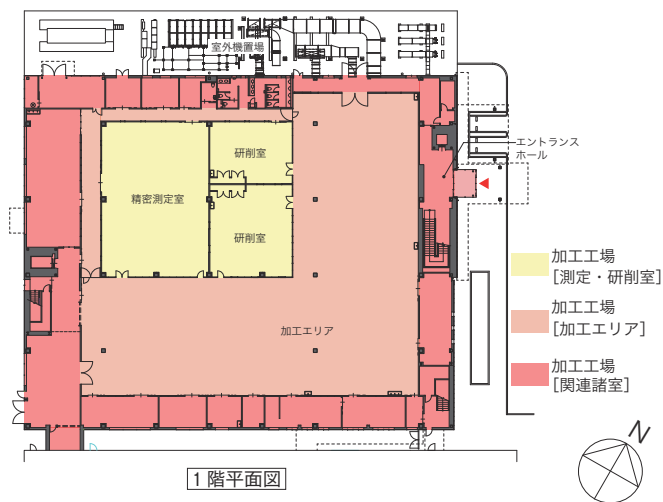
篠原工場はセンサやアクチュエータ等を設計・製造する工場である。ここで製作される位置検出システム“アプソコーダ®”は国内外のあらゆる製造業の製造設備の位置決め装置として広く使われている。センサの製造には高い精密機械加工能力、組立精度の精緻化、納期短縮を求められており今回の新工場を建設することとなった。

1階は加工工場、2階は組立工場と事務所を配置した。加工工場の加工エリア、研削室、精密測定室には温度・湿度制御、振動対策と床の水平精度の確保が求められた。高い温度制御を実現するために建物外皮の高断熱化に加え、加工エリアの周囲には外気温の影響を抑える緩衝帯として関連諸室を設けた。また、さらに高い温度・湿度制御が必要な研削室、精密測定室は空調された加工エリアの中に配置した。機械基礎と周囲の土間は構造的に縁切りし、基礎毎に柱状改良を行うことで周囲の振動の影響を抑えている。また、基礎及び土間天端はコンクリート高精度打設機を使用して水平精度を確保した。事務所部は採光を取り入れつつ夏場の直射日光を遮るよう角度を付けてルーバーを設置した。ルーバーの効果により室内環境を安定させるとともに外観のアクセントとした。組立工場内は柱を極力減らし工場内の動線の自由度と将来のフレキシビリティを確保する計画とした。

(高北卓軌／伊藤建築設計事務所)



2階平面図



1階平面図

所在地 愛知県豊田市篠原町切山2番9

敷地面積 19,031.50㎡

建築面積 2,803.06㎡

延床面積 5,410.15㎡

構造規模 S造、地上2階

工期 2018年10月～2019年11月

最寄駅 愛知環状鉄道 篠原駅

撮影 リフレクト



受付カウンター



外観東面



エントランスホール



エレベーターホール



研削室

所在地 名古屋市中区錦二丁目15番5号  
敷地面積 633.45㎡  
建築面積 532.62㎡  
延床面積 2,976.95㎡  
構造規模 S造、地上8階  
工期 2018年5月～2019年3月  
最寄駅 名古屋市営地下鉄東山線／鶴舞線 伏見駅  
撮影 ナカサ&パートナーズ



北側全景（夜景）



北側ファサード

# 伏見ミリオン座

建築主 スターキャット・ケーブルネットワーク株式会社  
基本計画・監修 安井建築設計事務所  
設計・監理 大林組 名古屋支店 一級建築士事務所  
施工 大林組 名古屋支店

繁華街の賑わいを感じる街の一角に位置する道路以外の三方を高層建物に囲まれた敷地に、「シネマ（カフェと映画館4館）」「ケーブルテレビ放送スタジオ（撮影スタジオ2室）」「運営スタッフのオフィス」の3つのプログラムを積層化してコンパクトでありながら「新たな場所での存在感を発信する“老舗の映画館”」の姿を目指しました。

古くから名古屋で愛されていた以前の伏見ミリオン座では、シネマスタッフの手によって館内の至る所に映画の告知や作品ポスターが貼られ、まるで映画のシーンが散りばめられた様な非日常を感じる事ができました。日々更新されるその空間は、訪れる人々に映画館に来了事を感じさせ、それは一人一人が想い浮かべる「想い出の映画のシーン」が幾重にも心の中で浮かぶイメージと重なります。

映画館という場所は、映画を楽しんでいただいた一人一人の「想い」や「お気に入りのシーン」が詰まった場所であり、その想いを感じていただける特別な場所が新たな“伏見ミリオン座”であると考えました。大切な記憶や気持ち「シーン」となってシネマスクリーンの様に心の中に幾重にも浮かび上がってくるイメージを表現したファサードデザインは、外壁から浮いて軽やかに重なり合うエキスパンドメタルのスクリーンで表現され、その様は映画館としての特別な表情を街の風景のなかに感じていただけます。夜には、3層に重なり合うスクリーンが各々色温度が違う3種類の照明でライトアップされ、時間の経過で拍動する様にプログラミングされたその光の重なりは「街の灯り」としての華やかな姿と心地よい表情を創み出しています。インテリアデザインでは、これまでの伏見ミリオン座と同じ様にシネマスタッフによる空間演出を考慮したシンプルかつ機能的なデザインとしながら、建物の設計コンセプトと調和したオリジナルのサインデザインによって彩られ、洗練された新たな“伏見ミリオン座”を感じていただけます。この場所が、これまでの伏見ミリオン座と同様に名古屋の街のなかで「唯一無二の特別な場所」として、長く愛されることを願っています。

（川添裕司・村田真吾／大林組）



# TOKAI Sketch Book



## 愛知県立芸術大学 デザイン棟

設計 東畑建築事務所 名古屋事務所  
愛知県立芸術大学美術学部デザイン専攻  
(外構・サイン・インテリア)  
施工 高柳組(建築)、関電工事(電気)、東海設備  
工業(空調)、アクシス総合設備(給排水衛生)、  
三菱電機ビルテクノサービス(昇降機)

所在地 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-114  
敷地面積 408,059.2㎡  
建築面積 1,414.3㎡  
延床面積 2,334.5㎡  
構造規模 RC造 地上3階  
工期 2017年10月～2019年1月  
最寄駅 愛知県高速交通東部丘陵線(リニモ) 芸大通駅



## 磐田なかよしこども園

設計 (株)飯尾建築設計事務所  
施工 (株)イトー

所在地 静岡県磐田市中泉  
敷地面積 2,968㎡  
建築面積 1,016㎡  
延床面積 1,769㎡  
構造規模 S造 地上2階  
工期 2018年6月～2019年8月  
最寄駅 JR東海道本線 磐田駅から遠鉄バス「西小学校」



## 伊賀市庁舎

設計 日建設計  
施工 鴻池・山一特定建設工事共同企業体

所在地 三重県伊賀市四十九町3184番地  
敷地面積 17,104.50㎡  
建築面積 3,902.54㎡  
延床面積 14,288.72㎡  
構造規模 S造 地上5階 塔屋1階  
工期 2017年3月～2018年11月  
最寄駅 伊賀鉄道伊賀線 四十九駅



## 三重銀行長太・楠支店

設計 (株)伊藤建築設計事務所  
施工 (株)杉本組

所在地 三重県鈴鹿市長太旭町5丁目326  
敷地面積 1,521.58㎡  
建築面積 420.90㎡  
延床面積 418.20㎡  
構造規模 S造 地上2階  
工期 2019年3月～2019年10月  
最寄駅 近鉄名古屋線 長太ノ浦駅



## 三菱UFJ銀行多治見支店

設計・監理 (株)伊藤建築設計事務所  
施工 徳倉建設(株) (株)弘電社  
(株)斎久工業

所在地 岐阜県多治見市音羽町二丁目213番  
敷地面積 1,290㎡  
建築面積 699.74㎡  
延床面積 993.27㎡  
構造規模 S造 地上2階  
工期 2018年11月～2019年7月  
最寄駅 JR中央本線／太多線 多治見駅



## 北伊勢上野信用金庫 阿倉川支店／川原町支店

設計 (株)伊藤建築設計事務所  
施工 (株)中村組

所在地 三重県四日市市大字西阿倉川318番地 1  
敷地面積 668.97㎡  
建築面積 318.80㎡  
延床面積 541.56㎡  
構造規模 S造 地上 2 階  
工期 2018年 7 月～2019年 2 月  
最寄駅 近鉄名古屋線 阿倉川駅



## 岐阜商工信用金庫本店

設計 竹中工務店  
施工 竹中・市川・青協共同企業体

所在地 岐阜県岐阜市美江寺2-4-3  
敷地面積 2,382㎡  
建築面積 1,412㎡  
延床面積 3,698㎡  
構造規模 S造 地上 3 階  
工期 2017年12月～2018年11月  
最寄駅 JR東海道本線 岐阜駅



## 瀬戸市下品野地域交流センター 「ふれあい」

設計 (株)伊藤建築設計事務所  
施工 沢田建設(株)

所在地 瀬戸市品野町 6 丁目116番地  
敷地面積 1,421.22㎡  
建築面積 505.32㎡  
延床面積 857.01㎡  
構造規模 S造 地上 2 階  
工期 2018年 6 月～2019年 2 月  
最寄駅 名鉄瀬戸線 尾張瀬戸駅



## ニフコ名古屋技術開発棟

設計 竹中工務店  
施工 竹中工務店

所在地 愛知県豊田市神池町 1 丁目  
敷地面積 30,623㎡  
建築面積 4,925㎡  
延床面積 17,627㎡  
構造規模 S・RC造 地下 1 階 地上 5 階 塔屋 1 階  
工期 2018年 7 月～2019年 7 月  
最寄駅 名鉄豊田線 豊田市駅



## 中日新聞松阪支局

設計 (株)伊藤建築設計事務所  
施工 日本土建(株)

所在地 三重県松阪市魚町1657-1  
敷地面積 167.75㎡  
建築面積 101.70㎡  
延床面積 149.40㎡  
構造規模 S造 地上 2 階  
工期 2018年 7 月～2019年 1 月  
最寄駅 近鉄山田線 松阪駅

# 東海支部特集

## 東海支部復活60周年を迎えるにあたり

東海支部は今年10月15日に支部復活60周年を迎えます。60年前、戦後復興から高度成長へと進む日本では、建築基準法も制定され近代建築が本格的に普及する時代となってきました。公共事業として学校や住宅を大量生産し、都市を整備してきた60年間とも言えるのではないのでしょうか。

60周年を迎えるにあたり、日本建築協会東海支部の存在意義を見つめ、近代建築の技術の発展の振り返り、今後の支部活動の発展につなげることとしました。そのために、歴代支部長、50歳前後のベテラン技術者、30歳代の若手技術者といった3つの世代による座談会を開催しました。これらの座談会の議論から、日本建築協会東海支部のこれからの姿が見えてくるのではないのでしょうか。

特集として、建築がつなぐ都市、地域、まちの記憶 第3回 として「じゅうろくてつめいギャラリー」を取り上げ、納マリ倶楽部での活動の報告をしております。東海の建築のデータブックとして「おもてなし」の4作品。そして、事業委員会による北陸三県の視察記を掲載しています。今年も会員皆様のおかげで充実した内容となり、復活60周年に向けて意味のある東海支部特集となったと思います。

(東海支部特別編集委員会委員長 篠原佳則)

### ■座談会1：東海支部復活60年とこれからの支部活動 歴代支部長による座談会

／森口雅文、小宮三辰、松本壮一郎、佐伯博、福田泰造、篠原佳則、河田克博、加藤武範、富田昌志

### ■座談会2：建築に込める想いと建築技術の発展 ベテラン技術者による座談会

／清水満、針谷俊也、富田彰次、澤村喜久夫、吉岡英一、小柳英治、堀井晃、角田泰孝、中井孝幸、本梅誠、野呂和弘

### ■座談会3：設計者に期待されていること 納マリ倶楽部と21世紀委員会による座談会

／中井孝幸、久保久志、松下拓真、三宅伸幸、鈴木豊一郎、小杉嘉文、佐藤剛、鵜飼浩平、篠原佳則、富田昌志、吉田祥子、若林亮、塩田哲也

### ■特集Ⅰ 建築がつなぐ都市、地域、まちの記憶 第3回

- 1：岐阜市・「じゅうろくてつめいギャラリー」／中井孝幸
- 2：旧岐阜貯蓄銀行本店（現じゅうろくてつめいギャラリー）のむかしといま 建築概要と活用事例／清水隆宏
- 3：銀行から学習活動の発表の「ハレ」舞台へ／中井孝幸

### ■特集Ⅱ 納マリ倶楽部 東海支部青年委員会における30代前後の若手設計者の活動報告

／中井孝幸、久保久志、三宅伸幸、鈴木豊一郎、小杉嘉文、鵜飼浩平、本間千尋、李斯奇

### ■東海の建築：内装（おもてなし）

- 1：こどもたちを包む柔らかな天井と活動を刺激する棚 梶山女学園大学附属梶山こども園／日建設計
- 2：ひとつながりのスキマの空間を「コミュニケーションスペース」とする ニフコ名古屋技術開発棟／竹中工務店
- 3：平面・構造形式、構法、仕上で作り出す多様な活動を受容する保育室 りたの芽 保育園／安井建築設計事務所
- 4：創造と伝統の融合による「ここにしかない新しい金沢」 三井ガーデンホテル金沢 吹抜けロビー／竹中工務店

### ■東海支部だより

北陸三県建築の旅 事業委員会による国内視察旅行／平真知子

# 東海支部復活60年 と これからの支部活動

## 歴代支部長による 座談会

日 時：2019年12月25日（水）  
場 所：愛知建築士会会議室



森口雅文

1993～1996年 支部長

小宮三辰

1997～2002年 支部長

松本壮一郎

2003～2006年 支部長

佐伯 博

2007～2010年 支部長

福田泰造

2011～2014年 支部長

篠原佳則

2015年～ 支部長

河田克博

副支部長

加藤武範

副支部長

富田昌志

副支部長  
(順不同)

なぜ、東海支部は復活したのか？

森口：建築関係のほかの団体は大体資格に絡んだ団体で、資格という枠があるから活動もおのずから制約される。建築協会は資格はいらない。定款通り建築を通じて社会貢献をするということだけなのです。ですから、学校の先生も設計事務所も施工者も、設備関係や材料メーカーとかが建築という共通のテーマで団体での活動に参加できる。今は一般社団法人ですが旧建設省の公益社団法人の第1号です。ですから、その誇りは皆さん持っているようです。篠原さんが言うように何でこんなちっぽけな団体なのに建築八団体にイーブンに入れてもらっているのか。それは当たり前前の話であって、先輩たちがちゃんとした心構えを持っていたからです。非常に領域はファジーですけれども、いろんな活動ができるということです。その上建築協会の良いところは、原則固有名詞をつけて公表されるということがあり、非常にフランクな団体じゃないかと思います。

篠原：大阪で設立された日本建築協会がやってきたセンスで、名古屋でも同じようにやってきたということでしょうか。

森口：まあね、名古屋の支部作っておいで、十分活動しなかったというのは、当時いろんな団体ができてばらばらに活躍しだして、役員も他の団体と重なっていたため、手が回らなかったのかもしれませんが。よくわかりませんが、1960年に支部を復活するということで、強い本部の意向もあったようですけれども、一圓さんという役人でありながら、団体活動に非常に熱心な方がおられて、その方を支部長に担ぎ出したと聞いています。

私が建築協会に関わりだしたのは1970年です。支部復活10周年のときで、私の協会の先輩でもある社長の伊藤鑑一から建築協会から、若い人を出せと言われたので、推薦するから団体活動をやってみてはと言われて、支部の常議員に選ばれました。支部長は一圓さんです。確か一圓さんは役所を辞めてから名古屋工業大学、そして愛知工業大学へ行かれた。それから中島さんに引き継がれた。私が支部長を受けるときの状況は、ここにお見えになる歴代の支部長さんが支部長をおやりになるときの状況とまったく違っていました。私が支部長になる年の1993年4月の25日に滋賀県の彦根の市長選挙があって、中島一さんが当選されて一言の声もかけずに支部長を退任された。役員会で当時二人の副支部長の一人であった私が支部長に推され、引き受けざるを

得ない状況になりました。

一圓さんもそうですし、中島さんも優れた人だったですから、夫々10年以上もおやりになりましたけれども、その間、回りの人、優秀な人はたくさんお見えになったのですが、どうしてそういう方が順次おやりにならなかったのかよく分かりません。

森口支部長による組織構築

森口：私は支部長をお引き受けするときに、最初に2期4年しかやりませんと宣言しました。従いまして、その後、小宮さんを初め、ここに見える松本さん、佐伯さん、福田さん、ずっとそれぞれ順番に少しの準備期間は持って、期間を限定してやっていただいていたんじゃないかと思っています。まず第一にやろうと思ったことは、支部役員の世代交代です。いろんな方がいろんな事業と一緒に会をまとめていくということが、やっぱりその会の存続を考えると大事なことはないかということで、スムーズな世代交代をやりたいと思い実行いたしました。



森口雅文

二番目には会員増強です。数ももちろんなんですけれども、私は領域を広げることを考えました。ですから、材料の方だとか、それから設備の方だとか、電気やガスの供給、要するに中電さんや東邦ガスさんにも入っていたくということで、会員を増やそうと思いました。

会費の値上げがあつたりして逆風のときだったですけれども、小宮副支部長の協力もあり何とか会員を3倍近くに増やすことができました。

三番目には、『建築と社会』の東海特集号は、最近でこそ3月号と決まっておりますけれども、昔は発行月は本部の都合で決められていました。それでは計画的に協力できないので、3月なら3月、担当する月を決めてくださいということを出して、定例化していたのだということです。

四番目ですけれども、任期中に1995年で支部復活35周年の記念事業をやっているんです。この年は阪神淡路大震災とか、地下鉄サリンだとか、オウム事件だとか、経済不況のこともありましたので、一切お祝い事はやめようということで、ただ一つ企画したのは支部長座談会でした。「支部活動への期待とその展望」と題して、大阪に皆さん集まってもらって、市川宏会長、岡本行善副会長、三品哲夫副会長、野上淳二常務理事、井出正己京都支部長、古林敏郎中国副支部長、雑賀幹央和歌山副支部長、東海からは私と小宮さんと林さんに出ていただきました。支部長が集まって座談会をやったのは、初めてだったらしいです。本部への刺激にもなったんじゃないかと思っています。

その他としては、建築協会の見学会は、非常に綿密な計画で好評なものですから、いつもたくさんの方がお越しになるんですけども、私のときに初めて海外視察を実施しました。1995年に中国返還前の香港と深圳を訪問しました。その後も大体隔年というか、2年に1回おやりになっているようなので、これも続けていってもらっていると思っています。それから会員の親睦を図るためということもありまして、ゴルフコンペを1994年の秋に第1回を開催いたしました。翌年から年2回必ず開催していただいて、今年の秋も久しぶりに51回目に出させていただきます、これもやっていただいているのだなと感慨深かったです。私が4年間でやったことというのはそんなことです。

通常の『東海の建築』の発行とか、建築技術の講習会とか、講演会とか、定期的にやってきたことはそのままそっくりやることにして、特に力を入れてやったのがこの五つのことです。

篠原：ありがとうございます。今回まとめていくと、森口さんの時代に種ができていて、それが生きていると思います。時代がたつにつれ、団体会員も会員数が減ってきているんですが、最近はゴルフの参加者が増えてきていると感じます。ゴルフの機会に団体会員に誘ったり、そういうふうに使える。それはありがたいことだと思います。

森口：今おっしゃった団体会員の制度も建築協会独特でして、企業を代表して出てきていただいているという方たちの活動の仕方というのは大事なことです。ですから、それなりの存在感はあると思います。

個人的なことを申し上げますが、私は日本

建築家協会とか、日本建築学会とか、いろんなところで活躍させていただきましたけれども、やっぱりここが原点なんです。ここで教えてもらったことの経験でほかの団体でも反映できたりしておりますので、非常にありがたい存在であると今でも思っております。

#### 会員増強の努力

佐伯：会員が200人いたんですね。森口さんのころ。今、半分を切っているかな。

森口：どこの団体も減っているからやむを得んとは思いますが。

小宮：無理やり頼み込んで入っていただいた企業もあったのでね、それは仕方ないと思うんですよ。あれからずっと不況が長く続いて、無駄な出資を省きたいというような……。

佐伯：まだバブルの余波が残っていた感じですよ？

小宮：まだありました。森口先輩はちょっと景気が下向きのころとおっしゃったですけど。

森口：役員会で会員増強すると言うたら「支部長。もうやらんほうがいいですよ。」と言われた。

松本：本社が本部で入会しているので承認が得られないと言う企業もあるなか、よく、こんなに支部でたくさんの団体会員が集まっているな僕は思った。

小宮：ただね、僕が副支部長のときでして、森口さんと相談しながらいろいろやった。100社ぐらいに声掛けて、何とか会社で1口とそれから技術者誰か一人、会員に出してくださいという話を丁寧をお願いして回って、その結果、結構増えたんですよ。だから、ある程度努力すれば会員は増やせるんじゃないかなというのは、今でも思っているのです。いろんな活動をやりながら、そういうことをやっていくというのも大変なことだし、強制をするつもりはないですけどもね。森口さんとやったときには、半年ぐらいかかってそういう企業の方とのコンタクトを随分取りました。



小宮三辰

森口：本部で笑われたけれど、旅行社の人も入会された。われわれの旅行を扱ってくれるから、建築のこと知っていてもらったほうがいいからって言うて入会してもらった。改めて建築協会の強み、よその団体とは違ったところですが、設備の業者の人も多く、多様性を生かした技術の研鑽は建築協会でごそやるべきじゃないかと思っています。

#### 見学会の在り方

福田：今の森口先生の話聞いて、いつも役員会で会員を増やさないかん、会の目的は何かと言われたら会員の増強だというお話をされていました。それにはどうしたらいいかということで、私は事業委員会の委員長をやっていたものですから、支部復活35周年の時、海外どうですかという話をしたら、すぐオッケーという判断してくださいました。



福田泰造

見学会の在り方について森口先生が言っていたのは、例えばほかの団体ですと、企業にカンパしてもらい、変な言い方ですけども、企業の工場を見学してお昼ごはんを呼ばれたり、何かそういうことがある。東海支部はそういうことは一切しない。本部と合同で本部の人たちが見学会にこっちに来ることがあって、営業所を見学に行つて、それをやろうとしていたのです。そしたら東海支部はそんなことは絶対しない。そんなところで人集めするならやらない。お金を出してもらって、その工場へ行つて見学をする見学会はしないと電話して本部にちゃんと話をつけて下しました。

篠原：何かフラットな感じがしますね、いろいろ企画してますしね。

福田：香港のときも、香港建築師学会というところに声を掛けて、向こうと交流をやるということで、こちらからも東海の建築のスライドを用意し、IMペイの香港事務所やフォスター事務所のスタッフに来て頂きました。

小宮：空港の話し、してもらったね。

福田：森口支部長から香港建築師学会と交流会が出来ないかということで交流会も開催しました。私がやっていたときは、若い人からお年寄りまでみんな興味を持つように、例えば神社に行ってみたり、ミックスしていたんです、最新の建物、現代建築を見て、お寺に行ったり、そういう形でやっていたけど、何か今の見学会は偏りが出てきたのかなとも思っているわけです。

森口：私がやっていたときでも高齢の方が参加され、うるさいことをぐだぐだ言って困ったこともありましたが、それはそれで一つの役目がありますね。最近、忘年会の懇親会出ても高齢者は私一人ぐらいです。最近の役員会の出席率がどうなのか知りませんが、私や小宮さんがやっているところは、結構8割方は出席していた。やっぱり出てきてもらわんとね。

福田：だから見学会もね、新しい建物を見に行くと、若い建築家の建物は階段がものすごく多かったり、階段だらけの所を歩いて登らなきゃいかんものだから。お年寄りの方から「こんな歩くの？」いつも言われています。海外行ってもそうですけどね、歩くのは。

#### 建築協会の特色

佐伯：私がものすごく気に入したのは、建築協会の特質の話だね。メーカーさんとか、特色があるんです。いろいろお話をしても、やはり担当技術者の方は興味があっても、なかなか社内的な認知度というか、位置付けというか、要するに協会に入る意味というか、そのへんはなかなかバックアップできない。

場をうまく提供しないと、なかなか彼らは安心して参加できない。企業PRの場を各役員会等で設けて、彼らが社内的にそういう話ができるようにという話も進めていた。特に私のころは、リーマンショックもあって企業の方はそんな話が少かった。協会のジャンルを広げる意味合い、参加できる意味合いをどううまく構成してく、作っていくのかなというのが気になりました。

森口：昔よう言うたんだけど、建築協会に出てきたら「取っておきの話してくれ」と、要するに通り一遍のPRしてもらったって、そんなもの聞きたくもない。こういうところは近づくかんほうがいいよとか、取っておきの話をしてくれて、よく言った。またそういう付き合いができた。建築協会ではね。誰も責任取ってくれなんて不粋なこと言う人はいない。今でも何かそういう付き合いができるといい

かなと思っています。

松本：だんだん営業色が強くなっちゃったかなって感じがね。だから、建設会社などに声掛けたりすると、どんな設計事務所のどんな人が参加しているのかリスト上げてくれとか言われてしまう。メーカーの方も営業の人だけでなく、もう少し技術者のレベルでの交流ができるといいと思います。それが協会のメリットじゃないという感じがしますね。

僕が協会に一番魅力を感じたのは、中京テレビに見学会に行った時です。2度目の見学会でしたが、鋤納さんと森口先生らから設計者としての説明や案内をうけたのですが、建物と周辺環境との関わりから、番組収録状況やスタジオ、機器まで詳しく説明があり、設計者とテレビ局との強い信頼関係が感じられました。その後も見学会を中心に協会に参加したのですが、いつのまにか資料の配付や作成を手伝うようになりました。役員会で場所が決まると、愛知工業大学の林先生や高橋先生が具体的な企画されていたと思います。見学会はいい企画をされると、会の魅力は高まるんじゃないかなと思った。



松本壮一郎

#### 映画会&ゴルフ会

森口：ゴルフを始めたのは、前の年に弊社で設計監理したゴルフ場がオープンして、見学会に行くというから、それじゃゴルフ会やろうかってことになり、それで始めた。1993年にオープンで、第1回のコンペを1994年の秋に始めました。

小宮：年表を見ると、ゴルフの上のほうに映画会というのがあるね、これは親睦か何か兼ねて映画会っていうのをやっていたよね。

篠原：何かゼネコンとかのいろいろな記録映画を流していたという記録が……。

小宮：1970年ぐらいから1990年ぐらいまで。

松本：あそこよく映画会あったんですよ。

森口：映画会は僕は知らなかったですよ。

松本：詳しくは知らないですけど、それこそ

中島先生や企業に所属する役員の方がフィルム持ってきて上映してくれたと思いますよ。霞ヶ関ビルや桂離宮など技術的な工事記録だったと記憶しています。上映に資格が必要な16mmのため、専門の技術員が必要だったと聞きました。

森口：そういう映画ですか。

松本：業者の映画じゃないですけど、工事記録の映画とかあったと思います。

小宮：そういうのはいいね、多分ね。

森口：だけどゴルフの会、こんなに51回まで続くとは、予想してなかったですね。

松本：やっぱり交流を求めているのですね。会員ばかりじゃないですか、会員外の方も？

篠原：会員外の人も、会員に誘うつもりで誘っているのです。今確かにメーカーの方との交流が、ゴルフと忘年会ぐらいになっている。もう少しメーカーの方も参加してもらえようかなということいいとは思っていて、他の座談会ではメーカー何社か声掛けてギャラリーで出席してもらえた。出てよかったという話はいただいたりとかしています。

#### メーカーの方の参加

佐伯：でも、どうしても営業の方だね。

篠原：そうなんです。できれば建築技術ということから、そういう話をしてもらえような座談会できるといいかなって最初は言っていたんですけども、この名古屋地区に技術チームがいるかという話もあり、原稿を依頼して書いてもらうことはできそうだなとは思ったんですが、ディスカッションするというのが、ちょっと厳しいな、難しいんじゃないかという話になりました。

福田：大手のメーカーの研究陣とか……。

篠原：そういう組織でも、依頼をされないと呼んでこれない状況にもなっているわけです。

小宮：私どもの設計事務所をやっていたときに、やっぱり社内でもメーカーさんの勉強会みたいなものを結構社内で開催していた。やっぱり本社のほうから技術者に来てもらって、いろいろ技術説明をしていただく。1時間から2時間ぐらい。そういうのを月2回ぐらいはやっていた。やっぱりそういうつながりができていけば、そういう形のものも開催していける可能性は出てくると思うんですけどね。

篠原：さきほどの話で須賀工業さんとか、ダイダンさんとか関わりが強かったということですが、何か昔はやり方あったんですかね。

小宮：結局は個人的なつながりで頼んでいくのが多かったんじゃないかな。だから、交流会に集まるのも、基本的に人の交流をどん

ん深めていって、そして、いろんな知識を頂戴するという話につなげていくことじゃないでしょうか。会活動に参加するということはそういうことじゃないかと思うんですけどね。

**松本：**本部はいろんな委員会があって、その中にメーカーや材料の話とか入っているのではないのでしょうか。僕が理事やっていたころから、本部は、機関誌の発行、何周年記念とか、新年互礼会、青年技術者、設計コンクールなどは盛大に行っていたようですが、日常の活動となると、堅実と言うか着実な活動をしていた。役員を中心とした社長達の集まりと委員会を中心にした若手の技術者の集まりがある。納まり倶楽部のようなものがあるいろいろな形であるんですよ。総会の後に懇親会やったりするのは、東海支部をまねたと言っていました。

#### 東の日本建築学会、西の日本建築協会

**佐伯：**一圓さんが東へ向けていう話が当初あったけど、当初はそういう東京へ目を向けた組織づくりとか、意識があったのかな。

**小宮：**いや、私は大阪にずっと居たんですけど、そのときに役員の人に聞いた話では、建築協会と、建築学会かな、関東と関西と分けるんだという話があって、「関東には進出できないんだよ」と聞かされたことがあるんです。設楽君が今本部の会長やってくれていますが、先般会ったときに東京への進出を今いろいろと調査しながら頑張ってるんですよというふうに言っていました。だから、近々、関東支部が何かできそうな感じ……。

**篠原：**この間、支部長会議に行っていたときに、その話はされていまして、大阪にいて転勤して東京に行っているけど建築協会がないので、関東にあるといいという意見は最近出てきているとのことです。今年1回東京での集まりをしているようですね。

**松本：**でも、僕らのときは、東は学会、西は協会というふうにな、学生や1級建築士を受ける前に入れるのは、協会だけだと言われていて、あまり躊躇なかったですね。

**小宮：**どういう約束なのかよく分からないですが、過去にそういうものがあって、全国組織じゃないんだと……。

**河田：**もともとひととけば、日本建築協会自体が一番最初は関西建築協会だった。東京の日本建築学会に対抗して、関西の片岡安さんとか、そういう人が中心になって設立したのが日本建築協会ですね。そういう歴史を引きずっていたのですね。

**松本：**建設会社にしろ、設計事務所にしろ、

結構大阪のほうが多かったじゃないですか。

**小宮：**そういうことですね。あるいつとき、どつと皆さん、大阪から東京へ本社を移されて、どんどん、どんどん関東圏が建設の中心になっていきました。あるときまでは関西もかなり頑張っておられていましたのでね。ゼネコンさんにしても、設計事務所にしても。日建さんなんかでも東京本社、大阪本社と言っていた時代がありましたしね。

**河田：**一時期、大大阪市構想というのがあったですよ。だから、東京に対抗するという意味で、協会が強くミッションを持ち続ける。そういう歴史的な背景がある。

**佐伯：**当初は関西は関西という地盤があったから、学会に対してアンチの位置付けで存立したけど、現在そういう背景は完全に崩れてしまう中で、協会はそんな形でいいのかどうかというのは問われている。



佐伯 博

**松本：**でもね、『建築と社会』東海特集号の取材や原稿依頼で電話を掛けたりするのですが、東京の人も建築協会をご存じでした。

#### 『建築と社会』

**小宮：**一番大きいのは、『建築と社会』がこれだけ続けられているというのが、ほかの団体でまったくないですよ。こつこつと頑張ってる出しているというのは、芯が一本通っている。だから、今おっしゃったように、関東の人でも、ほんとにたくさん知っていますよ。

**松本：**役所や文化施設では、建築以外の人もいますので、協会を知らない人がいたりするんですが、あの機関誌を見せれば「こんな立派なものを作られている団体ですか」と感心され、原稿執筆依頼の話がまとまることが多いです。少し話が変わりますが、私が入会した動機のひとつに、毎月3～5枚のディテールシートが付録で付いていたことです。

**小宮：**技術資料ね、建築技術資料。あれはすごかったです。ものすごく会員数が増えた。

**森口：**固有名詞全部入っていました。だから

ね、お金がかからない。原稿料もいらん、印刷代だけで、それは建築協会の賢いところって、固有名詞にこだわってなかった。

**松本：**それを発展させたのが『建築と社会』の「東海の建築データシート」です。

**小宮：**われわれ建築に携わっている人間が、頭でいろいろとめないかんわけだから、その技術資料を設備なり、建築なり、ゼネコンさん含めて、皆さんから新しくできたものを提供してもらってまとめていく。そういうトータル的なセミナーみたいなものを年に1回開くとか。みんな欲しいなと思っているような、要は『新建築』取って読んでいるけど、こんなところ全然分からへんから1回聞きたいなというような内容を、ゼネコンさんの技術屋さんから聞くとか。設備の技術屋さんから聞くとか。そういう流れができれば、また違う協会の活動が生まれてくるんじゃないかな。

#### 『東海の建築』

**篠原：**『東海の建築』も今は年に1号発行にしちゃっているんです。今回、過去を見ると年に3回出していた時期とかあるようですね。

**小宮：**私のときに1回減らさせていただいて、予算的にね。だから、少し出版回数が減ってきたんです。

**松本：**最初はB5横でしたが、B5縦にして立つやつを作れって言われた。その次が背表紙にタイトルが出るものと言われた。

**福田：**私が事業委員長の時は必ず下見に行きました。そのときに『建築と社会』と『東海の建築』を持って、だから、5カ所見るなら5カ所分持って、必ずそれを置いてきたんですね。そうするとしばらくすると電話かかってきて、「すごい団体なんですね、こちらは何かを用意したらいいですか」と言ってくるわけ、説明者の方からね。それで見学を終えても『建築と社会』や『東海の建築』を見学先に配布すると見えるところに置いて頂ける。

**篠原：**案外そういうフォローしてないです。下見に行くのもあるかと思いますが、事前に送っておくという手もありますね……。

#### 東海ルネサンス

**篠原：**中島先生の頃に、東海ルネサンスをやられていて、その後、いろいろ視点を変えて、地域のことをやってきているわけですけども、それぞれの方の思いとか、そのときに考えたこととか、何かありますか？

**福田：**この頃は高橋大善さんという先生がいて、1泊で見学会に行くと、必ず若い人を集めて座談会をやっていました。ウイスキー1本持ってきて、それ飲みながら、夜若い参加

者と一緒に話をした覚えがあります。軽井沢のときもそうだった。高橋先生、いろんな企画をして、伊勢湾から海から建築を見たらどういうふうに感じるだろうという企画だとか、その時は何かのクルーザーを用意してくれて伊勢湾、鳥羽から出港して伊勢湾をほぼ一周しました。

**松本：**ルネサンスのところに、並行して地場産業の紹介みたいなものを。それから、景観として地元の建築の紹介もした。近県関係者を集めた座談会もやった。

**福田：**当時は事業委員会と編集委員会と、結構タッグを組んでいたと思います。別々じゃなくて、見学に行けば編集委員会意見交換した覚えがあります。横のつながりが、結構、密になっていた時代だったと思います。

**篠原：**それはどの時代の話ですか。

**福田：**支部復活25周年の、八ヶ岳の見学会の頃だったと思います。

**篠原：**見学会とかのパターンを決めてきた頃から、事業委員会と編集委員会が、役割分担してきたんだろうと、良くも悪くも分けてあるからそこでやらなきゃいけないということで、今まで来ているというのはあると思う。

**松本：**今の軽井沢の話だけでなく、25周年の頃は、出席した若い人はなんでもやらされた。先ほど話した中京テレビの時は役員でもないのに資料を配らされた。あのころは建築関係者の集まりというより、建築の好きな人、何かやっていきたいという人が、集まってきたような感じで、役員会なんかにそんな雰囲気があったように思います。

**小宮：**中島さんのときは、ビールがあって、それを飲みながら会議やったんやから。

**篠原：**そうですか。それが弁当だけになって。



篠原佳則

**小宮：**その弁当もだんだん内容が薄くなってきた。初めて名古屋で参加させていただいたころは、にぎやかにビールで宴会のような会議でした。1時間半ぐらい、ずっと飲みなが

ら。

**篠原：**今、納マリ倶楽部や21世紀委員会は、まさしくそういうビール飲みながらという感じでわいわいやってますね。

**小宮：**それはいいじゃないですかね。

**森口：**昔はそうでも、それが今通用するかどうかわからない。昔役員会は、いつとはなしに始まっていつとはなしに終わっている。司会もなしでね。

**小宮：**もうほとんど中島先生がしゃべっているからね。われわれ聞き役で。

**森口：**適当に来て、適当に帰っていく。何ともしやあないなという気はしていましたがね。

#### 青年技術者交流会

**森口：**ところで年末の懇親会、もうちょっと早うから開催できませんか、高齢者は出にくいのでね。よその団体はその日は役員会は繰り上げてやっている。

**篠原：**青年技術者の話を聞く会をセットして、忘年会に招待する形をとった。それで遅くなった。年表を見ると、我々は21世紀委員会があって役員になっているんですが、そのあとの人材が抜けてるんです。21世紀委員会から21.1委員会、間をおいて納マリ倶楽部。

**小宮：**なるほど、その間ね。

**篠原：**青年技術者を呼んで話を聞く会を始めてから、納マリ倶楽部が若手からやりたいという話が出てスタートさせている。

**松本：**青年技術者の話も、役員だけでなく一般会員も聞けるようにしたほうがいい。昔は忘年会の前に企業の人が商品を持参し、説明をしていた。役員だけじゃなくてたくさんの会員が来ている。役員会の後にやるじゃなくて、単独に考えられたいいいんじゃないかな、全会のイベントに。

**篠原：**別の日に、ちゃんと考えてやったほうがいいかなという気も、するんです。

**松本：**前はパーティー形式だったから交流がしやすかった。今は座り込んだりから、お酒飲む人はそのほうがいいかもしれないけど。

**福田：**確かに交流会で団体会員の方が向こうの席にいらんだけど、結局会話しないうまま、帰り際にあいさつしているだけというのはもったいない、せっかく来てもらっているのだから。今年は青年技術者とか、納マリ倶楽部の人も参加していたから、団体会員さんと交流するタイミングがとれたかもしれないですね。

**河田：**時期が遅いかもしれないが総会のときとか。青年技術者の発表を東海支部で。

**小宮：**やっぱり日改めて、別に会員を集め

て、そういう人たちの発表会を大々的にやるとかね。それから、各メーカーさんや、設備屋さんたちのいろんな技術説明、どここの建物のこんな技術が聞きたいというような技術説明みたいなものやつをもっと企画する。ちゃんと日決めて開催していくとかね。この会だからできるというメニューをきっちと組み立てていく必要があるんじゃないですか。

建築協会にとって何がいいかをちゃんと柱を作って、それに合う人を集めていけばね、年に1回とか、2回とかいう話になれば、例えば1,000円払ってでも聞きに來ますから。そういう活動があってもいい気がするんですけど。  
**篠原：**最近の納マリ倶楽部というのは本当に活動的で、彼らからそういう集まりを作りたいということからスタートして、それをサポートしているんですが。

**小宮：**そういう人たちの発表会もやったらいいじゃないですか。

**篠原：**彼らも出席率は結構いいですね。手頃な人数でちこんまりとディスカッションできる会を継続しながら、どこかのタイミングで少し大きくやるという形は何かありそうだなというのは感じています。

#### 一圓俊朗支部長について

**篠原：**一圓先生の話进行何か、松本先生。金山の話とか前に聞いたんだけど……。

**松本：**今日は森口先生からどんな支部長だったんですかって聞きたかったんですけど…。前にもちょっと言ったように、愛知工業大学の恩師ではあるのですが、支部長としての一圓先生というのはあまり記憶にありません。

**森口：**私にもない。ほんとに黙って座っておられた。

**松本：**そうですね、見学会行っても一番後ろでニコニコしているっていう感じで。中部工大（現中部大）の水野金市さんも名古屋市の人ですか？

**森口：**水野金市さんと中島先生のコンビだね。

**福田：**一圓先生が長野の見学会のときにお見えになって、大雨の日だったんですけども、小諸の懐古館という祈念館を訪れた時沢山話を伺いました。日本が朝鮮統治時代に向こうにいて、小学校か中学校が行っているときは、一人だけすごいやつがいて、どんだけ勉強してもそいつには勝てなかった。だからもう勉強なんてしなくてもいいと思った。大雨の中でパーバリーの古いマントのようなすごいコートを着ていて、やっぱりいいものはもつものだから、やっぱりいいもの買わなきゃという話だとか。

私は一圓先生の大学の講義を受けたのですが、「としろう」と読まないで「しゅんろう」と読みますと言っていました。建築の施工例を「せこうれい」ではなく「しこうれい」と呼んでくださいという事を細かいところまでお話しされていました。構造、JASSのこととか、コンクリートのこととか、鉄骨造の設計演習の教科書の話とか。意匠ではなくて構造の先生です。

**篠原：**ガラス温室のアーチ溶接は、東京大学でそういう先生についていたと記述があった。

**福田：**大学も最初は東北大学に入ったが、どうしても東京大学に入りたかったので編入して、最終的には東京大学を卒業したと伺いました。

**篠原：**名古屋城現天守閣の技術陣のトップで名前が出てくるんです。記録に。鉄骨鉄筋コンクリートというのを名古屋市として、東大とかいろんな先生を呼んできて、まとめたという感じだった。名古屋市の実際の実務のところのことをやっていた人かな。鉄骨とか鉄筋とか、ちゃんとやられた印象が。

**松本：**一圓先生は、役所で設計と行政をやり、名工大と愛工大で1年構造をやり、建築を一通りやってきたと言われていた。金山の話は、市民会館を見学した時、個人的にお聞きした話ですが、計画は役所がやっても、もっと外の人にまかすべきだ。ほとんど市が素人的な感覚でやっちゃうからいかんって。もっと外部のデザイン、センスを取り入れるべきだとおっしゃっていました。

**篠原：**今、まさしく私が主張したい事です。

**松本：**人柄として面白いのは、役人は休んじまいかと。結婚式は12月の28日かな。仕事納めの後に結婚式。それから新婚旅行にスキーに行ったとのこと。また、普段は蝶ネクタイ、陶タイで、カッコいいダンディーな先生だったのですが、研究室に入ると暑い夏の日には肌着シャツ1枚で、研究室はプライベート空間だからいいのだと言っていました。それから、時々本をくださった。だけど、読まなくてもいいと言ってくれる。持っていてもしょうがないから、あなたのほうがテーマに近いから、私が読まないから渡すんだと。それから、愛知工業大学を退職されるときに、学生に建物の使い方を教えてやってください。と、それが私に課せられた課題だった。建築の技術とは直接関係ないかもしれないけど、建築に携わっている人は建物の使い方をちゃんと知ってなきゃいけないと言われてました。

**支部長を支えた人たち**

**森口：**そうそうたる人が周りにおられて、一圓さんというのは、ただ正面に座ってみえて、よきに計らえという感じの印象が強かったですね。

**松本：**一圓先生は、人格的にすばらしい方だったと思っています。協会は、中島先生なり、水野先生なりにまかせ、自由にやりなさい。と言った考えだったと思います。重心というか、重みみたいな。あの人がいるなら、協力しますみたいに……。

**森口：**しかし、夫々よく十何年もおやりになったなど、改めて思います。松本さんって何年ぐらいからここに出てきている？

**松本：**1970年代後半、高橋先生が頑張ったところからと思います。

**森口：**中島さんの黒子で全部、高橋大善さんが段取りをしていたと聞いていました。

**松本：**入会は大学を卒業した1971年だったと思いますが、役員ではなかったが25周年だったか記念誌の編集をお手伝いしました。常議員は1980年代後半からだったと思います。

**福田：**私は高橋先生の企画で伊勢湾周遊の船に乗って建物を見て、高橋先生は10日もたたないうちに倒れた。あまりにも急で驚きました。

**松本：**そうだね。1985年だ。伊勢湾。風邪を引いたので僕はやめたんだ。

**福田：**私は船酔いして、役に立たなかった。

**松本：**協会には、いろいろな人が参加していた。住宅公団（現UR）の盛田さんなんかは、保見団地の見学の時に、すぐに売れなくていいんだって言ってた。10年たって売ればいいんだと、先行投資するところに意味があるんだ。民間企業と同じように造っちゃいかん。安いうちに土地買って、安いうちに建設して建てて、10年とか、15年たって売ればいいんだと、本音と言うか、戸惑いと言うか、いろいろな社会の見方を教わりました。

**「まとめ」として**

**河田：**いろいろお話を伺って、聞かせてただいて面白かったです。それで、冒頭で支部長が言われていた、東海支部がなぜこの時期に復活したかというのを疑問だと言われましてたけれど、昭和35年ですよね。35年ですから、昭和34年に先ほどの名古屋城が造られたとか、その名古屋城が竣工する直前に伊勢湾台風。だから名古屋城の竣工式というのは、ものすごくしめやかに行われたというのも聞いています。ちょうどこの昭和34年、35年の時期というのは、高度成長に入るというか、その数年後の1964年に東京オリンピックがあるとい

うのも決まっていた、どんどんいろんな工事が進められていた時期なんです。そういう勢いのあるときに復活した。

あまり関係ないかもしれませんが、昭和34年に今の上皇・上皇后が結婚されたわけです。だから、そういうこともあって日本が非常に未来に満ちて、明るい兆しがでてきたとも。そのときに、こういった出来事がきっかけになって復活したと推察されるんですけどね。

もうなくなりましたが、元の大名古屋ビルディングですが、一圓支部長がおられる1965年、昭和40年に竣工しています。その明くる年に、これも今取り壊されつつある中日ビル、これが昭和41年に造られています。逆に考えたら、そのころの建物が、この時期になってどんどん新しいものに替わっていった。そういう東海支部が復活して60年がたったわけですけど、その間にそういうふうに変化していった。その間に造られて、壊されているということです。何かの縁というか、そういう関わりみたいなものを感じます。

**松本：**各士会だとか、家協会だとか、そういうところの役員の人が入っていたんじゃない。ほとんどそういう人で作っているような、ここにわれわれみたいな若いのがちょろちょろといたぐらいい。今のようになるとすぐ立派に見えるけど、どうなんだろうか。建築の本当にこの地方を引っ張っている人たちが、いろいろな団体と兼ねているんじゃない？だから自分たちの団体だけじゃ、少し偏っているからということで、集まった団体として東海支部を位置付けたのかな。

**篠原：**今回、座談会をやる思いというのも、東海支部復活の状況を見繕おうと思っても見つからないので、みんなで集まったら少し何かわかるかなというところがあった。何かフワッと、みんな事実というか、そのときの状況が今につながってきているんじゃないかなという思いは、何かある。ある職種とかに固まるわけではなくて、自由に話ができる場所、そういう場所を作ったかったという話があるのではないかな。

**佐伯：**今の復活の背景が社会的な背景があって、何かインパクトがきっかけか、思いか、そういう横断的な既存の団体じゃないものを作ったかったのかじゃないでしょうか。

**篠原：**やっぱりそういうことじゃないでしょうか。そういう場が欲しかった。さっき話が出たように、集まってビール飲みながらということから言っても、そういう場が欲しかったんじゃないかなという気はします。

# 建築に込める想いと建築技術の発展

## ベテラン技術者による座談会

場 所：TOTO名古屋ショールーム  
開催日：2019年12月17日（火）

出席者：

**清水 満**

安井建築設計事務所名古屋事務所

**針谷俊也**

戸田建設名古屋支店

**富田彰次**

日建設計

**澤村喜久夫**

伊藤建築設計事務所

**吉岡英一**

竹中工務店名古屋支店

**小柳英治**

東畑建築事務所名古屋オフィス

**堀井 晃**

HI都市建築研究所

**角田泰孝**

大林組名古屋支店

コメンテーター：

**中井孝幸**

愛知工業大学工学部建築学科

進行役／コーディネーター：

**本梅 誠**

安井建築設計事務所名古屋事務所

コーディネーター：

**野呂和弘**

東畑建築事務所名古屋オフィス

（順不同）

### ■安井建築設計事務所 清水 満

#### 「設計四半世紀」

設計者として喜ばしいことに、110年前の建物改修から高級リゾートホテルまで、様々な人と協働しながら様々な設計活動を経験することができた。

現在の状況は、入社当時の手描きがCADに代わっていった過渡的な状況と感じている。

### ■戸田建設 針谷俊也

#### 「建築に込める想いと建築技術の発展」

①場所性から発生する建築に込めた想いと採用した環境技術を、以前担当した富士山静岡空港旅客ターミナルビルにて紹介。

②市役所の免震レトロフィット工事にて、耐震への啓蒙と市民との交流を意識した場の創出を紹介。

### ■日建設計 富田彰次

#### 「建築に込める想いと建築技術の発展」

##### ①30年間の担当PJ紹介

1981-1996 様々なビルディングタイプの設計を経験。事務所ビル、コンサートホール、銀行、運転免許センター、体育館、研修所などなど。

1998-2019 空港・物流・先端系施設の設計に特化。航空旅客ターミナルビル、スパコン施設、卸・仲卸市場、重粒子線がん治療施設など。

##### ②日建設計のBIMの取り組み（トピック）

建築BIM推進会議に日建設計も積極的に参加。BIM標準ガイドラインの概略イメージやEIR、BERの概略イメージ（国交省）などを紹介。

### ■伊藤建築設計事務所 澤村喜久夫

#### 「文化財建造物保存修理事例…豊橋市旧二川宿の遺構とまちづくり」

豊橋市旧二川宿の本陣・旅籠・商家遺構の保存修理について、修理方針と実際に行った工事の様子を紹介。本陣施設の修復がきっかけとなり、その後地域住民、行政、大学が協同し、歴史的景観を生かした街づくりが進められている。

### ■竹中工務店 吉岡英一

#### 「設計活動とBIMモデル活用」

大型物件と寮の設計での3Dデータ活用を取りあげた。形状検討、構造解析、環境シミュレーションを連動して行うことで、効率的なデザイン検証ができ、生産上の解析もできることは、設計者にとってメリットになっている。

### ■東畑建築事務所 小柳英治

#### 「コラボレーションによるものづくり」

最近竣工した「愛知県立芸術大学新デザイン棟」の設計監理で意識したことを紹介。芸大の先生方とBIMによるイメージの共有や、サインやインテリア、ランドスケープなどデザイン専攻の各専門分野の先生方とコラボレーションしながらモノづくりを行った。

### ■HI都市建築研究所 堀井 晃

#### 「取組業務と個人設計事務所の悩み」

個人設計事務所としての参加でした。

日々変わる法律・進化するBIM環境について、組織力がないゆえの相談できない苦しさがあります。建築設計のみにとらわれず、幅広く業務に取組んできました。

### ■大林組 角田泰孝

#### 「建築をつくるための技術」

建築をつくるための技術には、「計画の技術」と「建設の技術」、「見せない技術」があると考えています。「見せない技術」とは見せたい空間をつくるために必要なディテール等です。担当した大手町プロジェクトを例に技術を紹介します。



「建築に込める想いと建築技術の発展」をテーマにみなさまの作品や設計手法についてご紹介をいただきました。ここからは本日お集まりいただいたみなさまからのお話を受けてそれぞれに聞いてみたいことや、普段聞けない設計技術の疑問など、日頃考えていることや設計への想いを話し合っていたきたいと思います。

**清水：**私たちの事務所もBIMを推進していますが、私自身が直接BIMで作業することはほとんどありません。設計事務所もBIMをどんどん取り組んでいて、若い世代が中心となってBIMで設計をするようになっていきます。

ちょうど私たちが入社した頃が、手書きがCADに変わる頃だったと思います。皆さんも、その過渡期を多分ご存じだと思うのですが、その状況に似ているなどと思っています。

BIMを設計事務所がやるとどうしても、ゼネコンさんに渡す前までが中心となるんですが、私が先日担当したのは曲面だらけの建物で、現場で納めるのに、皆さんがものすごく苦勞されていたという経験をしました。実際、BIMでは何でも美しく完成版は描けるのですが、施工の段階で、これが実際に納まるかというのは、なかなか設計事務所でも追いきれないところがあって、ゼネコンさんなんかだと、その辺りも施工部隊さんにヒアリングしながらやるのかなと思うのです。若い世代が、本当に建物を造っていく課程っていうのを見て描いてないと、いろんな常識にとらわれない建物もできるという良い面もあります



清水 満

が、本当にできない、絵に描いた建築になってしまう感じもして、少し心配になる面もあります。その辺り皆さん、考えておられることありますか。

**堀井：**BIMは、清水さんと同じで、開くだけ・見るだけ・簡単な作図作業で使える状況です。印象として、パーツを組合せるだけで、図面が自動で出来てしまう感じがあります。今の、若い設計者が手書きで納まりを考えるか分からないですが、実際、BIMのみで設計を行うと、納まりが分かっているかないのではありません。私は、いつもJw-cadを使い、納まりひとつずつを考えて書くのですが、果たしてBIMがどんどん進むことで、本来の建築設計としての進め方が、分かっているのか疑問なところがあります。

**吉岡：**竹中工務店は設計施工が売りの会社で担当者が、基本計画から竣工まで見ることになっています。ですから、ひととおり経験すれば、手書きでスケッチをする習慣も身につけているメンバーも多いですし、われわれがCADと手書きで二刀流だったのと一緒で、若いといえどもBIMと手書きは二刀流かなと思います。現在、多角形の形状のものもやっていますが、彼らなりに手書きでスケッチしながらやっていますし、そういったことは自然とやっていくのじゃないかなと思います。3Dモデルができたことが完成だという人ばかりではないかなと思います。

**針谷：**そういう状況の中で、昔は周りの人たちの図面が見えるというか、手書きの時代は、手書きで書いて、そのまま途中で退席して、



堀井 晃

そこに図面が残っている。それをみんなが見れて、というようなシチュエーションが割と多かったと思うんです。CADになって、徐々にそれが見えなくなってきているということがあって、ますます、若い人たちが何をやっているか、分からないというような状況はないですか。

**吉岡：**その点は、サーバを見るのが一番いいですね。更新されたものは、目に入ってきますし、担当者の画面を見て、何やっているのか聞きますし、そういう関係づくりのほうが大変だと思っています。

**針谷：**昔だと、自然に入ってくるころがあって、例えばスタディ模型を作っていれば、みんな興味津々になるのですが、今は何をしているかが分からないものだから、なかなかそこに注視ができなくなってしまっています。

弊社の支店では、まだそこまでBIMを設計の担当者が簡単に使えるという状況にはないのですが、本社から順繰りそういうことをやるような教育や体制づくりをしています。ただ支店では、まだそこまでは至らないなどというのが現実です。

**吉岡：**ゼネコンも大手設計事務所も、BIMに関していうと、BIMのモデルを作るというのは、設計担当者の役割ではなく、実際はモデラーのような職種で管理していくべきで、設計者はもっと設計のコアとなるような業務をやったほうがいいのじゃないかと思っています。もうちょっと根幹となす設計の部分をちゃんとやっていきたいです。

**角田：**一番不思議なのは、さんざん3Dモデル



吉岡英一

で入力しても、結局、2Dの紙書き出しで見積図を作っていることです。だから、すごく労力がかかっている。理想は紙による図面発行なんかじゃなくて、データを発行して、見積もりをしてくださいという段階までできれば、いろんなメリットがあるのだと思います。

小柳：弊社でも、本社では基本設計段階でゼネコンさんにBIMデータで渡して見積もりをするというプロジェクトの展開もあるのですが、名古屋事務所では、なかなかそういう段階まで至っていません。実施設計までフルBIMでいくようなことはやっていなくて、基本設計ぐらいまでで、できるところまでやろうよというスタンスで取り組むようになってきています。矩計図などは2次元CADの方が早いですし、どちらかというボリューム検討やデザインの検討をしたり、使えるところで使っていく方が効率的なのかと思っています。個人的には設計者自身が使うようにして、設計の段階でデザイン性を高めていくとか、そういうことでBIMを、ツールとして使っているような感じで活用していますかね。本当はゼネコンさんのようにFMまでできると望ましいのでしょうけど、今のうちの人数では、ちょっと難しいかなと思います。逆に1つのプロジェクト、何人ぐらいでゼネコンさんとかはやられたりしているのでしょうか。

吉岡：先に説明した大型物件では、建築担当者が私含めて4人で、私と一緒にやっている3人と言っても、20代の若手2人と9年目の3人で一緒にやっていますが、経験がないので、いろいろなことを経験しながらやっている

ます。とはいえ、早く進めていかなくてはいけないので（笑）。

中井：最近の皆さまは、もうそういうお立場ですね。

先ほど、澤村さんが、すごく古い文化財のものを、手書きの時代にされていたというお話でしたが、意外と古い建物なんかを入力していけば、接ぎ方とかをBIMなどの3Dでおこすのは、意外と向いているのではないかなと思ったのですが、その辺はどうですか。

澤村：話は戻りますが、文化財建造物保存技術協会のホームページを見てみたら、今でも文化財建造物の修理報告書の図面は手書きですね。それこそ烏口と面相筆を用いて作成します。今日は当時私が使っていた製図用具をもってきましたが、烏口は多分、ここに参加の方はご存じだと思います。保存図が手書きなのは、技術の伝承みたいなところの話だと思います。それも大事ですけど、今、おっしゃられた新しいツールでの取り組みは、今までできなかったことを可能にすることに繋がると思います。

中井：結局、職人さんがお持ちの固有の技術の継承ということを考えた時に、BIMなどの3次元で残していくことも可能ではないかなと思います。そういった意味で、3Dで残していくというのは、なかなか良いのではないかなと思います。

角田：某大学の改修工事では図面がなかったりするので、点群データを取って、3Dモデルを作成しています。そうすると、天井高さも分かるし、改修工事では非常に役立っている

すね。

中井：図面がない場合に、3Dで図面が起すことができるんですね。

角田：その通りです。

澤村：現地での実測はかなり大変な作業ですが、今のツールを使うことで、時間がかからず、さらに正確に実測ができることを私も実感したことがあります。文化財の修復現場に限らず、改修工事の現場でもそれらを取り入れるといいなと思いましたね。

角田：文化財も、3Dデータになっていると、ちょっとした記念品を3Dプリンタで作ったりいろんな使い道があるかもしれませんね。

清水：半田赤レンガ建物の改修整備を担当したときは、今のようなツールがなく、図面もなかったのですが、実際に測ってみると、壁がやっぱり倒れているんですよ。他にも、開けてみたら、隠れていた穴が出てきたりとかという面白いトラブルもありました。先ほど、3D解析の技術の話があったんですけど、それが使えていたらよかったですね。

ちなみに、あの建物、実は、レンガ壁の中に中空層があったり、コルクを張って断熱していたり、今の断熱の技術と同様の技術が使われていたんです。そういうのって、実は世の中にいっぱい隠れていて、昔からあるもの、100年前の技術が、今の現代のモノに置き変わっているだけで、モノづくりの根幹はもとから続いて変わっていないものもあるのかなと思いました。

中井：日建設計の富田さんが、BIMのことで言われていた、最後までいらなくて基本設計



針谷俊也



角田泰孝



小柳英治

図程度でいいのではないかと、また、今日の皆さんのお話を聞いていて、使えるところで使っていけばいいのではないかと、最後までトータルで管理するという理想はあるにしても、3D化は大体そのような流れのような形として捉えてもいいのでしょうか。

富田：そう思います。弊社も実際、全物件をやっているわけでもなく、基本設計レベルで終わっているものも当然ありますし、矩計図は普通にCADで、2次元でやっていたりします。フルBIMにするプロジェクトを決めて、徐々に練習しながら、当然、期間もいるので、ある規模のプロジェクトであればやるというような形ですね。

それと、先ほどお話ししたかったのは、今後、実施設計など、いろんなパーツを書くときに、メーカーさんなどがBIMのパーツを作られていて、それを入れて使うことがありますが、そのデータが重すぎて、ちょっと使い物にならなかったりするのも課題です。

今後、積算する段階や現場段階で使う時に、例えば日建の作ったこのBIMのレイヤーの情報は、竹中さんは使えるけど、大林さんだと使えないみたいなことがおきる。それを解決する共有化みたいなことも、これからの課題です。早くルールを決めていかないといけないですね。多分、皆さんそれぞれで、手探りでやっている状況だと思います。

DXF変換って、皆さんご存じのように、2Dでは最初はありませんでしたが、その後それが出てきて、変換できるようになりました。あれと同じような話が、3DのBIMでもあるの

で、そういう変換ソフト検討も今、一生懸命進めているみたいですね。

中井：3D版のDXFみたいなのは、もうあるのですか？

吉岡：あります。汎用性も一応あります。

針谷：弊社では設備のほうで使っているソフトも違う為、そこでもまだ統合するのに苦労するような状態です。弊社だと設備は大体Tfasを使っていて、それを建築に統合するというやり方をしています。建築のほうはARCHICADからRevitに切り替わりましたが、ARCHICADも併用している状況です。統合については、外部なども利用するなど、難しいところがまだあります。

中井：同じ社内でも、上手くいかないということですか。

針谷：そう、今は使っているソフトは、いろいろです。

中井：そろそろ時間ですが、今日、皆さまいろいろお話ししていただいて、皆さまが、今、抱えられていることとか、今やられていることが、大体共有できたと思います。最後は、BIMの話になりましたけれども、できることからやっていけばいいのではないかと、こととか、後は竹中工務店の吉岡さんが言われていた、風や光だったり、吹き抜けの風のシミュレーションなどに、BIMが入っているとすごく役に立つのだと思います。

皆さまからは、BIMは複雑で触れないというコメントがあり、やはりまだなかなか全てを理解するのは難しいのかなと思いながら、しかし、できることからやりつつ、ツール

として使えるようにしており、今ちょうど過渡期なのだろうと思いました。結局、後の判断はわれわれがするなど、先ほどの吉岡さんのお話でも、吹き抜けのパターンはいっぱい出るけれども、それが良いと思うのは、やっぱりAIではなくこちら側の人間なのですね。だからこちら側が判断していくので、そういう判断を持ちながら、うまくつき合っていくのかなと思いました。そうした意味では、これから新しいツールが出てきて、古い文化財にも使えるだろうし、これから改修工事とかそういったところにも、どんどん使われていくかもしれないという可能性は感じられました。これから、われわれが使いこなしていくためにも、そうした意味では若手と中堅というわけではなく、やはり最後は経験則なのだろうと思いますので、お互いにコラボしながら、社内でも上手にコラボしていただいて、やっていただけるといいかなと思いました。

皆さま大変お疲れ様でした。

皆さまとの良い出会いに感謝し座談会を終わりたいと思います。

本日はありがとうございました。



澤村喜久夫



富田彰次



中井孝幸

# 設計者に期待されていること

## 納マリ倶楽部と21世紀委員会による座談会

場 所：竹中工務店プレザルーム  
開催日：2019年12月10日（火）

出席者：納マリ倶楽部

中井孝幸

愛知工業大学工学部建築学科

久保久志

東畑建築事務所名古屋オフィス

松下拓真

東畑建築事務所名古屋オフィス

三宅伸幸

安井建築設計事務所名古屋事務所

鈴木豊一郎

日建設計

小杉嘉文

竹中工務店名古屋支店

佐藤 剛

大林組名古屋支店

鵜飼浩平

withU architects

出席者：21世紀委員会OB

篠原佳則

安井建築設計事務所名古屋事務所

富田昌志

伊藤建築設計事務所

吉田祥子

ウッドフレンズ

若林 亮

日建設計

進行役：納マリ倶楽部

塩田哲也

日建設計  
（順不同）

### ■以下トークセッションの記録

塩田：ここまで皆さんにはテーマに沿って話していただきましたが、特に富田さんのお話の内容は設計者の役割についての模範的な説明で、若手の皆さんもおそらく異論はないと思うのですが、若手の皆さんの話を聞くと、21世紀委員会の皆さんの世代と少し変化が見えてきたのかなというふうに思いました。

例えば、久保さんの話であった、人をつなげること、コーディネートに重心がシフトしているとか、あるいは小杉さんの話でいう、社外に目を向ける、クライアントの与件を専門家として検証する、というのでも出ました。

クライアントがしっかりした与件が示せないというか、欲しいものがはっきり見えてないというようなことへの対応。ほかにも似た例として、鈴木さんや三宅さんのお話で、価値を見つけるとか用途を提案するとか、三宅さんの話では、多様な関係者とワーキンググループを作って、セッションしながら作っていくという取り組みも紹介いただきました。

われわれは昔のことがあまり分からないので、篠原さんや若林さんにその辺の変化は実際どう感じておられるか聞きたいなと思います。感想も含めてお願いできますか。

篠原：じゃあ僕のほうから。建築の条件が混沌としてきている、ファジーになってきていることに対して、皆さんが何か回答を求めているってことをすごく感じました。僕らのときは、建築の中で何が大事なのかっていうことが分からないから、集まっているいろいろ話をしようよっていう感覚を持っていたのです。

もう一つは、納マリ倶楽部という名前だけど、建築の納まりだけに関心がいつているわけじゃなくてやっぱり人との関係とか、社会の中でどういう価値が合うのか、ということ、意外とみんな悩んでいる、考えている。それがテーマになっている、というのをすごく僕は感じる。そのためのツールをどうしたらいいのか。今回、21世紀委員会の昔の資料とか見ていると、あまりデータじゃないんですよね。でも今はCADやBIM、AIが全然普通になっている。そこに時代の違いをものすごく感じました。

塩田：若林さん、いかがですか。

若林：21世紀委員会が、最初、原理原則を知

ろうってということから始まったっていうのは、いろんな建物の配置や細かな納まりにしても、やり方はたくさんあるんだけど、なぜこうなのかっていう原理や原則さえちゃんと押さえていけば、しっかりした建物ができると思ったからなんですよ。

それで、最初にご紹介しましたが、福祉の街づくりの条例の原理原則って何？っていうところを深掘りしていくと、条例の背景や理由が分かってきて。身体の不自由な方のために、配置や細かな納まりはどうあるべきかを考える良い勉強ができた。今はたぶんいろんな価値観を持ってらっしゃる方がいると思うけど、その背景を知って設計をすることができれば芯はぶれないんじゃないかなと思っています。

僕は事務所に入ってくる新人にレクチャーをさせてもらってますけど、いつも「のために」って言っているんですね。「のために」は「あなたは何のために設計をしますか」ってことで、お客さんのために、街のために、エンドユーザーのために、あるいは自分のためにっていうのもあるかもしれないけど、その「のために」を大切にしてくださいって伝えていきます。今日聞いた話はたぶんそこに非常に近くて、設計の環境や設計者の役割が変わってもその「のために」さえちゃんと持っていれば、いい建物、いい街ができるんじゃないかと。

それから、最後に鵜飼さんがAIの話を読みましたけれど将来AIを使えば誰もが同じ建物ができちゃうっていうのは、神話だと僕は思っています。AIはある価値観をもって学習するわけですから、誰がどんな価値観をそのAIに覚えさせるかってことが大切になってくると思います。例えば鵜飼さんが「いやいや、違う。こういうことよ」っていつてもAIで設計をやり直す。それでどんどんAIは鵜飼さん流の価値観、鵜飼さん流の設計を覚えていく。そうあってほしいなと思っています。

塩田：吉田さん、どうですか。

吉田：21世紀委員会で原理原則をまず押さえましょうという話でスタートして、途中で一級建築士の2次試験の話が出てきて。昔の設計よりも要件がきちんとしていて、それに向かってどうやって形にするのかっていうのが

主だったような気がします。最近はいろんな世の中の変化だとか気候の変調だとか、BIMがあったり、設計の過程でのワーキンググループの役割だったり、答えのない、施主は設計者には時代の最新技術に基づくデザインを求めている、施主は漠然としていて答えが見つからない状態で、その潜在的な条件をどうやって形にするかっていうことに、すごく今の設計者が心を砕いているっていうような気はします。

施主はやっぱりお金を出す方なので、投資に見合うデザインとかコストとか、最新技術を具現化してほしいっていうような希望があって。与条件が漠然としているのを形にするためにいろんな手段を使って、最新技術も使い、AIも使い、目的やコンセプトを形にしていってということが、今の設計事務所がツールだとかっていう力を使って、時代の流れを具現化していく役割になってきているという印象を受けました。

塩田：富田さん、いかがでしょう。

富田：やっぱり僕らのころは、いろんな情報、欲しい情報がダイレクトに取れるっていう時代じゃなかったものですから。さっきの21世紀委員会の書類を見てもらうと分かりますけど、まず自分が考えて、自分で手を動かして何かを作って、それを外になかなか発信する機会もないので、仲間と集まりながらああでもないこうでもないって言って作ってきて、それが自分の中での価値観として固まってきて、今があると思っています。

今は、お客さんも含めて相当な情報が、建築に対する情報も含めて入るようになったので、お客さん自体の要求事項も相当高くなってくでしょうし、それに対してかっこよくスマートに見せないといけないっていう時代の流れもあるような気がしています。

僕らのときはお客さんの目の前でスケッチを描きながらイメージを確認し、そのスケッチに反映して、こんな形っていうやり方でした。(今は) どちらかというともう少しきれいでCGで見せてっていう流れになってきているので、作業も大変、手を掛けることも複雑になってきているなど。で、その複雑なクライアントに対してどう導くかっていう中で、寄り添っていきって話があったり、あと、コー

ディネートしてくって話ですね。いろんな複雑なものをコーディネートしていくっていう、そういうお話をされたところが今の設計の中での大事なポイントになってくるんじゃないかなと。

僕らのときもやっぱり、設計者は指揮者だというような言い方で、いろんなものをコーディネートして旗を振っていく、指揮をしてくっていうものだったというのはあったんですけど、今はもう少し、ちょっと違う次元での能力も要求されてきているような気がしました。

塩田：今は設計に関して学ぶべきことはネットなどで調べる方法がいくらでもあって、すぐに調べられてしまうので、昔のように仲間内で集まって、原理原則を探索っていう気は起こらないという気がしますよね。一方でいろんな要求とか条件とか、クリアしなきゃいけない課題が、細かくて多岐にわたるので、自分だけでは解けないっていう、諦めがありますよね。先輩方は自分をどんどん鍛えることで、課題は全てスーパーマンのようにうまく収めるっていう気概を感じましたけれど、今はそうではなくて、人と組んで、専門家と組んで、うまく解いていけばいいんだっていうスタンスに変わってきているように思います。若い人はそれが上手な人が多いですよ。久保さんは同世代でも早くからそういう仕事をされていましたが、最近入社してきている若い人たちを見ると、コミュニケーションも活発で、他の分野の人とも付き合うのが上手ですよ。そういうふうに感じましたけど、いかがですか。

若林：確かにそういうところはあるよね。

篠原：あるね。

富田：うん。

若林：でも僕が名古屋の事務所に来た頃は、全く専門家とチームを組むっていう環境でなくて、家具もランドスケープも自分でやらなければならなかったから、そういう知識を身に着けるしかなかった。それでいろんなことに興味が湧いたものだけど、チームでやることで設計の質は上がる一方で、いろんなことへの興味が深まらないのは残念なことかも。

塩田：そういうお話を聞くと、これを質問したいんですけど、若林さんが今言ったような

ことが建築設計者の楽しみであると思うんですよ。だけど、皆さんのお話をざっと聞いていると、クライアントとコミュニケーションして、どんどん引き出して、何が欲しいのかを絵に描くことに楽しみがシフトしているような気もしたんですよ。

久保：そういう楽しみもあるのかなっていう感じなんですよ。やっぱり何でもかんでも自分でデザインしたいっていう要求は当然ありますし、それがかなうならぜひやりたいと思っています。ただ、何かそれよりも興味あること・大切なことができたなあと、利用者の人たちが建物を使いこなしているかどうか、笑顔になってもらえているか、みたいなことを、すごく大事だなぁっていうふうに思えたんです。そのきっかけになったのが、学校の設計をし始めたときに、結構全国の学校をいろいろ回ったんですよ、いろんな割と著名な建築家が設計したものを。ただ、先生たちに話を聞いているとどこに行っても建物に対しての不平不満なんですよ。いい顔をしている人が全然いないとか。それは1場面を切り取ったものなのかもしれないけど、何かこういうのを、自分が設計した建築では起こしたくないみたいなことを思って。建築そのものだけじゃない、プロセスみたいなものも大事で、愛着を持ってもらうプロセスみたいなものがあり得るんじゃないかっていうことで、いろいろチャレンジし始めたんです。

その最たるものじゃないですけど、今、長久手でやっている計画で、新たなつながりをデザインする場っていう、それだけが施主からの設計条件なんですよ。どういう用途で、どの程度の床面積でっていうのが何も決まっていなかった状況でそれを設計するっていう話だったんですけど、それを出されたときに、じゃあ何を新たなデザイン、つながりをデザインするって何だろうっていうことから、自分だけで考えるんじゃなくて、これはもう利用者の人たちでそれ自身を考えないと解決しないなと思って。

実は3年ぐらいその設計をやっているんですけど(笑)。

3年前から利用者、いろんな主体の人たちと対話しながらやっていて、ようやく今年度設計が終わりそうなんですけど、何かそれも

やっぱり対話の中でしか答えが生まれないとか、建築家とか設計者の中だけにはない答えとか、それを一緒に利用者と導き出す楽しみみたいなものを今すぐ感じていて。だから、一から十まで設計したいという欲求、欲望みたいなのはありながらも、やっぱりそっちの大切さみたいなのを気付いちゃった、みたいなところがあります。

**若林：**僕たちが21世紀委員会をやった21年前って、そんなにワークショップが多なくて、基本、設計者の知識の中でしかできてないことが多かったと思うんですよね。そこから、特に石本さんのいなべ市の石榑小学校がワークショップですごく評価されて、今はワークショップに加えて、今さっきの事例にもありましたけど、BIMのように実際の中の空間をいろんな角度で見えることでクライアント側の理解が深まるツールも発展しているし、様々な形で「こと」と「もの」を共有できるワークショップの事例もすごく増えたんじゃないかなって思いますよね。

**鵜飼：**設計の中でも、「ものづくり」と「ことづくり」が融合しているとか、境界線があんまりなくなっている気はしています。良い「もの」を作れば、良い「こと」ができるっていうことに対して懐疑的であるという見方が広がっているようにも思えます。「もの」と「こと」が合わさってこそ何ぼだっていうのが、僕らよりも若い年代はもっと感覚的に強いんじゃないかなとは思っています。なので、ワークショップとかいうのが、普通に当たり前のように感じているだろうし、極論を言えば、「こと」をつくるために「もの」はいい加減でいいと思っている人もいるぐらいだと感じる程です。

**篠原：**ちょうど、21世紀委員会を始めたころが、ちょうどそれを言い始めたときのような気がします。ものづくりよりもことづくりのほうが大事、利用者を参加させる、ということ、21世紀委員会としてやった感じはものすごく持っている。時代的にそうなりつつある時代のときに委員会が開かれていたような気がする。その後ワークショップをやるシチュエーションが世の中にどんどん出てきたっていう印象がすごくある。振り返ってみると21世紀委員会でやったことは、やっぱり

現実に使う人の話を聞きましょうっていうスタンスだったので、その意味では、ことを意識したものづくりをやろうとしたっていうことは、それはまた事実だと思う。

**若林：**うまいこと結び付けるね。  
(一同笑い)

**篠原：**いやいや。これって若林さん？このナディアパークの改善案。

**若林：**ああ、描きましたね、改善案を。

**篠原：**改善案って、手でみんな描いてる。大事なことを建築の素人の人に伝えてくためには、絵的な物で見せないと共有できないというのは、実は21世紀委員会の中でやっていたことではある。

**佐藤：**この流れの中で1つお伺いしたいのは、私が入社したときはCADからBIMに移行するときで。今日プレゼンを聞いた中でも、ツールが多様化してきていて、よりお客さんと共有できるようになった、プロセスも共有できると。

僕らはそれがある種普通にある環境で設計をしていますが、長い期間、設計の仕事がされてきた中で、新しいツールの登場によって空間ってこういうふうを考えるのが当たり前になったよねとか、ツールから逆に建築に影響を与えるようなものってあったのかなっていうのをお聞きしたいと。

**篠原：**そうだよな。そう思うよ。ハウスメーカーのほうがどんどんそういうふうに行っているから、設計事務所は普通にやるものでしょみたいな感じに時代としては流れてきている。

**吉田：**そうですね。一般のお客さまを対象にしているので、VRで建物の中に入って見るっていうのを月に1回の住宅相談会でお客さんに見せています。今はそういう時代ではありますよね。

**若林：**BIMって最初に発想するツールなんですかね。初めに何か発想をしたものをいろいろ発展、検証するツールのような気がして、その辺はどうなのでしょう。僕なんかは、発想するときは絶対鉛筆のほうの方が膨らむような気がするんですけどね。

**佐藤：**僕もそう思います。BIMから何か、BIMがきっかけで新しく何かが思いつくわけではなく。まずはこのほわっとしたイメージ

が最初にあって。

**若林：**たぶんその最初のほわっとした発想が「ことづくり」で、お客さまのためにこんなこととしてあげたいとか、こうやったらたぶん街の人の流れが良くなるとか、何かそういうことが頭にあって、そのうちに形、ものづくりになってくっていく順番だと思います。

**篠原：**そうだね。

**若林：**21世紀委員会も、その少し前に福祉の条例ができたんだけど、それってどういう考え方で出来ているのって、実際に車いすの人、目や耳が不自由な人からお話をじかに聞いて、原理原則を知った上で、だったらこういう方が使われやすいものができるって発想が生まれる、そんなプロセスだったような気がしますね。

**篠原：**やりとりがね。そう。それをやったんですよね。

**鈴木：**今、プロセスがすごく大事になってきたという話になりましたが、その一方で、変化の早い今の時代、過去の経験の中に回答がなく、新しいものにチャレンジしていかないといけない時に、昔の丹下さんみたいな新しい都市をつくるような積極的建築家というのにも必要なんじゃないかと思います。

いろんな人の中から答えを引き出す時に、意見が1つになるわけではないので、何か判断をしないといけないときに、建築家の力量が試されるような気がします。みんなの意見がまとまらない時、何か1つのアイデアでそれが一気にまとまる瞬間ってあると思うんですけど、そういうのも、答えがない今だからこそ大事だし、そのときに提案できるものを持っていたいと思います。

**若林：**何が大切かを感じる嗅覚みたいなものでしょうか。

**鈴木：**はい。価値を見つける嗅覚だと思います。

**若林：**いろんな価値観があって正解はないんですよね。

**塩田：**そうですね。

**若林：**いろんな価値観の人の議論の中で、全員を納得させる100点満点はやっぱりなくて、どこでバランスしていくかっていうのを考えるってことですよね。そのときにどの価値観を芯にするか。いろんな人がいろんな意

見を言ってくれたときに、嗅覚で一つの意見を拾って、「今の言葉、いいですね。それを形にするとこんなになりますけど、どうですか」って言って、何となくふわっと丸く納まる。だけど、みんな100点満点じゃないけど、何か納得しているみたいところ。

塩田：そうですね。皆さんそういう感覚？  
いろんな意見から自分が恣意的に一部を選んでうまくデザインに生かすみたいなことなんですか？

若林：いやいや、恣意的に言葉を選ぶってことじゃなくて、自分の感覚でその言葉がみんな共鳴すると思う言葉を選ぶってことかな。

塩田：ああ、そこを取り上げるということ。

若林：だから、いいデザインをするためにはこの言葉を選ぶということは一切なくて。

塩田：違うんだ。

若林：ええ。

塩田：すみません。そういうことをしていたのかと思って。

若林：いやいや、そういうことはしていない。(一同笑い)

塩田：はい、分かりました。よく分かりました。

若林：いろんな要求を形にするのが僕らに求められる才能じゃないですか。

塩田：そうですね。

吉田：最後に形にするところって、やっぱり決断しなければいけなくて。そこにどの形を持ってくるかっていうのは、皆さんそれぞれの実力で決める。たとえAIといえどもできないところかなって感じがしますね。

三宅：さっきの話でだいぶ共感できる部分があって。結局、色々な条件がある中での打合せにおいて、ある言葉を聞いた瞬間「いける」って思う瞬間があって。その瞬間になる状態が今日の発表でいうと潜在的な要件を引き出すってことなのかもしれません。例えば、設計の段階なら配置や平面計画とか、現場の段階なら受付カウンターの家具とか。その都度のフェーズで、その言葉に応じて形にすれば、たぶんきつと竣工後もうまくいくっていう手応えを探ってることだと思います。

塩田：もう少しいろいろ聞きたいんですけど、9時半が会議室の限度でしたよね。小杉さん、松下さんから一言。

松下：はい。先にいいですか。今の話で、時代的にも昔みたいにいけいけどんどんで、物があればある程度いいみたいなどのときは、丹下さんみたいなぐんぐんいく人がいたけども、今って結構、各個人に選択肢が多くなってきてるし、その価値観が自分で多様化できちゃうっていうので、そうやって選んでいく場所っていうのに対しては、そういったワークショップをしているんだろうなっていう思いがあるし、建物もどんどん縮小化して、複合化していったときに、今までの事例がない中でどうやってくかってなったときの1つの手法だったんだろうという気はしています。

久保：どうやら小杉さんが締めっばい。

塩田：締めっばいやつでね。

小杉：建築がずっと魅力ある産業であり続けるために、オープンであることは避けられない流れだと思っています。特に組織に属しているとその傾向が強くなるのかもしれませんが、これまで設計者が思っていたような、1人で何でも抱え込み、悩む時代じゃなくて、BIMツールなどを使って他者と積極的に協業したり、ワークショップなどを通じて他者を巻き込みながら事態を広く打開していかないと、持続可能で魅力的な働き方には向かっていけないと思います。この人が倒れたら、このプロジェクトも倒れるではいけない時代に来ていることを感じています。

塩田：ありがとうございます。

篠原：素晴らしいね。

塩田：では、最後に中井さん、一言。

中井：今日、すごく皆さまの、21世紀委員会の20年前にやられていたことと、今皆さんがやられていることの意見が出て大変面白かったなと思っています。大体キーワードは「コーディネートする」だとか「価値観」だとか「共有」とか、そういったことがキーワードとしては出てきたのかなと思います。

結局、建築そのものが何もないものを生み出す、存在しないものを生み出すのに、それを考え出すために皆さんが何をやって、生み出すために何を考えるのかっていうことですね。何もツールがないときは自分たちで調べないといけなかったし、でも自分だけでは足りなかったの、仲間とかいろんな人に聞いてやったり、自分で考えてやったりした。今

はそうしたことをやる時に、地域の人たちに直接聞くということがもうツールとしてあったり、いろんな専門家の人たちがいっぱいいるので、そういった人たちとコラボすることで、そういった今から起こること、起こしたいことをみんなで考えて答えを見つけていく、要は生み出すためのことを皆さんそれぞれやられているんだろうなと思いました。

特に、「ワークショップ」もキーワードになりましたが、ゼネコンの設計部の方々は、利用者の方とワークショップというのは、なかなか経験やそういった機会がないのかもしれない。しかし、ゼネコンの方々も将来を考える時に、小杉さんや佐藤さんも防災の話をされましたけど、シミュレーションだったり、データを取ることによって、被害を予測していくということをされています。皆さんそれぞれの立場で、ものすごくいろんなことを駆使されていることがよく分かりました。いろんなことを考えながら昔も今もそういったことをやられてるんだなと思いました。つまり、うまく使えばいいんじゃないかなと。いろんなものを上手にうまく使って、使いこなして、使い倒して、新しい建物、建築を考えていくのがやっぱり設計者の皆さんの役割なのかなと思いましたので、そういった意味で今日はすごくいい、若い人たちと大先輩たちと、まあ、大じゃないな、ちょっと先輩たちとお話しできたのは良かったのかなと思いました。以上です。

塩田：どうもありがとうございました。立派な記事になると思いますので。

(一同笑い)

中井：そうですね。ありがとうございます。

塩田：これで締めたいと思います。皆さん、ありがとうございます。

中井：どうもありがとうございました。



## 岐阜市・ 「じゅうろくてつ めいギャラリー」

愛知工業大学工学部建築学科  
教授

中井孝幸

1967年 大阪府生まれ  
1991年 三重大学工学部建築学科卒業  
1993年 三重大学大学院工学研究科修士課程  
修了  
1993年 三重大学工学部建築学科助手  
2001年 安井建築設計事務所名古屋事務所  
2005年 INA新建築研究所名古屋支社  
2006年 愛知工業大学工学部都市環境学科講  
師  
2008年 愛知工業大学工学部都市環境学科准  
教授  
2009年 愛知工業大学工学部建築学科准教授  
2016年 愛知工業大学工学部建築学科教授  
現在に至る

## ■東海特集号テーマ：建築がつな ぐ都市、地域、まちの記憶

2017（平成29）年度から、東海特集号では「建築がつなぐ都市、地域、まちの記憶」と定め、第1回は名古屋市・稲葉地配水塔・演劇練習場「アクテノン」、第2回は三重県大台町の「大杉谷自然学校」を取り上げた。

さて今回の第3回目の施設は、愛知、三重ときたので、今回は「岐阜県」にすることに。しかし、私自身が残念ながら岐阜県に縁もゆかりもないため、それならばまた詳しい人に教えを乞おうと思い、岐阜工業高等専門学校（岐阜高専）の建築学科准教授の清水隆宏先生にご相談させて頂いた。

清水先生は、建築歴史意匠の分野がご専門で、歴史的な建造物はもちろん、インテリア分野や都市史など、たいへん幅広く研究活動を行っている方である。その清水先生から、ご紹介いただいたのが、「じゅうろくてつめいギャラリー」である。

## ■「じゅうろくてつめいギャラリー」

「じゅうろくてつめいギャラリー」（以下、てつめいギャラリー）は、岐阜貯蓄銀行が1937（昭和12）年に本店として、鉄骨鉄筋コンクリート造、地下1階、地上3階建ての約1050㎡で建てられ、1943（昭和18）年に十六銀行徹明支店として使われ、2005（平成17）年に業務を終了した。

その後、2007（平成19）年に十六銀行の創立130周年記念事業として、地域に開かれた市民ギャラリーとして整備を行った。現在も、大変よく利用されており、予約がなかなか取れない時期もあるほどである。

また、1982（昭和57）年から、3階部分は十六銀行女子卓球部の練習場として利用されている。十六銀行の女子卓球部は、2019（平成31）年の前期日本卓球リーグ女子1部で優勝するほど、強豪チームとしても有名である。

1998（平成10）年に岐阜市から「都市景観重要建築物」に指定され、2018（平成30）年に「景観重要建築物」に格上げされた。

## ■銀行から地域開放型ギャラリーへ

今回、特集記事で「てつめいギャラリー」を取り上げることが決まってから、十六銀行

へ取材の申し込みを依頼し、施設の見学を行った。その際に、銀行支店を地域にギャラリーとして開放した経緯を是非ともお聞きしたかったのだが、詳しい経緯が分かる方も行内にいらっしやらず、詳しい資料も残っていないとのことだった。

そうした中で、いくつかの資料をかき集めていただき、行内の「てつめいギャラリー」の活用方法を再検討する内部資料に、「元々“市民の公民館”をコンセプトにコストをかけず積極集客しない無償ギャラリー」として整備したとの記載があった。また、資料が7年目の2014（平成26）年に作成されており、これからの方向性としても、「岐阜市内のまちなか賑わいの創出の基、歴史的建造物である同ギャラリーをより市民に開放し親しみを持っていただきたい。みんなが集うような施設にしたいという方向性。」とある。

銀行からギャラリーへ転用した詳しい経緯は、明らかにできなかった。しかし、資料や担当者への聞き取り調査から、地域に長く愛された建物を使い続けながら、市民の学習活動の「場」を提供する地域貢献の役割があったのではないかと考えられる。

## ■様々な立場からの論考

特集号としては、毎回様々な視点から一つの建物を取り上げたいと考えている。今回は詳しい資料が残っていないのだが、歴史的な建物やまちづくりの視点などからの考察を岐阜高専の清水先生に執筆していただく。また、現地取材による見学記や現在の利用状況などについての報告を中井が担当する。

中心市街地にある施設の「保存と活用」について、また銀行という民間施設が地域に開いた計画の意義についても論考していきたい。

（なかい たかゆき）



図1 じゅうろくてつめいギャラリーの外観  
(2019年12月)

# 旧岐阜貯蓄銀行本店 (現じゅうろくてつ めいギャラリー) の むかしといま

## 建築概要と活用事例

岐阜工業高等専門学校建築学科  
准教授

清水隆宏

1977年 愛知県生まれ  
2001年 名古屋工業大学工学部社会開発工学科卒業  
2003年 名古屋工業大学大学院工学研究科博士前期課程修了  
2006年 名古屋工業大学大学院工学研究科博士後期課程修了  
2006年 岐阜工業高等専門学校建築学科助手  
2008年 岐阜工業高等専門学校建築学科講師  
2011年 岐阜工業高等専門学校建築学科准教授  
現在に至る

## ■岐阜市の都市形成

2020年岐阜県各地は、NHK大河ドラマ『麒麟がくる』ゆかりの地として、盛り上がりを見せており、岐阜市もその1つである。同ドラマのような戦国武将が活躍した時代から江戸時代、町の中心は金華山の麓が城下町として賑わっていた。現在でもこの地域では、長良川鵜飼や川原町の古い町並み、岐阜大仏等が観光客を楽しませている(図1)。その後の明治・大正・昭和時代、東を金華山、北と西を長良川に挟まれたこの地域は、町の発展と共に町の中心が南西～南方向へ順に移動していった。大正末には、県庁も市役所も金華山の麓から約2km南下した場所に建設されており、さらに昭和中期には全国的に知名度のあった繁華街柳ヶ瀬はそれよりさらに約1km南に位置する。平成から令和となった現在は、さらに南へ約1kmのJR及び名古屋鉄道の2つの岐阜駅付近が賑わっている。



図1 金華山と長良川

一般的に同じ土地で個々の建物が、町の特徴や時代の特徴等を踏まえて分散的に改修・更新されることで、多様性を持った重層的な町並みが形成される。そのため、町の歴史の変遷は定点的な視野で考察することでより深く理解できる。一方で、岐阜市の中心部は金華山の麓から岐阜駅までを移動して観察することで、近世・近代から現代までの町の歴史、建築や町並みを連続的に感じ取ることができる。通常積層される歴史がズレて露出し連続的に確認できる点、これが岐阜市の都市空間



図2 竣工時外観<sup>1)</sup>より

の魅力だと考えられる。そこで、各時代の歴史を今に伝えるシンボリックな遺構が重要になるが、岐阜市の近代の発展を今に伝える歴史遺構として、本稿で対象とする岐阜貯蓄銀行本店の建築(図2)は重要であろう。

## ■岐阜貯蓄銀行本店の建築的特徴

岐阜貯蓄銀行は、明治28年岐阜市米屋町にて開業、大正に入り美園貯蓄銀行を合併、業績の「驚異的な高収益」<sup>2)</sup>に後押しされて、昭和12年鉄道駅に近い徹明通の現在地へ本店が移された。この建物が現存するが、岐阜貯蓄銀行は昭和18年に同じく岐阜市を拠点とする十六銀行へ合併され、本店建物は十六銀行徹明支店となった。その後の変遷については後述するが、建物は現在、景観法の規定に基づく景観重要建造物に指定されている。

設計は多くの銀行建築の設計で知られる西村好時(明治19年～昭和36年)、施工は竹中工務店である。西村は明治45年に東京帝国大学を卒業後、いくつかの事務所勤務の後、大正3年4月より6年弱の間は清水組設計部技師として活躍、大正9年1月からの約11年間は第一銀行の技師、建築課長を勤めた。第一銀行本店の竣工を機に独立し、昭和6年5月西村建築事務所を開設した。岐阜貯蓄銀行本店としては3代目となる建物(図2)は、昭和10年12月起工、同12年5月竣工で、西村建築事務所の初期の作品である<sup>1)</sup>。

現存するのは徹明通に面した北側を正面とする、鉄骨鉄筋コンクリート造・3階建ての本館のみであるが、当初は鉄筋コンクリート造・2階建ての附属館も敷地奥の南側に建っていた。本館の正面外観意匠は、銀行建築らしく全体的に西洋の古典建築様式に倣った意匠となっている。「1階中央部のみ突き出た庇とそれを支える両脇・上部の三方を囲む存在感のある出入口枠部」、「下部の基壇とその上



図3 石造彫刻の装飾

に並ぶ4本の角柱及び2階と3階の境で立面を水平に分節するエンタブラチュア」によって装飾された壁面は、奥行き感のある立体的な構成を表現するだけでなく、後述の内部の空間構成も示している。これは西村が手掛けた多くの銀行建築でみられる特徴である。一方で、石造彫刻の装飾（アンテフィクサ、図3）がエンタブラチュア上部に4つ（角柱の位置に合わせて）間隔を空けて設置されているが、これは西村設計の他建築（『西村好時作品譜』<sup>3)</sup>）に掲載されている建築では、同様な装飾を用いる場合は最上部の軒上に連続して多数を設置している例が多い）とは異なっている。

次に本館内部は、1階はまず風除室があり、その先は北側から西側奥までL字形の客溜りとなる。当初は客溜りの東端は応接室であったが現在は出入口となっている。同じくL字



図4 竣工時平面図<sup>3)</sup>より（一部筆者加筆、修正）



図5 竣工時内観<sup>1)</sup>より



図6 客溜り床（2007年2月撮影）

形のカウンターで仕切られた内部は営業室、その奥には西から別の応接室・支配人室・金庫・書庫が配置されていた。これらの空間は現在でもそのまま残されている。営業室と客溜り上部は2階まで吹抜けており、2階床の高さで北面を除く三方向にギャラリーが廻る。以上の空間構成は、一般的な銀行建築の形式と言える（図4、図5）。

今回収集した資料（文献<sup>1)3)</sup>）から読み取れる竣工当時と現状で異なる点について、以下に指摘しておく。客溜り側の腰壁・カウンター・床は石材が用いられていたが、カウンターはてつめいギャラリーへの改修時（上部に設置されていた砲金製仕切りはそれ以前）に撤去され、白黒の市松模様が美しい床（図6）はカーペットに隠れ、現在目にすることができるのは腰壁に張られた落ち着いた薄ピンク色の石材のみである。2階ギャラリーの手すりは、意匠が現状とは異なっており、取り替えられている。また、営業室中央に吊り下げられたシャンデリア、壁面のブラケット照明は現存しない。

2階は営業室を見下ろす吹抜けとギャラリーが大部分を占めるが、その南側に部屋が1つある。竣工時の使われ方は不明だが、現状では壁上部と天井に金色のモールディングが廻り、重役室や会議室といった特別な部屋であったことが窺える。3階についても不明な点が多いが、昭和57年の改修以降現在まで十六銀行女子卓球部の練習場として使用されている。下階の吹抜け上部に当たるこの空間は、壁面と天井部分は旧状をよく留めており、現状では広く1室として利用する練習場となっているが、以前は西側の2スパンは「南北にアーチが掛かる天井を持つ部屋」と、東側の1スパンは「東西に小梁を渡した平天井に壁面は腰板が開口部上部まで高く張られた部屋」の少なくとも2室に仕切られていたと推察される。

以上、岐阜貯蓄銀行本店の建築について断片的ではあるが把握できたことを記した。装飾の要素はさほど多くない、地方の小規模な銀行でありながら、簡素で単調な建築、他と類似した画一的な建築との印象を感じさせず、ある程度の威厳と堅固なイメージを確保しつつ、多少なりとも独自性を備えた貴重な近代建築と評価できる。

## ■じゅうろくてつめいギャラリー

岐阜貯蓄銀行本店は、その後、十六銀行徹明支店として利用されていたことは上述の通りである。さらに平成19年からは「じゅうろくてつめいギャラリー」に改装され、地域開放された無料で利用可能な市民ギャラリーとして活用されている。筆者がてつめいギャラリーを使用した事例について次に紹介したい。

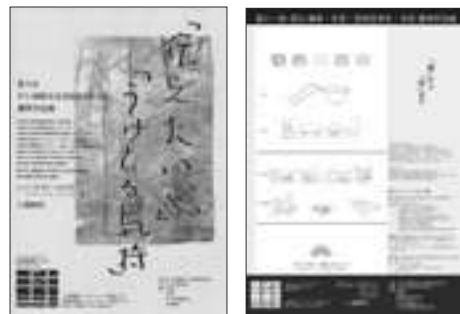


図7 作品展ポスター

日本建築学会東海支部岐阜支所では、主に県内にある大学・短大・高専・高校等の建築・生活デザイン系学科で学ぶ学生らを奨励し、就学意欲の向上に資するため、毎年3月に「ぎふ建築・生活・芸術系学生・生徒優秀作品展」を開催している（図7）。この作品展の展示会場として平成22年から7年間、てつめいギャラリーを使用させていただいた。また作品展以外にも、講演会やシンポジウム等も開催した。その概要を表1に示す。

表1 岐阜支所のとつめいギャラリー利用実績

| 利用時期                        | 行事名                                      |
|-----------------------------|------------------------------------------|
| 平成22年3月<br>～平成28年3月<br>の計7回 | ぎふ建築・生活・芸術系<br>学生・生徒優秀作品展<br>講演会または合同講評会 |
| 平成22年6月6日<br>～6月13日         | 旧岐阜県庁舎+医学部跡地<br>保存再生活用 計画展               |
| 平成22年6月12日                  | 講演会：講師 水野一郎氏<br>「保存活用のデザイン」              |
| 平成22年6月19日                  | 講演会：講師 林章二氏<br>「歴史的建造物保存活用の<br>構造と耐震問題」  |
| 平成23年5月14日                  | 公開シンポジウム<br>「旧総合庁舎→<br>総合芸術センター計画」       |

作品展は、前年まではJR岐阜駅に直結した施設を使用していたが、使用料が高額であること、駅近くの立地でありながらさほど入場者数が多くなかったこと等の理由により、新たな会場を検討していた際、てつめいギャラリーの存在を知った運営委員の提案により会場変更することになった。保存活用された建築を積極的に利用することは、建築学会岐阜支所としての責務であると判断されたし、近

い将来に建築士や施工管理者等として建築に携わる学生らの作品展示の場自体が、魅力的な建築・空間であることはとても素晴らしいと考えられた。そして何よりも、無料で使用できることが当時支所会計を担当していた筆者としては有難かった。



図8 設営の様子



図9 ギャラリー・生活・芸術系学生・生徒優秀作品展



図10 同 合同講評会

新しい会場での初めての設営の際は不安も多かったが、机や椅子、展示パネルや展示台等、展示に必要な備品も十分に用意されており（しかも無料で使用可能）、スムーズに設営ができた（図8）。実際に学生の図面や模型を展示すると、会場の魅力も加わった良い雰囲気の展示空間が完成し、若い学生の創造性豊かではありながら荒削りな面もある作品を見つつ、ふと周囲の壁や天井に目をやると、現実に荘重な空間が広がっている、そんな全身で建築を感じることもできる作品展となった（図9）。また、作品展中に講評会を実施した際には、プレゼンテーションを行った学生も講評を依頼した県内で活躍する建築家も、近

代建築を保存活用した会場の魅力とそこで行う講評会に大変満足していた（図10）。その他の来場者を含め、作品展を見るために訪れて初めてこの建物の存在を知った方もおり、我々としてもその価値と活用の可能性を広めることに、多少はお役に立てたのではないかと感じている。

本稿執筆のため十六銀行の方、てつめいギャラリー職員の方にお話を伺った所、近年は利用希望者が増加し、より多くの個人・団体が借りられるよう、利用日数の調整が必要なほど活発に利用されているとのことであった。確かに、てつめいギャラリーの使用については何の不満もなく、良いことばかりであったので、この盛況ぶりは利用経験者として十分に理解でき、元の銀行建築が保存活用され、地域にとって欠かすことのできない施設へと転用が成功したことを嬉しく思う。

実は、平成29年3月より我々の作品展は、岐阜市民会館（昭和42年竣工、設計：坂倉準三、図11）の展示ギャラリーで開催している。てつめいギャラリーは、さすが銀行が所有する施設だけあって決められた時間通りに利用が終われるよう、閉館時間の17時直前になると毎日職員の方から片付けを促していただけるのだが、少々時間にルーズな我々が使用時間をオーバーしそうになり、迷惑をお掛けすることが何度かあった。その気まずさが再度の会場変更の原因、というのは冗談で、岐阜市民会館もまた竣工から時間が経過し、今後



図11 岐阜市民会館



図12 羽島市庁舎

の保存活用が検討される建築であること、また、隣接する羽島市出身の近代建築家坂倉準三の設計による同市市庁舎（図12）と合わせて、後世に引き継ぐべき岐阜県の建築遺産であると考え、建築学会岐阜支所としてはてつめいギャラリーの時と同様に、自ら活用することで少しでも多くの人々にその存在と空間の魅力を発信しようと考えたからである。

## ■まとめ

全国各地で保存活用されることなく解体される近代建築が多くある。特に銀行建築は、銀行の統廃合が常に繰り返されていることや、利便性が高い立地で建て替えを伴う再開発の影響を受けやすいことにより、銀行が所有したまま保存活用されることは容易ではない。しかしながら、旧岐阜貯蓄銀行本店の建築は、その後合併した十六銀行の支店が閉鎖された後も、同行が所有し続け、同行の組織（卓球部）によって継続して使用されるのと同時に、一般市民にも開放され利用されていること、複数の機能を持たせて活用されている点が興味深い。いずれか一方だけの機能しかなければ、存続は難しかったかもしれない。つまり、行内組織が利用するだけであれば、他の関連施設内に代替可能な空間があったであろうし、一般市民の利用だけであれば他の事業者を探し譲渡する、事業者によっては土地だけ利用するということに繋がったかもしれない。支店閉鎖の時期（平成17年）と創立130年記念事業（平成19年）を行う時期が近かったというタイミングの良さもあったと推測されるが、十六銀行の英断に感謝しつつ、さらなる今後の継続的な活用を期待したい。

## 参考文献

- 1) 株式会社岐阜貯蓄銀行：「昭和十二年六月 新築竣工記念」、株式会社岐阜貯蓄銀行、（昭和12年）
- 2) 株式会社十六銀行：「十六銀行百年史」、株式会社十六銀行、昭和53年3月
- 3) 中村勝哉：「西村好時作品譜 自大正5年 至昭和25年」、城南書院、昭和25年11月

## 謝辞

本稿執筆にあたりヒアリング調査、資料の提示等、ご協力いただいた十六銀行及びじゅうろくてつめいギャラリー職員の皆様に深く感謝いたします。

また、今回執筆の機会を与えていただいた愛知工業大学の中井孝幸教授にも感謝の意を表します。

（しみず たかひろ）

# 銀行から 学習活動の発表の 「ハレ」舞台へ

愛知工業大学工学部建築学科  
教授

中井孝幸

1967年 大阪府生まれ  
1991年 三重大学工学部建築学科卒業  
1993年 三重大学大学院工学研究科修士課程修了  
1993年 三重大学工学部建築学科助手  
2001年 安井建築設計事務所名古屋支社  
2005年 INA新建築研究所名古屋支社  
2006年 愛知工業大学工学部都市環境学科講師  
2008年 愛知工業大学工学部都市環境学科准教授  
2009年 愛知工業大学工学部建築学科准教授  
2016年 愛知工業大学工学部建築学科教授  
現在に至る

## ■銀行からギャラリーへの転用

今までの2回の特集は、公共建築物の転用を取り扱ってきたが、今回は民間所有の建物の転用事例を扱うことになる。1943（昭和18）年に建てられ、戦災を奇跡的に免れた建物であるため、昭和のレトロな雰囲気を外観・内観ともに残している（図1、2）。

そしてまたユニークなのが、岐阜市の中心市街地に立地した十六銀行の支店として運用している最中の1982（昭和57）年から、最上階の会議室を女子卓球部の練習場として利用していることである。1階の支店業務は2005（平成17）年に終了したが、3階部分だけは使い続けており、現在も1階は地域開放型ギャラリー、3階は卓球の練習場として利用されている（図3、4）。



図1 じゅうろくてつめいギャラリーの外観  
(2019年12月)



図2 じゅうろくてつめいギャラリーの内観  
(2019年12月)

## ■改修工事の経緯

主な改修の経緯は、以下の通り。

1937（昭和12）年 岐阜貯蓄銀行店舗新築  
延床面積1052.32㎡  
1943（昭和18）年 十六銀行徹明支店  
1964（昭和39）年 店舗改修  
1965（昭和40）年 エレベーター  
1968（昭和43）年 増築  
1969（昭和44）年 車庫上屋  
1975（昭和50）年 金庫  
1982（昭和57）年 3階卓球練習場改修  
1983（昭和58）年 シャワー室  
1997（平成9）年 キャッシュコーナー設置

2007（平成19）年 てつめいギャラリー改修  
時代と共に、建物に少しずつ手が入られ、80年以上も使い続けられている。



図3 「てつめいギャラリー」の平面図  
(使用の手引きより)



図4 「てつめいギャラリー」の断面図  
(十六銀行より)

## ■使用の手引き（予約の取り方）

「じゅうろくてつめいギャラリー使用の手引き」では、下記のように明記されている。

..... 記 .....

「じゅうろくてつめいギャラリー」は地域の皆様の「文化活動の発表の場」として使用して頂くための施設であり、無料で使用して頂くことが出来ます。

使用可能日：年末年始（12/31～1/3）の休館日・臨時休館日を除き年中無休

開館予定時間：午前10時～午後5時

1回使用期間：1企画について1週間以内を目処とします。

※上記の趣旨から、次に該当するものは使用できません。

1. 販売・会員募集等のあるもの
2. 入場料等を徴収するもの
3. その他展示内容が相応しくなく、当ギャラリーにおいて不適切と認めるもの

.....

申込は通常申込は、1年を上期（1月～6月）と下期（7月～12月）に分け、申込日の翌年同時期内の日を使用希望日として申込ができる（最長で1年半先）。また、期近申込は通常申込が終了した期間に空きがある場合は、先着順で申込ができる。

当初の使用期間は2週間としていたが、非常に人気があって申込が重なったため、1週

間以内にしたとのこと。日程は第3希望まで記入してもらい、十六銀行で審査をしている。

## ■ギャラリーの様子

1階の展示ギャラリーは、吹き抜けの開放的な200㎡の空間であり、明るくてスケール感もとてもよい印象を持った。吹き抜けにはキャットウォークが張り巡らされているが、銀行の支店だった頃の家具は取り払われ、ワルームの空間となっている。

金庫は、今は倉庫として利用されており、鉄格子の中にも入れるし、扉にある複雑な鍵の歯車も見ることができる（図5）。なかなか銀行の金庫の中に入ることにはできないが、てつめいギャラリーでは中を見ることができ、まるで映画ロケのセットを覗いているようで、何か妙な気分（？）になって楽しい。

応接室は、重厚な家具調度品が置かれ、非常に落ち着いた雰囲気であった（図6）。今回の私たちの取材もこの部屋で行われ、イベント時は主催者の控室としても利用される。



図5 倉庫として利用している「金庫」(2019年12月)



図6 スタッフの控室となる「応接室」(2019年12月)

## ■今までの利用状況について

今回の聞き取り調査では、平成27年度以降の利用状況の詳しい資料は入手できたが、それ以前は「てつめいギャラリー」の活用方法を再検討した2014（平成26）年3月の資料に、「延べ260団体、平均年間利用者60団体、稼働率75%超、予約は1年3ヶ月待ちで、日程調整がつかない状況」とある。

2015（平成27）年度から2019（平成31）年12月までの「てつめいギャラリー」の利用者統計をみると、2017（平成29）年度は利用が少なく、全体的に利用もゆるやかに減少しているが、年間40～50団体、220～260日と稼働率は60～70%を維持している（表1）。

表1 てつめいギャラリー利用者統計

|              | 団体数 | 使用期間  | 来館者数   |
|--------------|-----|-------|--------|
| 2015（平成27）年度 | 56  | 267   | 12,241 |
| 2016（平成28）年度 | 50  | 230   | 10,497 |
| 2017（平成29）年度 | 28  | 125   | 6,208  |
| 2018（平成30）年度 | 45  | 229   | 9,331  |
| 2019（平成31）年度 | 41  | 210   | 5,838  |
| 合計           | 220 | 1,061 | 44,115 |

2019年12月15日現在  
（十六銀行より）

十六銀行から、ここ最近の5年間の使用団体名の資料を見せて頂き、利用している団体名をみると、常連さんもいるが、新規のグループもある。例年、絵画や書道、写真、キルトなどの展示会が多いが、建築学会や岐阜工業高校、岐阜女子大学による建築図面の展示も行われている。

また、講演会の利用も多く、講演用の座席数は、消防の指導もあって110席となっている。備品としての展示パネルや展示台などは、無料で利用できる。

## ■音楽活動の発表の場として

2010年10月に開場3周年を記念して、コンサートを実施している。グランドピアノを購入してから、ピアノは常設されているそうだが（図7）。ピアノも無料で利用でき、調律はコンサートごとに自費で行っている。



図7 ギャラリー常設の「グランドピアノ」(2019年12月)

今でもピアノコンサートやピアノの発表会など、年間2～3回は利用されている。また、ジャズヴォーカルやリコーダー、フルートなどのコンサートにも利用され、まさしく地域住民の「文化活動の発表の場」として根付いてきている印象を受ける。

十六銀行でも、「てつめいギャラリー」をセミナーや年に一度卓球関連のイベントの表彰式の際に利用することもある。

## ■卓球練習場

今回はチームの皆さんが練習されていたが、3階の卓球練習場も特別に見学させていただいた。もともと大会議室だったので、天井高さも3.2m確保されており、ギャラリー部分がそのまま練習場の広さとなっている（図8）。

卓球競技は風の影響が大きく、空調設備の吹き出し口が特殊で興味深かった（図9）。



図8 3階の卓球練習場 (2019年12月)



図9 3階の卓球練習場にある空調設備 (2019年12月)

## ■銀行が学習活動の発表の「場」に

「てつめいギャラリー」は、岐阜駅に近いなど立地もよく、また館内の雰囲気が普通のホワイトキューブの展示空間とは大きく異なるためか、絵画などの展示だけでなく、ピアノなどのミニコンサートも行われている。

地方銀行という地域密着の企業だったことも、転用がうまくいった要因の一つだが、外観も含めて、内観の雰囲気その他施設との差別化が、地域の利用者に発表の「ハレ」空間として認識されているのではないかと考える。今後益々のギャラリーの利用促進と、十六銀行卓球女子チームのご活躍を祈念しています。

最後に、十六銀行法人営業部地域開発グループ後藤育実氏、足立磨美氏には、取材にご協力して頂きました。ここに深謝いたします。

（なかい たかゆき）

# 納マリ倶楽部

## 東海支部青年委員会における 30代前後の若手設計者の 活動報告

開催日：2019年3月8日（金）  
2019年6月28日（金）  
～6月29日（土）  
2019年12月10日（火）

執筆者：

中井孝幸（副委員長）

愛知工業大学工学部建築学科 教授

久保久志

東畑建築事務所名古屋オフィス 設計室

三宅伸幸

安井建築設計事務所名古屋事務所 設計部

鈴木豊一郎

日建設計 設計部門 設計部

小杉嘉文

竹中工務店名古屋支店 設計部

鵜飼浩平

withU architects

本間千尋

日建設計 設計部門 設計部

李 斯奇

日建設計 設計部門 設計部

## ■納マリ倶楽部の活動報告

東畑建築事務所：久保久志

安井建築設計事務所：三宅伸幸

### 1. 年間の活動報告

2017年9月に発足した納マリ倶楽部の活動も3年目を迎えた。この1年間では「納マリ倶楽部」は計3回開催し、その内2回は「お出かけ納マリ倶楽部」と称して、現地見学会を行った。

3月8日には、急遽な開催案内で多数の参加は叶わなかったものの、第3回お出かけ納マリ倶楽部として、竣工直前の名古屋市内の保育園「りたの芽」での見学会を行った。6月28～29日には、第4回お出かけ納マリ倶楽部を「お泊まり納マリ倶楽部」と称して、全国初のオール木造3階建て校舎となる魚津市立星の杜小学校での見学会を行った。

12月10日には、「設計者に期待されていること」をテーマに、21世紀委員会OBと納マリ倶楽部メンバーによる座談会を開催した（座談会の内容は別途）。

今年は各々が多忙なこともあり、開催が不定期となったが、座談会では、現場の最前線で活躍する各メンバーが今の時代に必要とされる設計者の在り様について語ってくれ、その多様なアプローチから設計者の活動フィールドの広がりを感じた。今後も各々が考える「納マリ」について深く議論できるこの場を大切に活動していきたい。

（くぼ ひさし）（みやけ のぶゆき）



写真 「お泊まり納マリ倶楽部」の様子（星の杜小学校）



写真 「座談会」の様子（竹中工務店プレザールーム）

## ■第3回お出かけ納マリ倶楽部

### 「りたの芽」保育園見学会

#### 1. 「りたの芽」保育園概要

建設地 名古屋市緑区  
敷地面積 2,085.18㎡  
建築面積 757.98㎡  
延べ面積 1,236.18㎡  
構造 RC造 地上2階  
最高高さ 8.050m



写真 りたの芽保育園 外観



写真 りたの芽保育園 内観

## ■第4回お出かけ納マリ倶楽部

### お泊まり納マリ倶楽部

### 「魚津市立星の杜小学校」見学会

#### 2. 「星の杜小学校」概要

建設地 富山県魚津市  
敷地面積 13,849.20㎡  
建築面積 3,528.90㎡  
延べ面積 5,647.21㎡  
構造 木造 地上3階  
最高高さ 14.340m



写真 星の杜小学校 外観



写真 星の杜小学校 見学の様子

## ■ 2回の見学会に参加して

安井建築設計事務所：三宅伸幸

担当作品を見て頂く有意義さ

りたの芽保育園は、モンテッソーリー保育、異年齢保育を行う社会福祉法人の保育園です。ロッカーを前室的に配置した子どもの主体性を担保するホール状の平面形式、体格差に応じた各々の園庭確保、敷地の高低差に応じて分節した建築形態、出隅や転落防止等の安全を突き詰めたディテール等に特徴があります。

思想や背景が少しずつ異なる方々に作品を見て頂くことが、自分自身の新たな視座や視界の広がりを感じることができる、大変有意義なものでありました。

木をツールにした設計・施工・運営の、切れ目のないプロセスの設計

これまで地方での設計を経験したことのない私にとって、富山県魚津市という敷地での建築設計がどのようなものなのか、地方での設計の有り様というものがどのようなものなのかを知る貴重な機会となりました。このプログラムのメインは木造3階建ての学校建築を建てること。法改正に伴う3階建てという先進的な取り組みは技術的な検討事項ですが、魚津市産の木で目一杯建物を作り込むという、もう一つのプログラムに、設計の範疇を一步超えた踏み込みがあると感じます。

木材を適切な時期に納入するべく、木材供給に特化したチームを編成し、木材の先行発注を実現していること。建物の設計を超えて、体制やフローといったフレームワークの設計を行っていることが何よりの独創的な先進性で、このプログラムを実現するポイントであると感じました。こうした木材に関わる取り組みは、設計時・施工時ワークショップと相まって、学校運営を見すえた教職員や児童等の主体者形成の一翼を担っています。

二棟並列型の単純化された平面形式に、要所にワークショップで実現したアートワークが散りばめられ、全体と部分とが単純でありながら多様な様相になっていました。

公共建築の長寿命化と複合化・統合化が待ったなしで問われる近年の設計において、星の杜小学校は魚津市産の木材をツールに木材の調達、施工、ワークショップを通して、魚津市内の関係者を束ね、魚津市ならではの地方でのキラリと光る建築物を実現しているように感じました。

(みやけ のぶゆき)

## ■ 2回の見学会に参加して

竹中工務店：小杉嘉文

りたの芽保育園

15年近く前になるが、入社して初めて携わった設計が幼稚園だった。これから住宅街ができる区画整理中の新しい街区の一画で、意気揚々と新しい街のシンボルを想いながら設計したのを思い出した。「りたの芽保育園」も新しい団地の一画だったが、周囲の住宅が完成した後に計画された故か、建築の在り方が異なり、既成の団地の中で異質なものにならないよう、配慮が随所に感じられる建物だった。敷地奥の牛舎の臭気を遮るように配置されたボリュームと、団地側の住宅サイズに分節された小さなボリュームが土地の傾斜に沿って配置され、ディテールや素材を含めて、周辺の住宅に溶け込む表情を見せていた。そのことが、1日の大半の長い時間をここで過ごす子供達にとって、ここが特別な施設ではなく、ひとつの家としての佇まいになっていくことを感じさせ、この建築の温かさを感じた。

星の杜小学校

久保さんから利用者参加型設計プロセスの経緯や木材コーディネーター、地元行政、多くの木材業者の方などの長期間に渡る参画について説明を伺い、共同設計をされた鈴木一級設計事務所の方からも苦労話や地元での評価など多くのエピソードを伺った。当日は参観会で館内に保護者の方も大変多く、普段以上に活気があった。とてもいい一体感があって、「全国初オール木造三階建校舎」という高い目標を中心に、子供たちを含め多くの力が

一つに結集されたプロジェクトだったことが強く印象に残った。西魚津の環境で育まれていた力がかたちとなり、多くの方に愛されている姿に、建築の魅力を改めて感じた。

(こすぎ よしふみ)

## ■ 2回の見学会に参加して

withU architects：鶴飼浩平

「一般解」をつくる責任

星の杜小学校は、公共建築の木造3階建て学校の全国ではじめての事例である。公共建築物の「はじめて」は、恐らく独特の緊張感があり、以後に続く建築の良き事例でなければならぬという、責務を背負っているのだと考えている。つまり、後続する事例にとって難易度の高い特殊解ではなく、広く一般に受け入れやすい一般解としての事例にならないという責任である。一般解としての木造3階建ての学校の難しさは、誰もが思う「木造は燃えやすい」という疑念に対して、的確に回答をするとともに、「木造が魅力的である」ことを示す必要があるということにあると考えている。しかし、実はその2点は相反しており、燃えにくくするために石膏ボードで内装を被覆しなければならないといった法的な仕様にも表れている。星の杜小学校では、「燃えにくい」仕様にするために、細部にわたり防耐火を徹底している。天井点検口の耐火シール等、後続する事例に対して、甘えを許さない程の徹底を見ることができる。

その一方で、木造3階建てで否応なく一定のピッチで現れる集成材の柱を効果的に魅せることで、被覆が多い1・2階であっても、木造の魅力を伝えている。木製の建具や家具とのバランスも熟考されている。防耐火と木の魅せ方のバランスを取りながら双方を両立する技は、多くの木造の学校に携わった設計者だからこそのバランス感覚である。これから木造3階建ての学校は全国の至るところで検討されることになる。その際に星の杜小学校は、誰もが木造3階建て学校を安心して受け入れ、木造の普及に貢献する、厳しくも温かい好例として引用されるであろう。見事に「一般解」をつくる責任を果たされた、設計者を始め関係者の方々に敬意を表したい。

「沿う」ということ。

建築をつくる時に、設計者は様々な諸条件を読み解き、建築として形づくる。その様々な諸条件というパラメーターが、固有の形や空間を生み出すという言い方もできる。りたの芽保育園は、保育園の運営方法・立地条件・クライアントのこだわり等、形や空間を決定づけるパラメーターが多く、そのパラメーターを整理・変換して建築をつくられた印象を受けた。異年齢交流を目的とした縦割りでのクラス割構成、共用部の準備スペースの設置といった保育園の機能面のパラメーター。「隣接する牛舎の臭気」「3m近くある敷地内高低差」「低層住居地域」「閑静な住宅街の一角」といった立地条件のパラメーター。そして、クライアントの屋根・内装・設備・開口部への強い御意向といった要望面からのパラメーター。そのパラメーターに対して、真摯に向き合い、整理しながら、変換して建築にされているのが印象的であった。

その結果が、ホールのような保育室や風景に溶け込む分割された建物ボリュームに表れており、固有の建築に昇華されていた。設計者の意思で牽引するのではなく、条件に従属するのでもなく、条件と「沿う」ことで建築をつくるといった印象を受ける建築であった。住宅街の中に溶け込み、園の運営にもきちんと機能性を確保し、さらにクライアントの御意向も満足させることができている建築であり、多様なパラメーターを整理し、変換して建築に反映するといった、設計者の「沿う」という姿勢の賜物であると感じた。建築はもとより、設計者の姿勢としても学ぶことの多い建築であった。

(うかい こうへい)

## ■教室、ワークスペース、小空間

愛知工業大学：中井孝幸

私は建築計画学を専門としているため、今回も設計者の目線より、皆さんと異なる建築計画的な視点から感想を述べたいと思う。

### 教室、ワークスペース、小さな空間

学校建築の平面計画は、オープン化が浸透しており、教室の前面には「ワークスペース」が計画されることが増えてきている。しかし、空間認知能力も未発達な児童たちにとっては、

教室と同じ広さのワークスペースがつながる廊下は、スケール感を超えた大きな空間として目に映っているとも考えられる。



写真 教室前のワークスペースと廊下

星の杜小学校は、木造3階建てが話題ではあるが、このワークスペースをどのように子どもたちが使っているか見ていきたい。教室とワークスペースとの間には、大きな可動間仕切りの設置が多いが、星の杜小学校では幅900程度の引き戸が何枚も引き込まれていて、また直交方向に袖壁があるため小さなコーナーが形成されている。この小さなコーナーに机が置かれて掲示が行われるなど、子どもたちの寄り付きやすいスペースができていた。



写真 教室と廊下のワークスペースとコーナーづくり

### 手で触れられる小さな空間

近年、ワンルームのフラットな空間の計画が多いが、空間に寄り添う「きっかけ」もなかなか見つけられない。柱一本、少し飛び出た壁が、近づきやすさを生み出し、自分の教室に愛着を持って手で触れて欲しい。星の杜小の各教室前の空間がどのように設えられているか、調査してみたい。

(なかい たかゆき)

## ■木造小学校

日建設計：鈴木豊一郎

大学の卒業制作で木造小学校を設計した。今も設計したい気持ちは変わらず、星の杜小学校の建築空間、子供たちの様子について、

興味津々で見学させてもらった。

### 木造3階建て校舎

建築基準法が改正され、木造3階建ての学校が計画しやすくなったものの、越えなければいけないハードルはまだたくさんある。地域との協働、木材確保等、仕組み作りから始め完成させたことは、何より関係者皆様のご尽力の賜物と感銘を受けた。見学当日は授業参観日で保護者の方々も多く、自分の学校を自慢げに案内する子供と、こんな小学校良いなど言いながら歩く保護者の様子を見て、地域に愛され共に育っていくのだと感じ嬉しく思った。木造校舎の醍醐味は、皆でハードルを越えた分、より地域の一体感を生むことなんだと改めて感じた。



写真 教室に広がりを生むワークスペース

### 設計者の経験から創出された余白スペース

教室と廊下という主要な場所をいかに豊かな空間にするかということは大切だが、そこに付加される余白スペースが子供たちの居場所をより魅力的にしているように感じた。特に教室と廊下の間のワークスペースは特徴的で、天井高さをあえて廊下側で低くすることで、クラス毎のキャラクターが感じられる居心地の良い中間領域になっていた。この空間をいかに使いこなすかは、子供たちの自由な発想と先生のアイデア次第であり、今後が楽しみである。

(すずき とよいちろう)

## ■地場産の木材を使い切ること・ 伝え続ける事への工夫

日建設計：本間千尋

東畑建築事務所様と納マリ倶楽部の皆様によるご厚意で、まだまだ建築設計者として未熟者の私も星の杜小学校の見学会に参加させていただきましてこと、感謝申し上げます。

今回参加させていただき、全体的にまず感じたのは「木材を使い切ること」への執念です。東畑建築事務所様は他の様々な物件でも木材を使いこなしした実績と経験がありとお聞きしましたが、今回は全国初の本造3階建ての小学校とのことで、実際に小学校校舎内を少し歩いてだけで、木材を余すことなく使いきることにこだわると知識が十分に集約されていることが伝わってきました。とても温かみのある建築でありながらも、設計者の卵としては、そのディテール一つ一つの工夫の裏にある経験や、苦労を勝手に想像しては背筋の伸びる思いでした。また今回、ワークショップへの取り組み方にも大変感銘を受けました。自身の場合、ワークショップをした際は、その場では利用者の方々の意見や要望を沢山聞いて有意義な時間になるのですが、実際に建築空間に落とし込む段階で様々な事情や制約からどうしてもワークショップという貴重な場での結果を満足に落とし込み切れない…という経験を何度かしていましたが、久保様を中心とした設計事務所の皆様は協力事務所、木材調達に関する関係者様方、利用者である子供たちとも理想的な木材を用いた空間や木材の調達に関する話し合いを行い、端材の活用法までみんなで考え、子供たちに地場産の木材に親しみを持ち続けてもらう工夫や取り組みを行っていて大変感銘を受けました。大枠のみではなく、使い手の興味を引き続ける細やかなワークショップによる継続



写真 名作揃いの学生による木端材を利用した作品達

的な姿勢は今回特に鮮明な印象として残り、今後自身もそうあるべきだと感じさせられました。設計者としての材料に対する熱い思い、また、木材の伝道師（勝手に命名しましたが）として子供たちの地場産の木材への興味を引き続ける取り組みを現地で見せて頂けたことは忘れられない貴重な経験となりました。ありがとうございました。

(ほんま ちひろ)

## ■木造小学校のメリットは何ですか？

日建設計：李 斯奇

先日、魚津の星の杜小学校の校舎を見学させていただきました。中国出身の私にとって、日本の小学校を見学すること、木造の小学校を見学すること、いずれも初めてでとても貴重な機会でした。中国の小学校は、急速な都市建設により、コビベのRC校舎が多いため、木造の小学校と聞き大変興味を持ちました。見学の際、一つの質問を持って臨みました。木造小学校のメリットはなんですか？

### 木造空間のメリット



写真 最上階教室の様子

校舎に入った瞬間、木造小学校の特徴はまだ感じられなかったです。木の床、木の腰壁、木の家具など、木材が沢山使われていますが、それ以外に普通の校舎との違いは見つけられませんでした。しかし、最上階の教室空間に移動して、木造校舎の空間メリットをしっかりと感じる事ができました。最上階は下階と違って、設備は窓側に収納することで、教室部分の天井を取り消しており、木材の下端はインテリアの一部とし、構造をはっきり見せていました。教室と隣接する廊下に、斜めの屋根構造を活用し、一面の大きいガラス壁で教室内外を繋げることで、廊下がセミオープンなパブリックスペースとなりました。木造でしか作れない、特徴のある

木造空間ができ、構造と空間の繋がりも感じられました。

### 空間体験上のメリット



写真 2階にあるパブリックスペース

2階に移動すると、本棚とベンチを設置しているパブリックスペースがあります。木の仕上げで、暖かい雰囲気が生まれていました。ここは子供が愛用する空間として使われていて、子供の活動が多く見られました。木の床の上を走ったり、木の階段に座ったり、木の本棚から本を取って、ベンチで読んだり、木の壁にぶつかったりして、木と親密な出会いを毎日繰り返しているようでした。視覚だけではなく、木の空間が五感の刺激を子供に与えると感じました。

さらに、壁に子供たちが作った木ブロックと土ブロックが装飾として使われています。手作りの体験と校舎の建設を繋げ、子供たちが校舎建設の一員となることで、校舎への愛着を一層増すと思います。



写真 壁に木ブロック

### 教育へのメリット

木で校舎を建てることも自然環境の教育の一環として扱えるではないでしょうか。鉄筋コンクリート造が多い中国に、こういった木の小学校があれば幸いです。子供の時に木との出会いを提供することは、よい思い出を子供たちに与え、自然と近い心を育むのではないかと思います。

(り しき)

# こどもたちを包む柔らかな天井と活動を刺激する棚 椋山女学園大学附属 椋山こども園

愛知県名古屋市

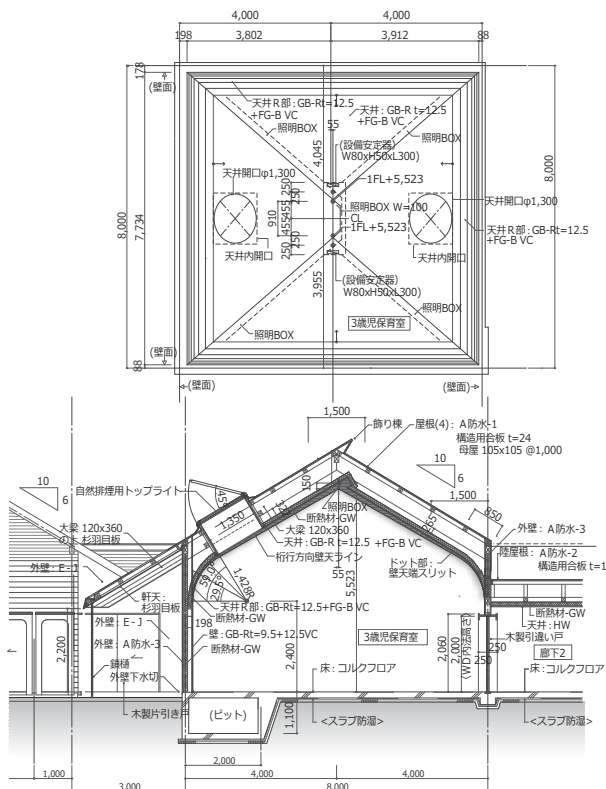
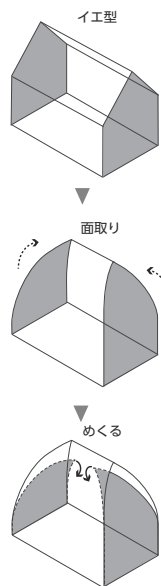
日建設計  
 塩田哲也・金子公亮・矢吹和也

こどもたちが毎日通い、一日のほとんどの時間を過ごすこども園。活動拠点となる保育室は、稜線が徐々に開いていく曲率を持った寄棟形状の天井として、その隙間に照明を仕込んだ。生活の中心となる低い位置には木質系の材料を用いて安心感を演出し、柔らかな光で満たされる天井が、純白で無垢な空間を創り出す。純粋な心地よさと上品さを感じる空間を目指した。「絵本に親しみ、豊かな心を育てる」という教育理念のもと、建具と一体的にデザインした、絵本や作品展示ができる棚を各所に展開した。「絵本の杜」と呼ばれる大きな廊下は保育室の延長として活用され、活動が外に滲み出す。様々な出会いがあり、異学齢が刺激し合う計画を目指した。

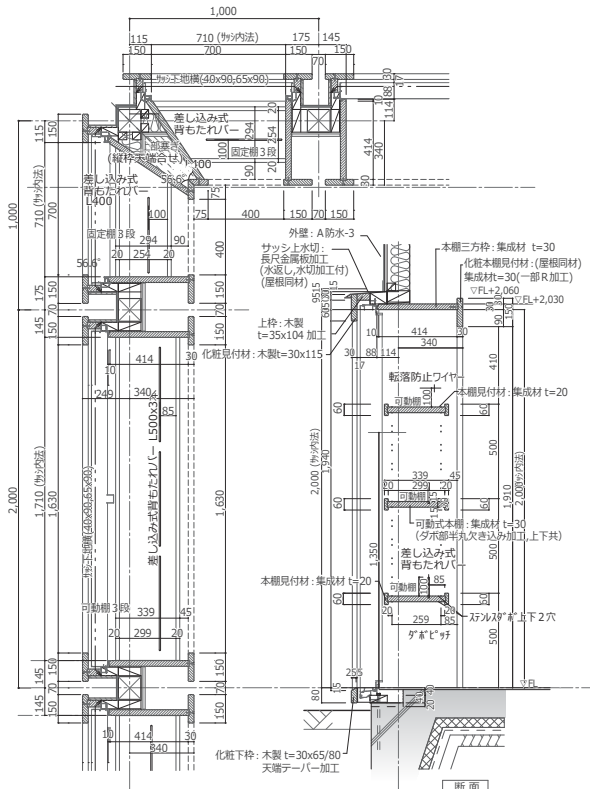


保育室の延長として活用される「絵本の杜」

こどもたちの過ごす保育室は寄棟形状の天井に包まれる



保育室部分詳細図 1/200



建具詳細図 1/40

ひとつながりのスキマの空間を「コミュニケーションスペース」とする

## ニフコ名古屋技術開発棟

愛知県豊田市

竹中工務店

長谷川寛・上河内浩・杉田陽平



エントランスホール



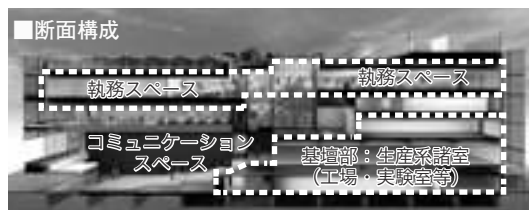
断面的にズレながらつながる空間



3階コミュニケーションスペース



3階ライブラリーコーナー



■断面構成

執務スペース

執務スペース

コミュニケーション  
スペース

基壇部：生産系諸室  
(工場・実験室等)

工業用樹脂ファスナーのトップメーカーである企業の技術開発拠点整備の計画である。

「ものを考える」執務室と「考えたものを試作する」工場・実験室を行き来する日常的なワークスタイルにあって、この日常的な動線自体を活発なコミュニケーションを育む空間として作り込む事により、ワークプレイス自体の活性化を図った。生産系諸室を合理的にスタッキングした基壇部の上に執務スペースのボリュームを浮かべ、その両者に挟まれた隙間の空間で建物全体を繋いでいる。このクレバス状のスキマ自体を日常的な動線として構成し、展示室から食堂・ミーティング・ライブラリーなど各々の空間的特性を生み出しながら、連続する内装のデザイン・カラースキームを行った。

人の溜りの空間は木質系、空間の連続性は手摺の金属メッシュや天井の金属ルーバー等でそれぞれの空間の特徴を形づくりながら一体的なデザインを心掛けた。

平面・構造形式、構法、仕上で作り出す  
多様な活動を受容する保育室

## りたの芽 保育園

愛知県名古屋市

安井建築設計事務所  
篠原佳則・三宅伸幸

りたの芽保育園は、モンテッソーリー保育、異年齢保育を行う保育園である。3～5歳児が利用する2階保育室は、子どもの主体的な活動を保証する空間を整備した。保育室でよく見受けられる片廊下型の平面形式でなく、ホールに面した突き当たりに保育室を配置する形式として、空間の奥性を子どもが活動する空間の、高い専有性に結びつけている。

ボルトの屋根形状を活かしたボルト天井は部材寸法の小さい小梁のみによるリブ付きボルト架構の現しとし、緩やかな天井ラインに律動感と抑揚を生み出している。内動障子のみを可動とした連窓引違いサッシには、サッシの面外にテラコッタや木ルーバー障子を設け、転落防止と通風・換気機能の両立を図っている。保育室内にはロッカー等の固定家具を設けず、保育室に面して設けた倉庫に荷物や教具を集約。子どもが各々に活動する、「日常生活」「感覚」「言語」「数」「文化」といった各コーナーを移動家具にて形成し、レイアウトの自由度を担保している。壁仕上は耐久性・清掃性に優れるメラミン化粧板としている。

平面形式・構造形式・建具構法・仕上等のトータルな統合により、子どもたちの多様な活動が安心感と共に受容できる空間を用意している。

### 建築概要

建築場所：愛知県名古屋市

基礎：杭基礎

構造：RC造

延床面積：1236㎡

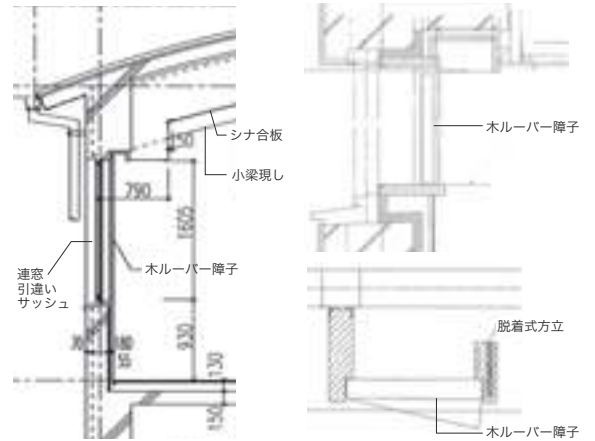
規模：地上2階

竣工：2019年3月

用途：保育所



外観写真



矩計図

木ルーバー障子 詳細図



2階保育室 内観写真

# 創造と伝統の融合による「ここにしかない新しい金沢」 三井ガーデンホテル金沢 吹抜けロビー

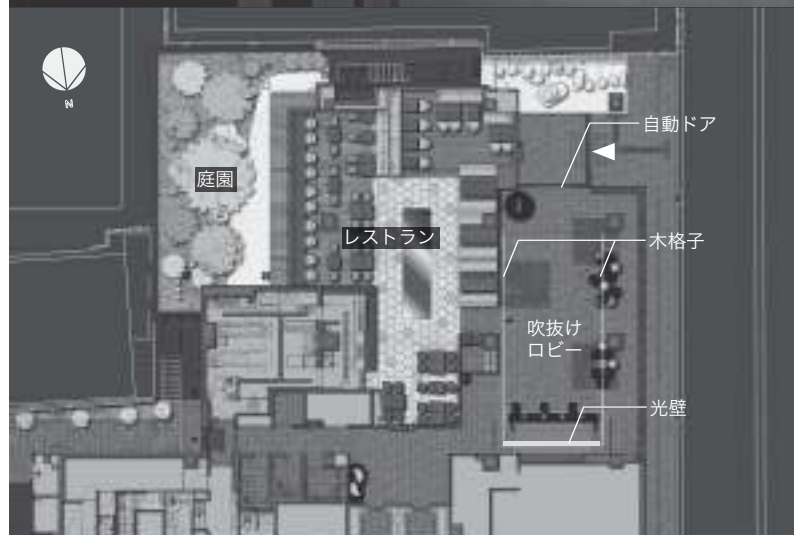
石川県金沢市

竹中工務店  
中屋隆史・神谷典子



## 吹抜けロビー

“ここにしかない新しい金沢”を感じさせる吹抜けロビー。現代的デザインの中に金沢の伝統モチーフを融合させ、伝統工芸品のようでもあり、現代アートのような空間としている。城下町の風情を正面の石川工芸「組子」の光壁と両サイド壁のライトアップされた金沢伝統「木格子」が醸し出している。ロビー入り口の自動ドアには金沢金箔のアートが施されお迎えの顔となっている。



ロビー平面図 1：400



金沢の武家屋敷の庭をイメージした庭園を望むレストラン



## 光壁とフロントカウンター

光壁は金沢の2つの川「犀川」と「浅野川」が織りなす情景をテーマにデザインされた組子、フロントカウンターは金沢の金箔を使用

## 北陸三県建築の旅

### 事業委員会による 国内視察旅行

平真知子一級建築士事務所

平 真知子

2019年11月29日（金）～30日（土）、東海支部主催の「金沢に泊まる 北陸三県 建築の旅」に、会員外として参加させて頂いた。見学先や宿泊先が魅力的なうえ、配布資料も充実していて、とても勉強になった。旅程を下記に紹介させて頂く。

#### ● 1 日目

JR名古屋駅に集合後、翌日の解散までバスにて移動

- ・ 福井県年縞博物館／設計：内藤廣建築設計事務所
- ・ 若狭三方縄文博物館／設計：横内敏人建築設計事務所
- ・ Nicca innovation center／設計：小堀哲夫建築設計事務所
- ・ 金沢21世紀美術館（自由参加）／設計：妹島和世＋西沢立衛／SANAA

・ Kumu 金沢（宿泊）／トータルプロデュース：リビタ

#### ● 2 日目

- ・ 谷口吉郎・吉生記念金沢建築館／設計：谷口建築設計研究所
- ・ 鈴木大拙館／設計：谷口吉生／谷口建築設計研究所
- ・ ひがし茶屋街（自由行動）
- ・ 能作新社屋／設計：広谷純弘・石田有作／アーキヴィジョン広谷スタジオ

#### ■ 福井県年縞博物館



伊東・織の家が大好きで、気づけば遠くても見に行くのは内藤氏の作品。なぜ心を揺さぶられるのだろうか。切妻屋根の下、突端にあるカフェで、水月湖を眺めながら考えてみた。コンクリートの量感と木と鉄の架構のバランスが絶妙だからか、ポリカの折屋根や木っ端など普通に手に入る材料に少し手を加えるだけで特別なものに変えてしまうからか、土木スケールと繊細なディテールが共存しているからか、風景のなかでの見え方も中から見る風景の見え方もちょうどよいからか。解説を読んでいたら「包み込まれるような空間をどうつくり上げるか」を建築的なテーマとしているとのこと。ああ、この心地よさはそのせいだったのかと、腑に落ちたのでした。

#### ■ Nicca innovation center



日華化学の社員様にご案内頂いた。フリーアドレスのオフィス、ガラス張りの実験室、食堂を兼ねるパブリックコモンなどが、4層の吹き抜けて繋がり、社員が互いに気配を感じられるつくりになっている。それぞれの場が居心地良いように、自然光や地熱利用など環境のコントロールもゆき届いている。設計中は対話を重ね、そのたびに作り替えられた模型は200にもなるそうで、設計者の熱意に頭が下がる思いだ。そのプロセスに参加し一緒に考えることが社員の意識改革に繋がり、「自分たちの建物」として愛着を持っているとお話だった。トップライト下のコンクリート製ルーバーが印象的だが、施工が非常に難しかったとのこと。何でこんなに面倒なことをと言っていた職人さんたちも、型枠を外して光が差し込む様子を見て、苦労したかいがあったと納得されたようだ。

## ■ Kumu 金沢

オフィスビルの用途変更を伴うリノベーションで誕生したシェアホテル。仕上げを剥がした跡を残したコンクリートや、細く短い木材を組み合わせた天井など、程よく素材感を感じさせる。各階の共有部にアートや工芸品があり、大きなテーブルで素敵なパッケージの飲み物を自由に楽しめる。オリジナルの香りも心地よく、つい長居したくなる。ユニフォームもインテリアに合っていて、朝食バイキングも彩り豊かで1つ1つとても美味しい。様々なジャンルのプロが集まって作り上げる世界の豊かさに脱帽した。

## ■ 谷口吉郎・吉生記念金沢建築館



国内初の建築美術館。谷口家が寄付した土地に金沢市の事業として建てられた。吉郎氏は金沢で歴史的建造物が失われてゆくのを憂

い、保存と開発の調和について尽力されたことで、名誉市民第一号とのこと。設計された建物の展示を見て、社会的意義について考えさせられた。迎賓館赤坂離宮の游心亭も再現されていて、意匠のきめ細やかさも存分に楽しんだ。建物は吉生氏の設計で、控えめな表情。道路側のみならず、脇や後ろも美しく、擁壁は樹木で覆われていて優しさを感じた。

## ■ 鈴木大拙館



21世紀美術館ができてから飛行機の便数が増えたと聞いていたが、鈴木大拙館にも観光客が多く訪れていた。水盤と回廊、思索空間棟、石の塀とその向こうの緑の織りなす風景は、どこから見ても美しい。時折水盤に水が噴き出し、波紋が広がる。場に力があるからか、静かに佇んでいる人が多いのが印象的だった。

## ■ 能作新社屋



田園風景のなかに、鮮やかな赤い壁があらわれて、近づくにつれて錫や真鍮の壁の素材感に惹きつけられ、中に入ると2層の木型倉庫に圧倒される。木のおおらかな天井の下、陳列棚は少し高めで、能作製品をじっくり見られるようになっている。サインは全て能作の真鍮製。鑄造の体験工房で錫をトントンと打つ音にも誘われる。工場も案内して頂けて、地産の食材を味わえるカフェもあり、産業観光を満喫できる。遠景から近景まで、何重にもわくわくさせる仕掛けがあり、ディテールの確かさがその魅力を際立たせていると感じた。この建物ができてから来場者数が10倍になったようだ。

## ■ 日本建築協会のイベントに参加して

友人に、魅力満載な旅をインターネットで見つけたので一緒に行かないかと誘われて、参加させていただいた。友人の一番のお目当てはNicca、私は年縞博物館。名古屋駅近くに前泊し、翌朝集合場所へ。名簿と分厚い資料をいただき、あらためて日本建築協会の方々の旅に参加させていただいたのだと、お仕事をされながら大変な準備をして頂いたのだと、身の引き締まる思いがした。

見学先では皆様の視線の先をたどることで、自分では気づけなかった建物の魅力を、知ることができた。また、感動を共有させていただけることもとても嬉しかった。見学先でも食事の際にも温かくお声かけいただき、すっかりリラックスをして旅を楽しませて頂いた。この場を借りて、皆様に御礼申し上げたい。

## 国宝・重要文化財（建造物）等の防火対策ガイドラインについて

手嶋一了

文化庁 文化資源活用課 企画係長

文化庁では、文化財建造物の所有者等が総合的な防火対策を検討・実施することができるよう、令和元年12月23日に「国宝・重要文化財（建造物）等の防火対策ガイドライン」を策定した。

### 背景

平成31年4月に、フランスパリのノートルダム大聖堂で火災が発生し、世界的に貴重な文化遺産が焼損した。令和元年10月末には、国指定史跡である首里城跡において火災が発生し、正殿、南殿などの復元建造物が焼失した。

国宝・重要文化財などの文化財は、我が国の歴史や文化の理解に欠くことができない貴重な国民的財産であるとともに、将来の地域づくりの核となるものとして、適切に防火対策を講じることで、確実に次世代に継承していくことが求められる。城跡などの史跡等の往時の姿を今に伝える復元建造物の火災も、遺構を毀損するおそれがあるほか、復元建造物自体が史跡等の魅力を向上させ、来訪者にとって史跡等の文化財的価値や歴史的事実の理解を促す重要なものであることから、往時の姿を伝える復元建造物など重要なものは、国宝・重要文化財に準じた防火対策を講じることが重要である。

文化庁がノートルダム大聖堂及び首里城跡で発生した火災を受け、国宝・重要文化財や史跡等における復元建造物等の防火対策状況について緊急状況調査を行ったところ、

- ・重要文化財（建造物）全体の約2割で消火設備の整備・改修後30年以上経過、老朽化による機能低下（復元建造物も一定数が老朽化による機能低下）のおそれがある
- ・夜間に火災等の緊急事態に対応できる人数が、消火範囲が広く設定されている高水圧の消火栓を扱うのに最低必要な2人を下回っている所が多く、管理体制が脆

弱となっているおそれがある  
・訓練等の実施が必ずしも十分でない  
ことなどが確認された。

このため、消防庁、国土交通省と連携協力の下、個別の文化財の特性ごとに想定される火災リスク、防火の基本的な考え方、必要な点検事項・手順、対応策等を取りまとめ、9月に「国宝・重要文化財（建造物）等の防火対策ガイドライン」（以下「ガイドライン」という。）として公表した（同年12月に一部改訂）。

### 文化財の防火対策

#### ■関係法令

文化財保護法には、国指定等文化財の保存のための措置規定が置かれており、防火対策も含め、所有者や管理者（管理責任者又は管理団体）が文化財を適切に管理しなければならないこととされている。

建築物の耐火性能等を定める建築基準法は、国宝や重要文化財（建造物）に指定された貴重な文化財に直接適用することが適切であるとは必ずしも言えないため適用除外されているが、消防法令上、国宝・重要文化財（建造物）については原則として規模にかかわらず消火器又は簡易消火用具及び自動火災報知設備を設置しなければならない。しかし、内部に大きな空間を有する建造物や山上・中腹に立地する建造物もしばしばあるなど、個別の文化財ごとに様々な特性や事情を抱えている。文化財そのものを守るためには、それぞれの特性や事情に応じた防火対策を総合的に講じていくことが重要である。

このため、ガイドラインでは、文化財の所有者や管理者（管理団体又は管理責任者）が、文化財保護法上の管理義務を適切に果たすことができるよう、個別文化財等の特性や事情にあわせて、以下1）～4）の観点から火災リスク、基本的な考え方、点検項目及び対応策等について示している。

以下、1）～4）ごとにガイドラインにおいて提示している事項の概要を紹介する。

### ガイドラインの内容

#### 1) 建造物固有特性

主たる構造が木造である場合には、内部火災の急激な拡大のリスクが考えられるため、常時より火気管理、火災の早期覚知や初期消火対策に心がけ、必要に応じて適切な防火設備の設置・更新などの対応策を講じることが有効であるとしている。特に、大規模な木造建造物などは、火災の早期確知が可能な感知器への変更のほか、スプリンクラーの設備や易操作性の屋内消火栓などの防火設備への更新等による防火対策の強化や人的体制の充実

などの具体的な対応策を提示している。

#### 2) 敷地特性

建造物の周囲に消火活動ができる敷地がない場合には、消火活動が遅れることがあり得るため、文化財所有者等と関係機関とで連携して、消火活動の場所や設備の確認を行うことなどを対応策として提示している。

#### 3) 立地特性

文化財建造物が木造建造物密集地、伝統的建造物群保存地区に立地する場合や山林に近接するなど、周囲からの延焼等のリスクがある場合には、面的防災力の強化や延焼防止対策が重要であるため、地域の防災組織と防災訓練の実施やドレンチャー・放水銃などの延焼防止を目的とした防火設備の整備などを提示している。

#### 4) 活用・管理の実態

文化財の所有者や管理者（管理団体又は管理責任者）が少人数である場合には、初期消火体制が脆弱になるため、自動消火設備や易操作性の消火栓設備への更新などにより、防火対策を強化する対応策を提示している。また他の団体が文化財の保存・活用に関与する場合には、災害発生時の対応が迅速になされないおそれがあるため、あらかじめ災害対応の手順（マニュアル）の確認を行い、関係者間で情報共有を行うなどの対応策を提示している。

### 今後の文化財の防火対策

文化庁では、ノートルダム大聖堂や首里城跡での火災などの惨事が、他の国宝・重要文化財や史跡等に所在する復元建造物などで生じないように、昨年12月に策定した「世界遺産・国宝等における防火対策5か年計画」により、世界遺産の構成資産となっている重要文化財や国宝（建造物）等を重点整備対象とし、ガイドラインに基づき、総合的かつ計画的な防火対策をしっかりと進めていくこととしている。

また、国宝・重要文化財以外の文化財建造物についても、ガイドラインを活用して防火対策の講じていくことが重要であることから、ガイドラインに基づく防火対策の周知・指導・助言を図っていく。（てしま かずあき）



姫路城（兵庫県）で行われた防火訓練

## 法輪寺三重塔

設計：竹島卓一  
棟梁：西岡常一  
施工：清水建設

(1976年1月号)

### 目黒新悟

独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所  
研究員

所在地 奈良県生駒郡斑鳩町  
構造形式 方3間三重塔婆(初二重方3間三重方2間)本瓦葺石階四級切石積基壇  
構造 木造  
規模 高さ25.82m(地盤面～相輪宝珠天)  
※基壇高・相輪高を含む  
工期 1973年～1975年  
※設計は1960年から



図1 復元・法輪寺三重塔(2020年・現状)



図2 前身・法輪寺三重塔(1903年・明治修理前)

### はじめに

奈良・斑鳩の地には、法隆寺や法起寺の世界最古の木造建築が、長年に亘る人びとのメンテナンスもあり、奇跡的に存続している。特に、「斑鳩三塔」と呼ばれる法隆寺五重塔、法起寺三重塔と法輪寺三重塔は、飛鳥時代以来の斑鳩の景観を構成する主要な建物群と思われる。現在の法輪寺三重塔は、雲斗拱にみられる飛鳥時代の斑鳩の建築的特徴を持つ(図1)。しかし、これは昭和50年(1975)に再建された建物で、飛鳥時代建立の前身建物は(図2)、昭和19年(1944)の落雷で焼失した。

本稿では、現在の法輪寺三重塔が復元<sup>注1)</sup>された経緯を確認し、現在の復元建物を構造形式などの点から前身建物や類例の法隆寺・法起寺の建物などと比較・検討し、その特徴を論ずる。さらに、戦後の建物を復元する流れの中での位置付けを考察したい。なお、本稿では昭和50年に再建された法輪寺三重塔を含め、復元・再建された建物を「復元建物」、昭和19年に焼失した飛鳥時代建立の法輪寺三重塔を「前身建物」と仮称する。

### 法輪寺三重塔の沿革

#### 前身建物が焼失するまで

前身建物の建立年代は、心礎の設置形式、柱間寸法・基準尺、雲斗拱の曲線などから、7世紀末頃とされる。沿革は、『法輪寺三重塔調査報告書』<sup>2)</sup>や『大和古寺大観』<sup>3)</sup>などに詳しい。正保2年(1645)には、台風で三重が失われた。これを修理したのは、94年も経過した元文4年(1739)で、それまで三重は失われていた。明治30年(1897)に古社寺保存法が制定されると、特別保護建造物(国宝)

に指定された。明治36年(1903)には、関野貞氏らによる解体修理工事を終えた。この時の図面が残し、旧状を知ることができる(図3)。昭和19年7月21日夕刻、落雷で焼失する。戦時中の金属供出で、避雷針がなかったためとされる<sup>4)</sup>。

#### 復元建物が竣工するまで

前身建物の焼失後は国宝指定も解除され、基壇や礎石は風雨に晒されたままとなった。当時の住職・井上慶覚氏を中心に、塔婆を旧状のごとく再建する計画が立てられた。計画は昭和39年(1964)から具体化し、積算が始まった。文化財ではない新築の現代建築として、国の補助事業なしに再建することは、まさに悲願であった。募金活動により資材の購入はできたが、途中、再建を主導してきた井上慶覚氏の急逝や物価上昇など、多くの困難があり、一時期再建の計画は途絶えた。

後の住職・井上康世氏が先代の遺志を継いで昭和47年(1972)から工事の再出発を意図し、新たな募金活動に着手した。この際、小説家・幸田文氏の多大な支援があったことは有名である。多くの支援により、昭和50年ようやく竣工にこぎ着けることができたのである。

この復元建物の再建は、法隆寺の修理工事後に、その当事者である竹島卓一氏や西岡常一氏らが担当した。また、類例である法起寺三重塔の研究<sup>5)</sup>や、その修理工事<sup>注2)</sup>も進んでおり、この時期は学術的な蓄積が新鮮であった。

### 復元建物と前身建物との比較

前身建物は図面や写真などの資料が残し、復元建物はそれに基づき設計された(図4)。しかし、前身建物は後世の改造を含むため、復元建物は前身建物を当初に戻した姿で再建されており、そのため再建前後で構造形式が異なる。復元建物は、復元の根拠や過程が不明で、復元原案<sup>注3)</sup>について知る由がない。当時、復元原案と復元実施案を区別する概念があったかも不明である。本稿では、復元建物は復元原案でないことをふまえ、両建物を概観する。

#### 構造形式

前身建物は全重で方3間だが、復元建物は三重で方2間となっている。前身建物は、元来三重方2間であったが、江戸時代の台風で三重が失われた後、その改修で三重の総間を拡張し、方3間に改めたとみられている。法起寺三重塔もこれと同様、江戸時代に三重が方2間から方3間に改められた。

上重で柱間数が減減する理由は、平面の遁減に伴い、斗拱が隣と接続することを避けたためと筆者は考える。限られた現存建築から

みれば、平安時代初期以降、柱間数は通減せず、全重方3間が通例である。後世で方2間を採用しなくなった理由の一つとして、力肘木が心柱に干渉するため、繫肘木にできないなどの構造的理由が大きいだろう。さらに、中近世では枝割が発達すると、立面を整列させるといった意匠的側面も想像される。そういった時代の中で、法輪寺三重塔や法起寺三重塔は、修理によって各時代の趣向が反映されてきた。復元建物は、三重の大らかな斗拱と広い2間の柱間が、古代の特徴を表現する。再建前後を比較すると、柱間数の通減に加え、各重の柱高も通減している。復元建物は

二三重の柱高が低く、全高に占める相輪高の割合が大きい。相輪は後述するが、復元建物は古代らしく、塔身部の安定感が増している。**軸部**  
前身建物は、初重の側回りに台輪、頭貫、地覆、地長押を回し、さらに中央間に冠木長押をつける。復元建物もほぼ同様だが、前身建物が頭貫下で扉を受ける形式と異なる。復元建物は台輪の仕口を三枚柄とし、各部材を槍鉋での加工とする。古代の技法や材料の柔らかさを外観からも見てとれ、興味を引く。  
両建物の内部は土間で、それぞれ地長押を回す。しかし、当初は地長押がなかった可能

性が考えられる。法起寺三重塔も修理前は地長押を回していたが、修理後は地覆のみで復元されている。法隆寺五重塔も、初重は各間に地覆を入れ、地長押はない。復元建物は地長押を回すため、簡素な印象がなく、足元の水平ラインが強調され、斑鳩三塔の中でも独特の建築表現を有していると言えよう。**斗拱**  
復元建物は、雲斗拱と力肘木とを金物で一体化する。法隆寺五重塔の四五重は、力肘木を繫肘木にしないが、雲斗拱と力肘木とを一木にしており、復元建物は構造的にこれに近い考えで補強されていることが推察される。

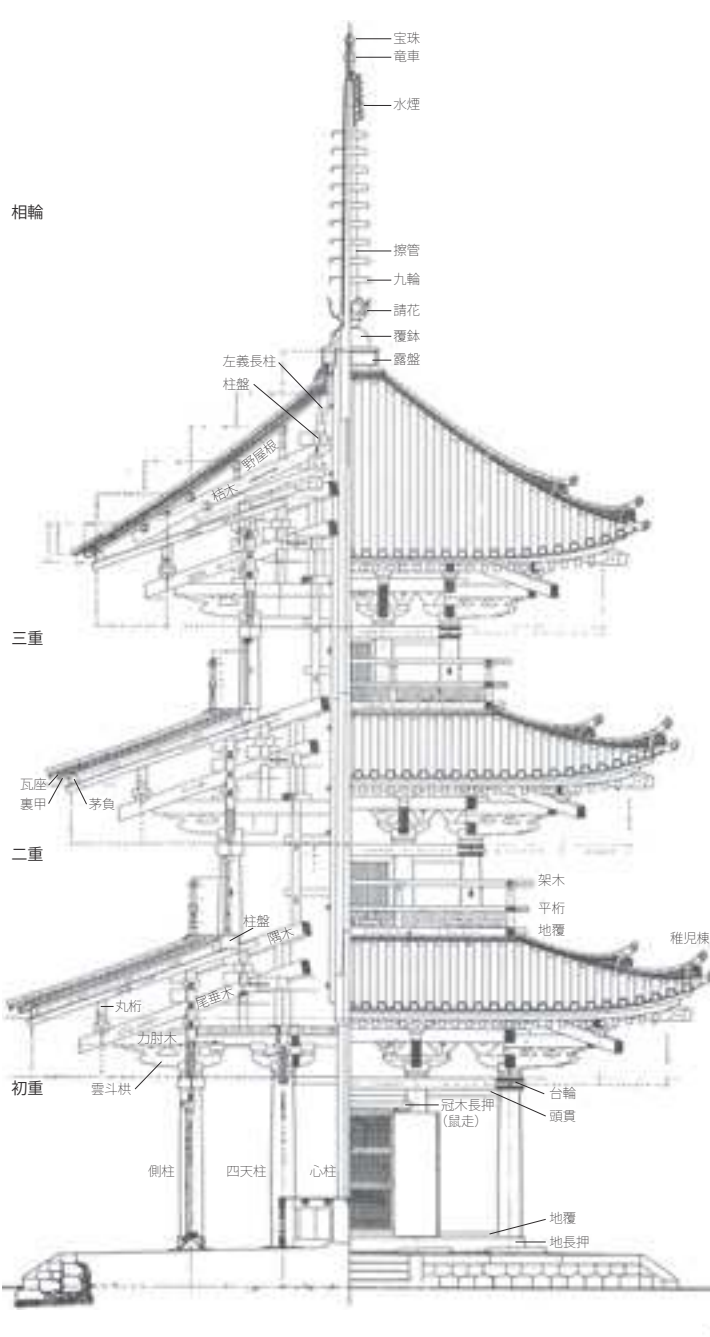


図3 前身・法輪寺三重塔 立断面図 S=1：150

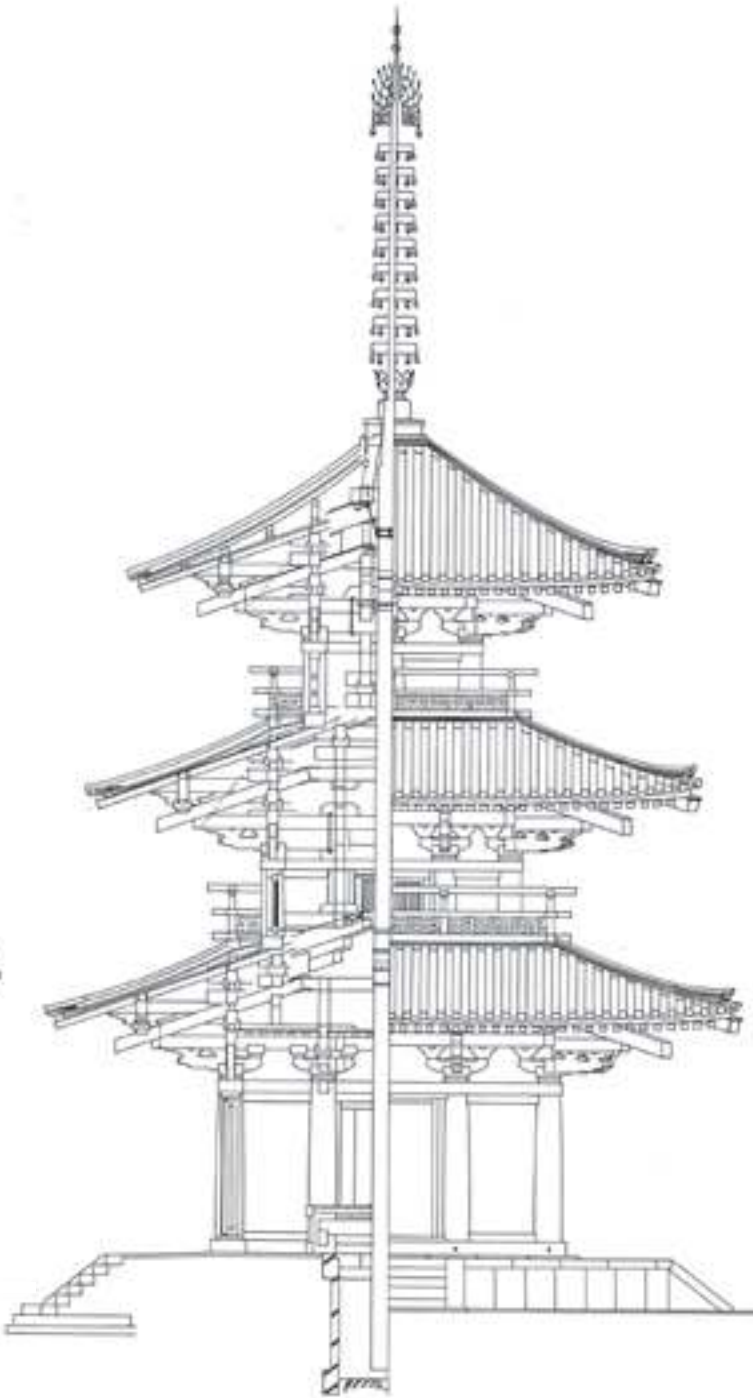


図4 復元・法輪寺三重塔 立断面図 S=1：150

## 軒と屋根

軒や屋根は、建築の中で最も修理の手が加えられる部位であり、当初の情報を欠く。兩建物共に一軒平行繁垂木（角）とする。復元建物は前身建物に倣い、垂木心を柱筋に揃える。さらに、垂木心は建物中央に揃えている。初重は中央間10枝、脇間7枝で総間24枝とする。垂木割は、丸桁心とは揃わない。法起寺三重塔でも、当初は垂木心が建物中央に揃うことが修理工事から判明した。玉虫厨子や元興寺極楽坊五重小塔の全重も垂木心が建物中央に揃い、これは古式の技法と思われる。

前身建物は裏甲を用いるが、復元建物では茅負に瓦繰をつけ直接瓦を葺く。法隆寺五重塔の当初の茅負なども瓦繰を施しており、当初は茅負に直接瓦がのった。復元建物の初二重は、前身建物より屋根が一回り薄く、反りも弱まり、古代の形式となっている。前身建物は、三重に野屋根を設け桔木を入れる。復元建物は、桔木こそ省くが、野屋根を設け屋根勾配を急にする。復元建物の三重に野屋根を設けた理由は、雨漏り防止のためと思われるが、もちろん当初に野屋根はなかった。

前身建物には稚児棟がある。復元建物では玉虫厨子などを参考にしたと思われ、稚児棟なしとし、隅棟の鬼瓦を屋根の先端に置く。

## 造作

柱間装置は、前身建物と復元建物とで基本的には共通する。しかし、復元建物の三重は柱間数が方2間のため、各間を壁とする。ただし、三重は北面西側の柱間を連子扉とし、これはメンテナンスを想定したと思われる。二重で中央間を連子扉、脇間を壁、さらに三重で各間を壁とする復元建物は、柱間装置の構成が法隆寺五重塔に類似する。連子を多用する法起寺三重塔とは、異なる印象を受ける。

高欄は、前身建物に倣い卍崩し組で復元される。高欄地覆は、屋根の上に土居桁状に置かれるようだ。古代では、法隆寺五重塔、法起寺三重塔、醍醐寺五重塔などの痕跡から、相欠組とした柱盤の鼻をL字に欠き、高欄地覆を支持していたと思われるが、復元建物では屋根上に直接高欄地覆がのる。そのため、法起寺三重塔などのように屋根と高欄地覆との間に隙間はなく、安定感がある。

## 心柱・相輪・金具

前身建物は、心礎の設置形式が法隆寺五重塔のような地下式心礎であった。復元建物でもその形式を踏襲し、心柱は地下レベルから立ち上がる。ただし、三重で軒の垂下を防止するため、隅木尻上の左義長柱盤から金物で心柱を吊る。現状の日光東照宮五重塔などでも、五重屋根と露盤との間からの雨漏り防止などを図り、このような構法を採る。復元建

物は、古代にはなかった技法で、構造的な合理性を図る。

先述の通り、復元建物の相輪は前身建物より大きく復元されており、再建前後でその形状が異なる。前身建物の三重は台風で失われた過去があり、その際に相輪を改鋳したのだろうか。元興寺極楽坊五重小塔や各地で出土した瓦塔などでも相輪は大きく表現されており、復元建物の大きな相輪は古代らしさを感じる。復元建物では、全高の約3分の1を相輪高とする。相輪は、水煙の形状から法隆寺五重塔に倣ったとみられる。相輪は、屋根と同様に傷みやすい部位であり、全体として当初の形式を留める古代の例は薬師寺東塔しかない。法隆寺五重塔の水煙は当麻寺西塔のように古式を留めるが当初材でなく、露盤・覆鉢は近世の改鋳である点に注意が必要である。

金具類については、現存建築では失われることが多い。一方、復元建物では垂木先金具こそないものの、相輪と隅木下に風鐸がつけられ、創建時の様子を窺い知ることができる。

## 比較を通してみた復元建物の特徴

各部の主な点について、復元建物と前身建物とを比較した。復元建物は、前身建物と異なる現代建築である。特に内部の構造など、触れなかった相違点も多々ある。間違い探しのように比較したが、それらの相違点を、復元建物の独自の特徴として捉えたい。復元建物は、過去の形式を伝えるのみに留まらず、復元の根拠や過程について見る者の思考を膨らませる点で、他の現代建築とは異なる面白さを持つ。特に、再建前後で構造形式まで変化した法輪寺三重塔は、それが顕著だろう。

復元は、前提条件や参考資料によってその結果が変わりうる<sup>1)</sup>。そのため、参考資料となりうる類例の調査状況や学術的見解などの影響を受けながら、かつ復元する者の建築観・歴史観も介在しながら、復元原案が作成される。その上で、現代建築として建設可能のように改良が加えられ、復元実施案が生まれる。法輪寺三重塔に限らず、復元建物からは、復元された各時代の最新の知見と、建築史学の発展をみてとることができる。法輪寺三重塔の場合、法起寺三重塔の修理工事後に復元が行われていれば、地長押などが異なる仕様になっていた可能性も否定できない。そういった側面で見ると、これら復元建物は、まさに建築史学の表象として捉えられる。

## ■戦後の復元建物として

### 竹島・西岡論争

法輪寺三重塔の復元は、戦後の復元建物として、どのように位置付けられるのであろうか。まずは、復元について議論が交わされた

「竹島・西岡論争」<sup>注4)</sup>について確認したい。この論争は、昭和50年4月の毎日新聞夕刊で、設計者の竹島卓一氏と、棟梁の西岡常一氏との間で交わされた<sup>注5)</sup>。法隆寺昭和大修理の完成期の工事事務所長を務めた建築史学者・竹島氏は、昭和35年（1960）に井上慶覚氏から設計図の作成を依頼されたとする。設計図は、法隆寺の修理工事の経験や、自身の建築史研究の成果に基づくとする。法隆寺昭和大修理の大工・西岡氏は、井上慶覚氏からの信頼が厚く、棟梁を依頼された。

論争は、復元建物に鉄の補強材を用いるかが中心であった。特に、井上慶覚氏の没後は両者を調停する人物が不在となり、論争に発展したようである。以下では新聞記事に加え、西岡氏の対談の記録<sup>10)</sup>なども検討資料としながら、両者の復元に対する考えを整理する。

### 竹島氏の復元－創建時の外観と将来の修理を見据えた設計意図

竹島氏は、外観を創建時に戻すと論じる<sup>8)</sup>。

設計図に意図した外観は、この塔の創建当時、人々が享受したであろう姿の再現にあった。焼失前の塔にくらべて、大きく変わったところは、基壇と初重の出入口、それに三重目と塔頂の相輪である

内部の構造については、「意図した外観をつくりだすのに、特に訓練された専門の技術者でなくても、普通に図の読める程度の人なら、だれでも、簡単に、間違いなく形を整えることができるように、機械的な方法まで考案」したとする。文化財建造物の修理の場合は旧材を変更できないが、今回は現代建築の新築のため、現代の技術を用いて構造を合理化したとする。現存する古建築は、後世のメンテナンスにより改変を受け存続したことを挙げ、鉄材を多用することについても、古代建築は後世の修理で現在までに鉄材が多用されており、その史実と矛盾しないとする。

### 西岡氏の復元－外観・構造・技法のすべてを飛鳥時代のままに

西岡氏は自身の経験から、修理で用いられる鉄材が、建物の寿命を縮めることを知っていた。例えば法隆寺の堂塔は、慶長時代の修理で鉄材が豊富に用いられた。「サビが木を腐らせる」、「鉄材など屁のよう」と言ったように、鉄材は錆びて効かなくなり、膨張して木をも腐らせることを主張した<sup>9)</sup>。さらに、桧だけなら寿命が千年以上あるとするが、竣工時から鉄材を用いることには疑問を呈している。

ヒノキだけなら千年の生命があるとしても、穴をあげ、鉄を通すことによって、恐らく三、四百年後に鉄材のサビ朽ちるとき、このヒノキ材全体も取りかえねばならなくなるだろう。だから、いま鉄を使う必要はない

両者の復元に対する考え

両者の復元に対する意見はどちらも真っ当である。この論争は、その後の建物の復元において、大きな気づきになったことに間違いなく、その点で建築史学上、重要な意義を持つと考える。現代は各地で建物の復元が行われているが、それらの蓄積もふまえ、両者の復元に対する考えを整理したい（表 1）。

まず、復元は前述の通り復元原案と復元実施案とを弁別する必要がある。両者の議論は鉄材の使用が中心であったため、復元実施案で意見に齟齬が出たと思われる。復元実施案と復元原案とを弁別する概念があったとすれば、復元原案では意見が一致したのだろう。

竹島氏は、外観の復元が目的だった。構造や造り方は創建時に拘泥せず、鉄などの補強材を多用し、かつ修理しやすく工夫した。西岡氏は、多少の欠陥があっても全てを復元することが本質で、かつ現代技術より、古代の技術の方が、木が長持ちすると主張した。2人の意見に齟齬が出たが、最終的には鈴木嘉吉氏らで委員会が組織され、復元実施案が決定されたようだ。鉄材は、竹島氏の当初案から約3分の1に減り、最低限に抑えられた。つまり、大方は西岡氏の意見が採用されたのだ。そのため、竹島氏は「秘術に抑えられた将来計画」と題した記事<sup>8)</sup>を投稿し、「竹島・西岡論争」が世にも広がったのであった。

復元建物としての位置付け

紆余曲折あり復元・再建された法輪寺三重塔を、戦後の大規模な復元建物の潮流の中でみてみたい。戦後の建物の復元は、鹿苑寺舍利殿（1955）など名勝庭園の構成要素である建物を対象に始まり、昭和30年代以降に近世城郭の復元の機運が高まったとされる<sup>11)</sup>。同時代の復元建物をみると、塔婆としては戦災で焼失した四天王寺五重塔の復元建物（1959）、戦国時代以来失われていた薬師寺西塔の復元建物（1981）などがある。法輪寺三重塔はそれらの間で、木造で復元した初期の例として位置付けられる。大岡實氏による興福寺食堂・細殿（1959）などは、用途が創建時と異なるが、RC造で奈良時代の「造形感覚」が表現されたものであった<sup>12)</sup>。これら戦後すぐの大規模な例では、外観の復元という考えが、

復元の考えの一つとしてあったように思われる<sup>注6)</sup>。

四天王寺五重塔は藤島亥治郎氏らによって復元され、RC造で実現された。外観は、扇垂木などのRC造では構造上不要な部材まで表現される。一方で組上構造は、古代の重層建築にみられる積重構法ではない。内部には二重螺旋階段が設けられる。塔婆の場合、日本では上層に昇らず、相輪を掲げる心柱の覆屋として、外観が重視されたためであろうか。

薬師寺西塔は、心礎の形式など異なる点もあるが、基本的には東塔と同形式であったと考えられている。薬師寺西塔は、東塔の調査結果<sup>14)</sup>に基づき復元された。東西両塔婆を比較すると、西塔に付加された補強の金物、基礎や高さなどを除き、ほぼ同形式である。棟梁には、法輪寺三重塔と同じく西岡氏が抜擢され、外観のみならず、当初の構造や造り方についても検討された<sup>15)</sup>。復元の対象は、外観に加え、構造や造り方までと、大きく展開している。さらに、東塔の復原図と西塔の竣工図からは、復元原案と復元実施案とを弁別した考えをみてとれる<sup>14)</sup>。

この潮流の中で、法輪寺三重塔の復元建物を再考する。この復元建物は昭和35～50年の間の事業で、時代的には四天王寺五重塔と薬師寺西塔の間であり、木造で復元された初期の例である。大規模な復元建物として、時代的には復元の対象が変わりつつある時代であり、竹島・西岡論争は、その過渡期として理解できる。文化財で重視される原則と同様、木造で造るという点で、復元建物でも「モノ（材料）」が重視され始めた志向が窺える。その中で、復元実施案として外観に重きを置いた竹島案と、それに加え構造・造り方も復元の対象とした西岡案として位置付けられる。

現在、各地に復元建物が建てられるが、個々により復元の対象や時代は異なる。例えば平城宮朱雀門（1998）は、奈良時代建立の建物が現存した場合、どのような修理がされたかも想定され、枯木などの後補材も用いられた。これは、竹島氏の考えに類似するのではなかろうか。無批判に創建時に復元するのではなく、いつの時代の何に価値を見出し、どのように復元するか、今後も個々に熟慮が求められる。

■おわりに

本稿では、復元された法輪寺三重塔の特徴を論じ、さらに復元建物としての位置付けを考察した。復元それ自体を学問として捉えるようになったのも近年であり<sup>1)</sup>、現在でもその方法論を模索している最中である。この復元建物およびそこでの議論は、その後の建物

の復元や建築史学に与えた影響が大きく、その点で意義があろう。築45年を迎える、独特の建築形式を有するこの塔婆の特徴と意義が広く認知され、前身建物のみならずこの復元建物それ自体の歴史的価値が広く共有される日は、そう遠くないだろう。

注

- 1) 本稿では、復元と復原を以下のように用いる。失われた建物を対象に、発掘調査や資料などから上部構造を検討する行為などを含め、広く「復元」とし、特に現存する建物の修理に際し、改造された痕跡などから過去の状態に戻す行為に限り「復原」とする（参考文献1）。
- 2) 工事は昭和47年（1972）～昭和50年（1975）の3か年（参考文献6）。
- 3) 参考文献1などで指摘されているように、学術的に導かれた結果がそのまま現実の復元建物に反映されるわけではなく、復元建物は現代建築としての法規などを遵守せねばならないし、現代の技術が必要とする場合もある。そのため、復元では過去の姿を検討した「復元原案」と、実際に建てられる「復元実施案」とを弁別する必要がある。
- 4) 中川武氏がまとめている（参考文献7）。
- 5) 参考文献8、9。
- 6) 小規模な建物ではあるが、関野克氏による登呂遺跡復元住居など、技術の復元を重視していた事例はもちろん見過ごせない（参考文献13）。

図版出典

- 1) 筆者撮影（2020年2月）。
- 2) 奈良県立図書館情報館所蔵（分類番号：Y-25-1）。
- 3) 参考文献2に基づき加筆・修正。
- 4) 参考文献16より転載。

参考文献

- 1) 『文化遺産と〈復元学〉』吉川弘文館、2019
- 2) 『法輪寺三重塔調査報告書』観光資源保護財団（現、日本ナショナルトラスト）、1972
- 3) 『大和古寺大観』1、岩波書店、1977
- 4) 石田一雄「法輪寺三重塔」産経新聞（奈良）、11月30日、p.25、2013
- 5) 浅野清「法起寺及法輪寺三重塔に関する復原考」『建築史論叢』高桐書院、1947
- 6) 『国宝法起寺三重塔修理工事報告書』奈良県教育委員会、1975
- 7) 中川武「法輪寺三重塔の設計と施工をめぐる竹島・西岡論争」『建築雑誌』90（1098）、1975
- 8) 竹島卓一「法輪寺三重塔設計と施工」毎日新聞夕刊、4月9日、p.5、1975
- 9) 西岡常一「木のいのち」毎日新聞夕刊、4月15日、p.5、1975
- 10) 「法輪寺三重塔の再建 修羅の復元」『西岡常一 宮大工の仕事語る』5、CDブック、草思社、1995
- 11) 「歴史的建造物の復元と復元検討委員会の役割」『月刊文化財』（682）文化庁文化財部、2016
- 12) 青柳憲昌「大岡實の『復元』建築」『日本建築学会計画系論文集』78（692）、pp.2199-2205、2013
- 13) 青柳憲昌「関野克の登呂遺跡住居復原案の形成過程と『復元』の基本方針」『日本建築学会計画系論文集』75（654）、pp.2073-2080、2010
- 14) 浅野清『薬師寺東塔に関する調査報告書』薬師寺、1981
- 15) 西岡常一ほか『蘇る薬師寺西塔』草思社、1981
- 16) 「法輪寺三重塔」『建築と社会』57（646）、1976

表 1 竹島氏と西岡氏の復元に対する考え

|          | 竹島卓一    | 西岡常一                            |
|----------|---------|---------------------------------|
| 復元の対象と時代 | 外観      | 創建時                             |
|          | 構造      | 将来にメンテナンスしやすい構造、現代の技術の使用（補強材など） |
|          | 造り方     | 将来にメンテナンスしやすい造り方                |
| ↓        |         |                                 |
| 復元に対する考え | 外観の当初復元 | 外観・構造・造り方の当初復元                  |

## 構造と融合した重厚感あるファサード

医療法人林病院

平野浩二

株式会社大林組構造設計部 担当部長

林病院は福岡県越前市で地域医療を担う総合病院である。地域の中心地である武生駅前への移転新築を機に、医療設備の一新とともに、武生の歴史ある周囲環境とも調和するよう、外観デザインに特に配慮している。

当初から構造を積極的に外観デザインに利用するという方針を定め、化粧打放のRC造を採用し、建物の両妻面にはそれぞれ主要な耐震要素となる連層耐震壁を設けることにより、構造性能とデザイン性のあるファサードを両立させている。

## ファサードデザイン

■連層耐震壁を利用した重厚感あるファサード

構造は打放のRC造とし、病室など居室の面する東西方向は純ラーメン構造を、南北方向は耐震壁付きのラーメン構造を採用した。

主要耐震要素である両妻面の無開口の連層耐震壁を、より東西面ファサードの設計に取り込むべく、連層耐震壁を屋上より上に約2m突出させ、さらに打放壁の取付く北面と南面の両際柱を400mm程度外側に突出させて陰影の効果も取り込むことで、よりRC打放壁を際立たせた重厚感のあるファサードを実現している（写真1、写真2、写真3）。



写真1 北東面外觀



写真 2 東面外觀

写真3 連層耐震壁近景

## 構造計画

建物平面はほぼ長方形であり、4階までの下層階には外来・検査等の用途で、5階から上層階ではセットバックして病棟や事務所の用途を配置している。主要耐震要素となる両妻面の連層耐震壁の性能を十分に発揮できるよう、梁や柱には溶接閉鎖形の高強度せん断補強筋を用いている。また、低層部壁のせん断破壊や建物全体のねじれが生じないように、低層階の壁には耐震スリットを入れる等で耐震強度と変形性能を両立させ、耐震性能のバランスを図っている（図1、図2）。

材料にはコンクリートFc36~Fc27、主筋SD390を用い、機械式継手、機械式定着を採用した。これは、鉄筋先組みで施工効率を上げることで躯体施工時の冬季積雪を避けることにも繋がっている（図3）。

連層耐震壁架構の安定のために重要な基礎梁では、マスコン温度対策として低熱セメントの使用や発熱を抑えるよう、細かくコンクリート打設の工区分けを実施している。また、地上部は特に入念に養生を行う等、コンクリートの品質管理を行っている(写真3)。

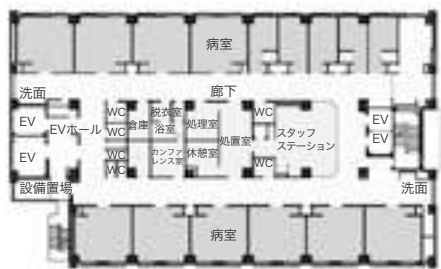


図 2 6 階平面図

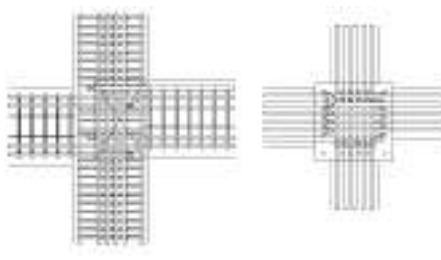


図3 鉄筋の配置検討

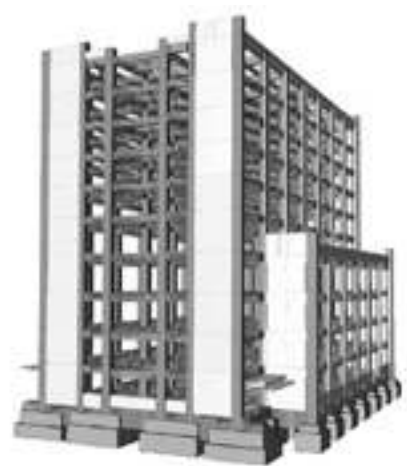


図1 構造BIMモデル

## 外観に関するその他構造の工夫

南側玄関吊り底には鋼管吊材や端部にクレビスを用いることにより、デザイン性と多雪区域の積雪量 2 m に対する安全性を両立させた。



写真4、図4 玄関吊底

屋外鉄骨階段は、RC柱内に埋込んだ鉄骨柱から片持梁で支持することにより、通常の露出したアンカーボルトを無くすことで壁面での発錆を抑えRC打放の美観にも配慮している。

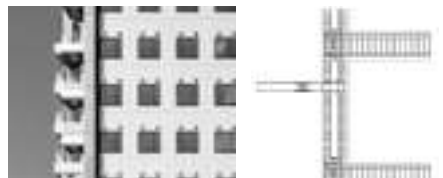


写真5、図5 屋外鉄骨階段

## ■ おわりに

打放の連層耐震壁という構造を積極的に外観デザインに取り込むことにより、両者が融合した重厚感のあるファサードを実現することができた。

## 〔建築概要〕

建築面積：1,421.31m<sup>2</sup>、延床面積：11,792.96m<sup>2</sup>

階数：地上10階、最高高さ40.47m

## 〔構造概要〕

地 上：鉄筋コンクリート造

東西方向 純ラーメン構造

南北方向 耐震壁付ラーメン構造

基礎：直接基礎（獨立基礎）、地盤改良

支持層：N値30の砂礫層

(ひらの こうじ)

## ●平野浩二

1963年生まれ。1990年株式会社大林組入社。

# Member's Forum

会員投稿の頁



U-35委員会企画

## talk baton 16 活動報告

talk baton とは…

若手プラットフォームづくりの活動の一環として、建築を取り巻く他分野のゲストがトークのバトンを繋げていくコミュニケーショントークイベントです。

建築をフィールドとする私たちと毎回のゲストとの対話を通じて、建築が本来持っている多様性やバイタリティを見つめ直し、これからの建築に求められる領域を探っていきます。

U-35委員会Facebookページ

活動内容やメンバーの雑感などざっくばらんに情報をアップしています。ぜひ一度お立ち寄りください。

<https://www.facebook.com/U35.aaj>



大阪から車で約2時間、真言宗の総本山高野山の奥の院にほど近い場所にあるゲストハウス「Kokuu」。今回のトークバトンは実際に高野山を観光し、ゲストハウスで一泊したのちに開催。高野山という特殊場所でゲストハウスを運営する高井氏に近年の宿泊業界の状況も踏まえ、時系列に沿って5つのセクションに分けて話を伺った。

### ■1：ゲストハウスへの着想

**高井** 高井と言います。あまりこういった人前で発表する経験がないので、今回私の話がみなさんの設計活動に何か参考になればいいなという軽い気持ちで話させてもらいます。地元が元々高野山で、大学卒業後は会社員として働いた後ロンドンで3年程海外生活していました。その後インドをバックパッカーとして放浪旅などをしている中で、高野山にはそういった旅行者が気軽に泊まれる施設が無いなと思いました。当時の高野山は宿坊しかなかったもので、ゲストハウスを作ろうという考えに至りました。それが2009年頃でしたが、まだその頃はゲストハウス自体日本にあまり多く無く、大阪・京都でも指で数えられる程度しかなかったと思います。そのため、ゲストハウスの先駆的な取り組みになっていたと思います。

### ■2：構想から完成までの軌跡

**高井** 幸運なことに、良い土地が見つかって建築家探しを始めました。最初はどこで探せばいいか全く分からず路頭に迷っていましたが、建築家の仲介サービスをお願いをして3人の建築家の方を紹介してもらいました。その中に実際に設計をお願いすることになるアルファヴィルの竹口さんがいました。他の2人は民家のリノベーションを提案してもらいましたが、高野山という長い歴史を持っている土地でリノベーションをしてもインパクトが弱いと思い、新築で何か高野山の新しいランドマークとなるような建築を提案してくれたアルファヴィルに決めることにしました。実際に設計をスタートしてしばらく経って、2011年の東日本大震災が起きました。その影響で観光客自体も激減したため、1年ほど事業をストップさせていました。建築材料も人手もないような状況で、本当に完成できるのか不安でしたが、そういった状況を逆手に取り2×4の規格角材を用いた工法を提案してもらったことで、今のゲストハウスの形が決まってきました。そして、2012年夏にオープンしました。

### ■3：高野山+ゲストハウス

**高井** 先にも話しましたが、当時は宿坊しかなかったのが本当にお客さんが来るのか不安でした。ただ結果的に高野山という土地にアイキャッチングな建築ができたのでオープン当初から注目を受けることになりました。それに早い段階で海外のブログや雑誌などで取り上げてもらったため、建築を目当てに泊まりに来る旅行者も多いです。高野山自体観光客の層としてインテリ系の本当に文化に興味がある人が多く、アジア系よりはヨーロッパ系の旅行者の割合が高いです。そしてヨーロッパ系の方はゲストハウス自体に慣れている人が多いです。公共的なエリアをみんな



ほぼトークのみで2時間弱 熱く語る高井氏



想像以上に周辺の住宅とスケールが溶け込んだゲストハウス



独特の雰囲気を持つ「奥の院」

シェアするマナーみたいなものを持っています。また宿坊とも客層が被ることがないことが分かりました。宿坊自体長期間の宿泊を想定していないこともありますし、一泊宿坊で泊まり一泊ゲストハウスで過ごすという感じに上手く協働、共生できています。

**質問** 海外向けのHPやサイトを出していたりするのですか。

**高井** サイトは出していますが、できた当時にロンリープラネットという海外の観光ブックに掲載させてもらったことの影響が大きかったと思います。今では自分でネットで調べて訪れる人が多くなっています。予約自体も現在は経由サイトからの予約が多く、個人経営のゲストハウスとしては手数料を取られることも痛手の一つになっています。

**質問** 宿泊者の割合は海外の方と日本の方ではどのような割合なのでしょう。

**高井** 8割くらいが海外の観光客になります。日本人は週末や大型連休しか動けないので、これはゲストハウスに限った話ではなく、日本全体の宿泊業界で言える話かもしれません。

#### ■4：変化する宿泊業界・変化しない高野山

**高井** 開業当時は関西でもゲストハウスの数は少なく、大阪で10件、京都でも20件程度だったと思います。まだ民泊という言葉もありませんでした。今では一つのブームになってしまい、ゲストハウスが街に溢れかえっています。また、ローカルな体験をできることをコンセプトにやっているゲストハウスも多くなってきていますが、コンセプト重視の業界になってきていると思います。「○○+ホテル」という形でブームになっています。普通のホテルでも共用スペースやライフスタイル型のホテルが多くなってきていると感じています。

一方で足りていないのが、本当の高所得者をターゲットにした価格帯のホテルだと思いま

す。一泊1万～2万の客室では高所得者の客層は満足しないことが多いようです。また、アジア系の観光客向けの価格帯はどちらかと言うと価格を抑えたものが多いため、同価格帯のゲストハウスを圧迫してきている状況もあります。チェーン展開している事業者には個人経営のゲストハウスは太刀打ちができないためゲストハウス側が価格を下げる必要があります。京都などの都会の観光地では厳しい状況が続いています。

しかし、高野山では土地の管理を金剛峯寺が行っているため、不動産さんがありません。そのため大規模なホテルや開発がしにくい環境があります。結果的に高野山では小規模の宿泊施設にとって、安定した経営ができる状況が生まれていると感じています。

**質問** 現状高野山の中でゲストハウスは他にないのですか。

**高井** 少しずつ増えてきており、新規参入自体は高野山の宿泊キャパシティが上がることに繋がるため良いことだと思っています。

**質問** 不動産さんがいないことで、新規参入がしづらい状況ではないのでしょうか。

**高井** 新規参入はほとんど地元の人がメインとなっています。最近できたゲストハウスも元々マンションだったものを改修しています。人口が徐々に減っている高野山の状況に合った形で建物の用途が変化していつていると感じています。

#### ■5：今後の宿泊業界についての展望

**高井** 宿泊客の目も肥えてきており、ホテル自体もそれに合わせて色々変化している部分も多くなってきていると思います。ホテルではドミトリタイプより個室タイプが多くなっています。宿坊も変化しており、寺に泊まること自体に抵抗を感じる観光客も多いようで、宿坊にベッドを置いたり、ダイニングテーブルを置いたりしています。そうした宿

泊客の要望に合わせて変化することがすべて正しいとは考えていません。寺に泊まるという異質な体験を求めてくる観光客も多いと思うので、そうしたニーズも大切にすべきだと考えています。

**質問** 世界遺産に登録されることで観光客で溢れて景観や風紀が乱れる観光地も多くあるが、高野山はそういった印象がない。それはなぜだと思いますか。

**高井** 最近では世界遺産だからという理由で来る観光客も少なくなっているのではないかと考えています。「世界遺産」というワード自体弱くなっているのではないかと思います。高野山の場合、簡単に立ち寄ることができるような立地でないことも影響しているかもしれません。ただ、逆にそういった立地が舞台性を持たせており、山を越えてケーブルカーに乗り山の上に街が広がっているという点が観光客を呼ぶ要因にもなっています。また弘法大師が今でもお祈りをしているという信仰性も魅力の一つになっていると思います。

**質問** 最後に建築家と協働してどのような経験になったか教えてもらえますか。

**高井** 建物自体にはとても満足しています。アルファヴィル自体が竹口さんと奥さんの二人でやられていることも良かったです。女性の目線での意見や竹口さんの言っている事を翻訳してくれたりとやりやすかったです。竹口さん自身の高野山に名所を作ろうという熱意が非常に伝わったので、そういった熱量を共有できた事は非常にいい経験になりました。

(文責：粉川)



集合写真

#### talk baton 16 を終えて

長年ゲストハウスを運営してきた高井氏の経験や知見を共有できたことで、我々設計者が考えるべき視点を増やすことができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

対 談 日：2019.09.29  
場 所：高野山大学（高野山町）  
モデレーター：粉川壮一郎  
(安井建築設計事務所)



2×4の角材が連続した内部空間・朝には日差しも差し込む



雲海などの雄大な自然を体験できることも魅力の一つ

## 1

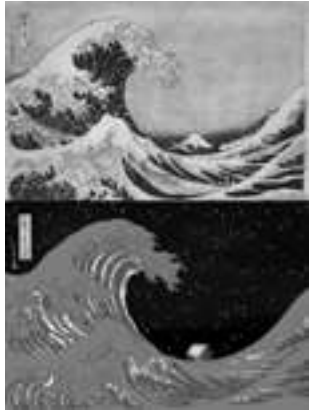
### 古典×現代2020 時空を超える日本のアート

国立新美術館では、国際的な注目が東京に集まる2020年に、古い時代の美術と現代美術の対比を通して、日本美術の豊かな土壌を探り、その魅力を新しい視点から発信する展覧会が開催される。

展覧会は、江戸時代以前の絵画や仏像、陶芸や刀剣の名品を、現代を生きる8人の作家の作品と対になるよう組み合わせ、一組ずつ8つの展示室で構成する。古典側は曾我蕭白、尾形乾山、円空、仙厓義梵、葛飾北斎ら誰もが知る巨匠の作品や、鎌倉時代の仏像、江戸時代の花鳥画、刀剣の名品を選出。現代側は、川内倫子、鴻池朋子、しりあがり

り寿、菅木志雄、棚田康司、田根剛、皆川明、横尾忠則ら、今の日本を代表するクリエイターたちの造形が選ばれた。

現代作家たちの仕事と過去の名品との関係はさまざまである。展覧会では、世界観や主題、造形、制作方法の類似を示すだけでなく、先達から得たインスピレーションや、誰もが知るイメージに基づくパロディ、古い作品を取り込んだインスタレーションなど、過去の偉業に積極的に関与していく現代の作家たちの姿にも焦点を当てる。



画像上：葛飾北斎  
《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》  
江戸時代・19世紀  
和泉市久保惣記念美術館

画像下：しりあがり寿  
《ちょっと可笑しなぼろ三十六景  
太陽から見た地球》  
2017年 作家蔵

展示期間：いずれも5/8～6/1

期 間 3月11日(水)～6月1日(月)  
10:00～18:00  
(金・土曜日は20:00、5/30は「六本木アートナイト2020」開催にともない22:00まで)  
※入場は閉館の30分前まで  
休 館 日 火曜日(ただし5/5は開館)、5/7  
会 場 国立新美術館 企画展示室2E  
東京都港区六本木7-22-2  
TEL.03-5777-8600 (ハローダイヤル)  
観 覧 料 一般1,700円、大学生1,100円、高校生700円  
\*中学生以下無料  
\*障がい者手帳等をお持ちの方とその介助者1名は無料  
\*3/20-22は高校生無料観覧日(要証明)

## 2

### 日本・ポーランド国交樹立100周年記念 ポーランドの映画ポスター

第二次世界大戦の終結以来、コミュニズムの道を歩むこととなったポーランドにあって、1950年代の中期から社会主義リアリズムを脱却し、新世代のアーティストによる自由な表現がもっとも推し進められたのが映画とグラフィック・デザインという二つの分野であった。アンジェイ・ワイダやイエジ・カヴァレロヴィチなどの監督を世界に知らしめた映画界、そして表現の斬新さで国際的に注目されたポスター芸術、その両方に「ポーランド派」という呼び名が与えられた。なかでも映画ポスターにおいてはロマン・チェシレヴィチ、ヤン・ムウォドジェニツなどの抜きん出たデザイナーたちが活躍し、映画から受けたインスピレーションを、隠喩に満ちた自在な表現へと実らせた。

本展覧会では、京都国立近代美術館と国立映画アーカイブの共催により、日本とポーランドの国交樹立100周年を記念する企画として、1950年代後半から1990年代前半までに制作された、国立映画アーカイブ所蔵品を中心とする96点の映画ポスターが紹介される。ポーランド映画のポスターはもちろん、ヨーロッパ各国の作品やアメリカ映画、さらには日本映画のポスターも含め、映画とグラフィックの出会いから生まれる、時に優雅で、また時には緊張を湛えたポスターアートの数々が堪能できる。



『暗殺の森』ポスター：  
ヤン・ムウォドジェニツ  
(1974年)  
神奈川県立近代美術館所蔵  
(撮影：市瀬真以)

期 間 3月17日(火)～5月10日(日)  
※会期中、作品の一部展示替えあり  
前期展示：3/17-4/12 後期展示：4/14-5/10  
9:30～17:00(金・土曜日は20:00まで)  
※入館は閉館の30分前まで  
休 館 日 月曜日(ただし5/4は開館)  
会 場 京都国立近代美術館  
4階コレクション・ギャラリー  
京都市左京区岡崎円勝寺町  
TEL.075-761-4111  
観 覧 料 一般430円、大学生130円  
\*高校生以下、18歳未満、65歳以上の方無料  
\*障がい者手帳等をお持ちの方とその介助者1名は無料

3

コートールド美術館展  
魅惑の印象派



エドゥアール・マネ《フォリー＝ベルジェールのバー》1882年  
油彩、カンヴァス コートールド美術館  
© Courtauld Gallery (The Samuel Courtauld Trust)

ロンドンのコートールド美術館は、イギリスが世界に誇る印象派・ポスト印象派の殿堂である。マネ最晩年の傑作《フォリー＝ベルジェールのバー》、ルノワールが第一回印象派展に出品した記念碑的作品《栈敷席》、セザンヌ《カード遊びをする人々》、ゴーガン《ネヴァーモア》など巨匠たちの代表作がずらりと並ぶ。それらが貸し出されることは滅多にないが、このたび美術館の改修工事のために多くの名作が来日することになった。美術館の創設者サミュエル・コートールド（1876-1947）はイギリスの実業家で、卓越した審美眼を持つコレクターでもあった。フランス近代絵画の魅力を母国に伝えたいと、1920年代を中心に、精力的な収集を行う。1932年、ロンドン大学に美術研究所が創設されることが決まると、コレクションを寄贈。研究所はコートールド美術研究所と名付けられ、その展示施設としてコートールド美術館が誕生した。本展では、その研究機関という側面にも注目し、美術史研究や科学的調査の成果を取り入れながら、作品を読み解いていく。

期 間 3月28日(土)～6月21日(日)  
10:00～18:00  
(金曜日は20:00、土曜日は21:00まで)  
※入館は閉館の30分前まで

休 館 日 月曜日(ただし5/4は開館)、5/7

会 場 神戸市立博物館  
神戸市中央区京町24  
TEL.078-391-0035

観 覧 料 一般1,500円、大学生750円  
\*神戸市在住で満65歳以上の方は750円(要証明)  
\*高校生以下無料  
\*障がい者手帳等をお持ちの方は無料

4

神田日勝 大地への筆触

北海道の大地で、農業に従事しながら絵を描き続けた孤高の画家、神田日勝。

2020年は、神田日勝の没後50年にあたる。これを記念して、東京では42年ぶりの個展となる大規模な回顧展が開催される。

愛情を込めて育てた馬を病気で死なせたという、少年時代の記憶が色濃く影を落とす《死馬》、労働者としての自分と画家としての自分を重ねあわせ、息が詰まるような閉塞的な空間の中に自らの顔を描いた《一人》、画家として心ゆくまで絵を描きたいと願いながら、農業との両立で常に葛藤を抱えていた日勝の、内面の不安を描き出したかのような《室内風景》、そして最後の作品となった半身の《馬(絶筆・未完)》など、神田日勝の作品には、生きることと、描くことが、ひとつであった画家の、喜びや悲しみ、誇りと苦悩がにじみ出ている。

本展は、代表作を網羅して、日勝芸術の全貌を提示しようとするものである。大きな変貌を繰り返した日勝の芸術的展開をつぶさに追うことができる展覧会となることだろう。



《馬(絶筆・未完)》1970年  
神田日勝記念美術館

期 間 4月18日(土)～6月28日(日)  
10:00～18:00(金曜日は20:00まで)  
※入館は閉館の30分前まで

休 館 日 月曜日(ただし5/4、6/22は開館)

会 場 東京ステーションギャラリー  
東京都千代田区丸の内1-9-1  
TEL.03-3212-2485

観 覧 料 一般1,100円、高大生900円  
\*中学生以下無料  
\*障がい者手帳等をお持ちの方は100円引き、  
その介助者1名は無料

本欄掲載の1～4の美術館等の招待券ご希望の方は、電話等で申し込み後、招待券送付用の切手(84円)を日本建築協会事務局までお送りください。

## 常任理事会

## 第6回常任理事会

1月22日(水) 16:00~17:20

日本建築協会会議室

出席者 設楽会長ほか5名

- 議 事 (1) 6月総会講演会の講師  
 (2) 「建築と社会」活性化WGの検討経過  
 (3) 協会主催「ドバイ万博視察」  
 (4) 第3回片岡安賞「日本建築協会論考コンクール」  
 (5) 改正民法施行に伴う契約約款の改正  
 (6) 大阪都市景観建築賞受賞作品決定  
 (7) 「建築と社会」2020年1月号からの表紙  
 (8) 在阪建築15団体新年交礼会  
 (9) 2020年役員会の日程

## 編集委員会

## 第10回広告企画・編集合同委員会

1月14日(火) 17:30~18:50

日本建築協会会議室

出席者 勝山委員長ほか4名

- 議 事 (1) 2月号特集 第26回私の空間作法  
 (2) 3月号特集 東海支部特集  
 (3) 4月号特集 特別編集委員会特集  
 建築教育の今(仮)  
 (4) 5月号特集 つなぐ(仮)  
 (5) その他 2020年表紙の選考

## 第2回建築計画系分科会

1月20日(月) 19:00~20:30

日本建築協会会議室

出席者 東幹事ほか7名

- 議 事 (1) 2020年特集の企画

## 第7回構造分科会

1月23日(木) 18:30~20:00

日本建築協会会議室

出席者 宇野幹事ほか7名

- 議 事 (1) 「構造の頁」の企画  
 (2) 2020年特集の企画

## 第9回設備分科会

1月8日(水) 18:00~19:30

日本建築協会会議室

出席者 橋本幹事ほか8名

- 議 事 (1) 「設備の頁」の企画  
 (2) 2020年特集の企画

## 第5回施工材料分科会

1月21日(火) 17:00~18:00

日本建築協会会議室

出席者 藤丸幹事ほか6名

- 議 事 (1) 委員交代  
 (2) 2020年特集の企画

## 第9回法令分科会

1月15日(水) 15:00~17:00

日本建築協会会議室

出席者 福岡幹事ほか5名

- 議 事 (1) 法令コーナーの企画  
 (2) 2020年特集の企画

## 事業委員会

## 第6回情報見学小委員会

1月9日(木) 18:05~19:15

日本建築協会会議室

出席者 中尾委員長ほか7名

- 議 事 (1) 本年度事業  
 (2) 来年度事業  
 (3) 2020年在阪建築15団体合同新年交礼会実施報告  
 (4) 海外研修ドバイ万博

## 出版委員会

## 第9回出版委員会

1月27日(月) 18:30~19:35

日本建築協会会議室

出席者 西委員長ほか5名

- 議 事 (1) 既刊書籍経過報告  
 (2) 制作進行中の書籍  
 (3) 今後の出版テーマ  
 (4) 建築セミナー

## 教育委員会

## 第2回工高生教育小委員会

1月22日(水) 18:05~19:20

日本建築協会会議室

出席者 谷口小委員長ほか3名

- 議 事 (1) 第65回工高生デザインコンクール  
 実施報告  
 (2) 第66回工高生デザインコンクール  
 募集規定の検討  
 (3) 委員の交代

## 第6回史料研究会

1月29日(水) 18:30~19:45

日本建築協会会議室

出席者 橋寺委員長ほか6名

- 議 事 (1) 協会誌での連載

## 第10回大阪府住まい・まちづくり普及協議会

1月17日(金) 10:30~12:00

大阪建築会館会議室

報告・議題

- (1) 出前講座  
 (2) 補助金  
 (3) その他

## 未来創生プロジェクト

## 第9回建築次世代委員会

1月24日(金) 18:40~19:55

日本建築協会会議室

出席者 菅原委員長ほか4名

- 議 事 (1) 学生のための現場見学会 見学先  
 候補選定  
 (2) 見学会案内ポスターデザインの検討

## 第13回2040委員会

1月8日(水) 19:30~

PARK Lab.

出席者 駒井リーダーほか6名

- 議 事 (1) 企画内容  
 (2) 今後の委員会活動

## 第10回U-35委員会

1月21日(火) 19:30~

大建設計会議室

出席者 高畑リーダーほか6名

- 議 事 (1) 活動/予定  
 (2) 次回予定/その他

## 第11回U-35委員会

1月27日(月) 19:30~

PARK Lab.

出席者 高畑リーダーほか11名

- 議 事 (1) 活動/予定  
 (2) 次回予定/その他

## 見学会

## 京都スタジアム(仮称)見学会

1月28日(火) 14:00~16:30

- 講 師 ㈱東畑建築事務所 第4設計室室長  
 上羽一輝氏

委 員 情報見学小委員会 脇田委員ほか4名

参加者 42名

## 講習会

## 2019年度建築工事実務講習会

1月16日(木) 9:00~17:30

大阪府建築健康会館6Fホール

- 講 師 ㈱浅沼組 谷本達哉氏  
 ㈱竹中工務店 永野浩一氏  
 ㈱大林組 山口紀宏氏

参加者 64人

## 審査会

## 論考コンクール第2回審査委員会

1月14日(火) 19:00~20:50

日本建築協会会議室

出席者 審査委員 舟橋國男審査委員長ほか5名  
協会関係 吉村常任理事ほか1名

- 議 事 (1) 第1次審査  
 (2) 公開プレゼンテーション  
 (3) 最終審査委員会  
 (4) 打ち上げ懇親会

## 実行委員会

## 論考コンクール第2回実行委員会

1月10日(金) 18:00~20:05

日本建築協会会議室

出席者 吉村実行委員長ほか5名

- 議 事 (1) 審査委員案・テーマ案  
 (2) 今後の日程

## 編集委員会(2019年度)

## ■副会長

米井 寛

## ■編集担当理事

木谷 晃之

○勝山 太郎

佐藤 榮一

竹中 統一

西 博康

松崎 公一

船越 淳久

吉村 英祐

○戸川 勝之

## ■特集小委員会

○戸川 勝之

## ■計画分科会

★計画系

飯田 匡

鈴木 克彦

△田中 直人

松田奈緒子

守井 辰

吉村 英祐

奥田 英雄

桑原 悠樹

下坂 浩和

△東 拓郎

樋口 展寛

松岡 英緯

三谷 帯介

米山 剛史

渡部 剛

## ★インテリア・住宅系

赤川貴世友

東 奈生子

今井 充彦

岩田 圭司

川合 隆之

河西 孝平

△黒柳 亮

塚口 洋之

ペリー史子

## ■構造分科会

△宇野 綾真

岡田 健

岸本 光平

古島 正博

正野 和司

瀧野 敦夫

竹本 孝輔

萩原 学

宮久保秀樹

向井 洋一

## ■設備分科会

有尾清二郎

木谷 晃之

北野 勝也

佐々木章二

寺井 千佳

夏井 重行

△橋本 直樹

梶井 貴廣

宮崎ひろ志

森山 正和

山本 雅洋

## ■施工材料分科会

門野 陽

桜井 和男

秋竹 教行

△藤丸 啓一

山口 紀宏

河合 智寛

吉田 正友

吉居 哲

## ■法令分科会

岡田 耕介

垣内 明

河野 学

高田 大輔

△福岡 啓顕

## ■作品作風小委員会

▲東井 嘉信

居内 章夫

池上 明

稲垣 和江

太田 栄治

加嶋 章博

菊池 浩輔

倉渕奈千子

澤田 純一

高木 秀晃

鞆野 淳司

西田 佳代

芳谷 晴彦

平野 尉仁

増田 敬彦

## ■広告企画小委員会

小川 雄介

金築 雄

小山 昭

野山 将男

藤田 昌宏

▲前田 衛

山辻 直樹

(順不同)

○委員長

○副委員長

▲小委員会委員長

△幹事

印刷 2020年2月26日

発行 2020年3月1日

発行人 一般社団法人日本建築協会

大阪府中央区大手前1-7-31

電話 06-6946-6981

印刷所 ㈱中島弘文堂印刷所

定価 1254円(税込)

©「建築と社会」誌の記事の無断転載を禁じます

**お客様の抱える問題やニーズに  
より速やかに、より丁寧に対応できるように**

企画・デザイン、制作、製版、印刷

**株式会社 中島弘文堂印刷所**

本 社 〒537-0002 大阪市東成区深江南2丁目6番8号  
TEL.06-6976-8761 / FAX.06-6976-8765

東京支社 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1丁目4-2 風雲堂別館ビル2階  
TEL.03-3526-5580 / FAX.03-3526-5582

<http://www.n-kobundo.co.jp/>

地球環境を守り、100年建築に貢献する

**NACL** のアルミ表面処理

**株式会社 日本電気化学工業所**

<http://nacl.jp> E-mail: [sc@nacl.co.jp](mailto:sc@nacl.co.jp)

本部営業部 〒560-0036 大阪府豊中市蛍池西町2丁目7番26号 NACLビル2階

TEL (06)8843-1235(代) FAX (06)8853-1832

東京事務所 〒111-0051 東京都台東区蔵前2丁目4-7

TEL (03)3862-0978(代) FAX (03)3862-7098

## 年間広告のご案内

会誌「建築と社会」では、後付部分に  
広告スペースを設けております。

1年を通じて、社名広告を掲載されませんか？

**掲載期間：**4月号～翌年3月号までの1年間

**掲 載 料：**48,000円（消費税込み）

**サ イ ズ：**1/12頁（タテ40mm×ヨコ90mm）

※毎月掲載誌をご送付します。

※原稿は1年間同じ原稿を使用します。

お問い合わせ先

一般社団法人 日本建築協会 内山・井筒

TEL : 06-6946-6981 FAX : 06-6946-6984 E-mail : [koukoku@aj.or.jp](mailto:koukoku@aj.or.jp)

日本建築協会

会告

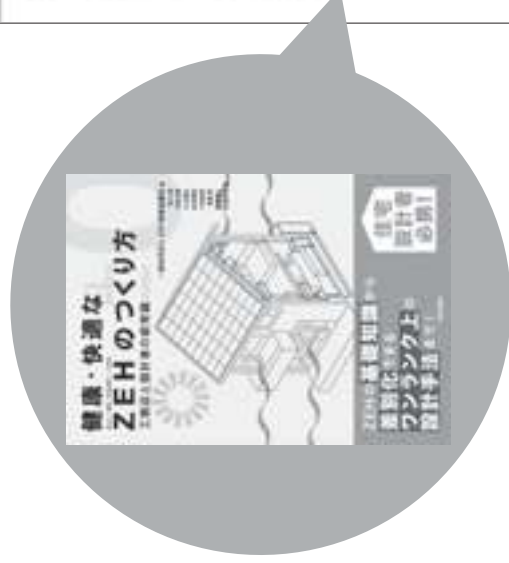
## ◆第6回 建築セミナー◆

主催：日本建築協会出版委員会 共催：学芸出版社

日本建築協会出版委員会では、「建築の本」の著者をお招きし、手軽にご参加いただける連続セミナーを開催しています。第6回は『健康・快適なZEHのつくり方』共著者のお一人でZEH分野で幅広くご活躍されている松尾和也様をお招きして実施いたします。お気軽にご参加ください。

# 健康・快適なZEHのつくり方 工務店と設計者の新常識

講師：松尾和也 氏



『健康・快適なZEHのつくり方』

急速に普及するネット・ゼロ・エネルギー

ー・ハウス：ZEH。本書は、その概要と関連諸制度、高断熱住宅設計の第一人者による具体的な設計指南など設計に役立つ内容はもちろん、快適性や健康効果の解説など施主のニーズを引き出す知識も丁寧にまとめた。全国の工務店の先進事例も掲載。住宅産業界で他社と差別化するには必携の一冊

〈講師プロフィール〉

**松尾和也**（まつお・かずや）  
1998年九州大学工学部建築学科卒業。㈱松尾設計室代表取締役、（一社）パッシブハウスジャパン理事、JIA登録建築家APECアーキテクト。「健康で快適な省エネ建築を経済的に実現する」ことをモットーに、設計活動の他、住宅専門紙への連載や「断熱」「省エネ」に関する講演も行う。

このセミナーは、建築CPD情報提供制度認定プログラム申請中です。建築関連CPD（2単位）

日 時：2020年5月28日(木)

18：00～20：00（17：45開場）

場 所：TOTOTekニカルセンター大阪  
大阪市中央区久太郎町3-6-8御堂筋ダイワビル2階 地下鉄本町駅から徒歩4分

参加費：テキスト購入＋受講4200円  
受講のみ1500円（※日本建築協会会員と学生はテキスト購入＋受講3700円、受講のみ1000円）

定 員：50名

使用テキスト：『健康・快適なZEHのつくり方』  
B5変・152頁・定価 本体2800円＋税

※当日はテキストを税込3080円⇒税込特価2700円で販売します。

【申込み方法】

下記を記載の上、メールもしくはFAXにてお申込ください。

①催し名(第6回建築セミナー)②氏名(ふりがな)③所属④会員・一般・学生の別⑤当日の書籍購入希望の有無⑥受講票郵送先住所⑦電話番号⑧E-mail アドレス⑨CPDを申請される方は申請先団体名と番号  
申込先：（一社）日本建築協会 TEL 06-6946-6981 FAX 06-6946-6984  
E-mail: hensyu2@aaj.or.jp (担当：入谷)

